

561  
48

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5

始



8.12.26

大  
法  
學  
博  
士  
長  
橫  
田  
秀  
雄  
序

判  
事  
大  
橋  
九  
平  
治  
編

# 刑事判決書研究 全

東京 一星社



# 刑事判決書研究

(附判例)

全

大正  
15. 10. 21  
内交

法大  
學博  
院士  
長  
橫田  
秀雄  
序  
東京  
地方  
裁判  
所  
大橋  
九平  
治編

東京 一星社發行

## 序

考證思索ハ學術研究ノ要諦ナリ、考證ハ眞理ノ發見ニ資スヘキ  
 既存ノ材料ヲ蒐集シ、先覺者ノ知見ヲ參酌考覈シテ自己ノ知識  
 ヲ涵養シ以テ、研究ノ功程ヲ促進スルヲ目的トシ、思索ハ研究者  
 固有ノ創意ト其獨自ノ考案トニ依リ、其研究ヲシテ特色ヲ發揮  
 セシムルト同時ニ、先人未發ノ眞理ヲ開發シ、學術ノ進歩發達ニ  
 貢獻スルヲ以テ目的トス、學術ノ研究ニ志ス者、專ラ思索ノミニ  
 従事シ考證ヲ忽ニスルトキハ、勞多クシテ功少ナキノミナラス  
 動モスレハ獨斷定教ニ陥リテ眞理ノ發見ニ遠サカルノ悔アリ  
 又考證ノミヲ事トシ思索ヲ怠ルトキハ、其研究ノ品位ヲ傷ケ學

術ノ進歩發達ニ益スル所鮮ナシ、故ニ學術ノ研究ハ考證ト思索ト相俟テ始メテ完キコトヲ得ヘキモノニシテ、研究ニ志ス者ノ須臾モ忘ル可カラサルノ事ナリトス。

近者東京地方裁判所判事大橋九平治氏各裁判所ニ於テ言渡サレタル刑事々件ノ判決中ニ於テ其最モ模範的ナルモノヲ選擇シ之ヲ蒐集編次シテ、本書ヲ著ハシ之ヲ世ニ公ニセントス、蓋シ氏カ司法官試補タリシ當時ノ實驗ニ鑑ミ、司法官タラントスル人ノ爲メニ刑事ノ判決文ノ起案ニ關スル修習ニ便セントスルモノニシテ、後進者ノ爲メニ有益ナル參考ノ資料ヲ供シテ研究ノ要諦タル考證ノ道ヲ開クモノト謂フヘク、我司法部ニ志ス者一面本書ヲ參考トシ他面ニ於テ其獨創ノ見解考案ヲ加味シテ

思索ヲ怠ルコトナケレハ刑事裁判ノ骨子ニシテ而カモ最モ重要ナル形式タル判決文ノ作成ニ於テ大ニ得ル所アルヘキハ余ノ信シテ疑ハサル所ナリ

大正十五年九月

横 田 秀 雄

## 自叙

夫レ裁判ハ、人ノ生活ヲ左右スヘキ唯一國家ノ意思ナレハ、妄ニ形式又ハ感覺ニ拘泥セス、最モ事實ノ認定ニ付心血ヲ濺キ、其完備ニ周到ナラサルヘカラス。

抑モ、凡百ノ事件ハ、夫々特色ヲ有シ、自ラ利害得失ヲ異ニスルヲ以テ、一朝一夕ニ之ヲ斷スルコトヲ得サルモノトス、隨テ、譬令、同一事件同一内容同一事實同一當事者同一法律關係ニアルト雖、同様ノ判斷ヲ下スヘキモノニアラサルコトハ、毫末モ疑フノ餘地ナシ、況ヤ、情實纏綿タル人事事件ニ於テ、尙且然リ。殊ニ、方今ノ如キ世想ノ激變ヲ見ルニ當リテハ、一層實體的眞實ヲ發見スル

コト亦容易ナラサルモノト思考ス。斯様ニ、裁判ハ至重至難ノモノナリ、而シテ之カ効力ヲ發揚スル所ノモノハ判決書ナリ。判決書ハ、即チ裁判ノ發動ヲ完カラシムルモノニシテ、裁判ニ追従スル重要ナル形態ナリ。故ニ之カ作成ニハ、須ク、最善ノ努力ヲ拂ハサルヘカラス。而シテ判決書ハ、素ヨリ一定ノ規範アルナク、之カ作成ニ付、法規ヲ脱却セサル限り、他ヨリ干涉セラルヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ、作成者ハ舊慣ニ囚ハレス、宜シク所信ニ向テ、銳意努力シ、最良ノ方式内容ヲ案出スルハ、洵ニ自由ナリ。然レトモ、判決書ハ人權ヲ確保スル唯一國家ノ意思表示ナレハ、最モ森嚴ニシテ完美タルコトヲ要スルハ、敢テ論ヲ俟タサルトコロナリ。若シ夫レ判決書ニシテ順序方法ヲ誤リ粗雜冗長ニ流レ

ンカ、裁判ノ趣旨孰レニアルカヲ疑ハシメ、真正ナル裁判ノ效力ニ影響ヲ來シ、延テハ國家ノ威信ヲ失墜スルコトナシトセス。然レハ、之カ作成者ハ濫ニ新ヲ好ミ、徒ニ積年ノ研鑽ヲ經タル舊慣ヲ捨ツルカ如キ、輕舉妄動ニ出テサルコトヲ慎ミ、慎重審議其順序並ニ要領摘示ニ留意シ、文章ノ平易簡潔ヲ計リ、以テ一讀明瞭タラシメサルヘカラス。凡ソ、判決書ノ至難タルコトハ今更余カ牒々スルコトヲ要セサレトモ、殊ニ初陣ノ余ハ、尤モ之ニ腐心スル所ナリ。然ルニ刑事判決書ニハ好參考書ニ乏シク、且ツ、諸先輩ノ指示ニ鑑ミ、特ニ新刑事訴訟法實施後各裁判所ノ珍ラシキ判決書ヲ蒐集シ、各判決書毎ニ夫々新判例並ニ學說ヲ附記シ、尙ホ、最近大審院ノ重要ナル判決及事實審理ヲ數十件選擇シ、原文ハ



其儘ナルモ住所氏名ヲ變更シテ編纂シタリ。之レ一面ニハ判決書ノ的トナリ、他面ニハ、裁判ノ參考資料トナラハ、編者ノ幸甚トスル所ナリ、編者素ヨリ、菲才淺學ニシテ未タ盡ササル所多シ、或ハ之カ採擇ニ、或ハ編纂方法等ニ、誤謬ナシトセス、仰キ希クハ、先輩諸彦ノ御教示ヲ賜ランコトヲ切望ス。

本書ヲ編纂スルニ際シ、特ニ大審院長法學博士横田先生ノ賛意ヲ仰キタルハ、余ノ最モ光榮トスル所ナリ。

大正十五年九月

大橋 九平 治 識

總 說

判決書ハ國家ノ意思表示ナルヲ以テ最モ簡易正確ヲ要シ判決書自體ニ依リテ一目瞭然タラサルヘカラス、若シ判決書ニ難解冗語ノ文字ヲ羅列シ順序ヲ轉倒シ或ハ必要事項ヲ遺脱シ或ハ妄リニ當該記錄意外ノ他ノ事項ヲ引用スルトキハ單ニ之カ錯綜ヲ醸スノミナラス其效力ヲ妨クルモノトス。

判決書ハ判決當時ニ作成スルコトヲ原則トスレトモ判例及學說ニヨレハ判決宣告後ニ於テ之ヲ作成スルモ妨ケサルモノトス、從テ判決ヲ宣告スルニハ判決書ノ草案ニヨルモ違法ニ非ス(刑、訴、三六一、六六五、二項參照)判決書作成ニ就テハ刑事訴訟法第四十九條第六十九條乃至第七十二條第三百六十一條等ノ規定ニ準據スヘキハ勿論ナレトモ判決書ニハ素ヨリ一定ノ規範アルナク法定要件ヲ具備スル限リ其方式如何ハ實ニ自由自在タルモノト謂フヘシ然レトモ判決書ニ記載スヘキ方式ハ通常左記ノ如シ。

- 一、判決(表題)
- 二、被告人ノ本籍、住居
- 三、被告人並其年齡、身分、職業
- 一、事件名、關與檢事ノ官氏名及當裁判所
- 一、主 文

一、理由

一、法律ノ適用

一、年月日

一、裁判所

一、判事署名捺印

被告人ノ本籍、住居、身分、職業、氏名、年齢ハ孰レモ被告人ノ同一性ヲ表示スル爲メニ記載セラルヘキ必要事項ナリ、其他本籍身分ハ法文ニハ之ヲ認メサレトモ本籍ハ前科ノ有無、身分ハ訴訟手續上住居ハ管轄ノ有無年齢ハ違法阻却及少年法ノ各關係ニ影響ヲ及ホスヘキ副作用ヲ有ス、尙通常身分カ平民タル場合ニハ特ニ之ヲ記載セス(獨逸ハ總テノ身分ヲ記載ス)右事項ハ孰レモ判決宣告當時ヲ基準トス、宣告日ハ司法省ノ訓令ニ依リ書記ヲシテ判決書ニ之カ記載ヲ爲サシムルモノナレハ至テ明白ナリ。

(一) 事件名

罪名ハ如何ナル事件ニ就キ判決ヲ爲シタルカヲ明確ニスルカ爲ニ表示セラルルモノ即チ權利拘束ノ效果發生ニ就キ必要ナル事項ナリ、權利拘束ハ裁判所ニ於テ公訴事件ヲ受付ケタルトキ(受件簿ニ事件ヲ記入シタルトキ)ニ發生ス、判決書ニハ如何ナル罪名ヲ表示スヘキヤハ場合ニヨツテ異ル

(イ) 檢事ヨリ直接公判ヲ求メタルトキハ公判請求書記載ノ罪名

(ロ) 豫審ヲ經由シタルトキハ豫審終結決定書ノ主文記載ノ罪名

(ハ) 若シ其主文カ省略サレタルトキハ豫審終結決定書記載ノ犯罪事實ヲ摘示セサルヘカラサルモ其事實ニシテ豫審請求書記載ノ罪名ト同一ノモノナルトキハ其罪名ヲ表示スルモ誤リナカルヘシ

(一) 關與檢事

檢事ハ公判ヲ爲スヘキ構成部員(刑、訴、三二九、二項參照)ナルヲ以テ必ス關與檢事ノ官氏名ヲ記載セサルヘカラス(刑、訴、六九、二項)例令檢事カ交互又ハ數名同時ニ關與シタル場合ニ於テモ其内一名ヲ記載スルヲ以テ足ル(檢事同一體ノ原則)若シ關與檢事ヲ全然除外セハ上告理由トナル(刑、訴、四一〇、一號)

(一) 當裁判所

當裁判所ノ表示ハ舊刑事訴訟法(二〇五)ニ於テハ之ヲ要シタレトモ現行法ハ之ヲ認メサルヲ以テ必要事項ニハ非サレトモ慣例上之ヲ表示ス、然シ判決書ノ末尾ニ記載セラルヘキ何々裁判所ハ所屬官署ノ表示ニシテ前記ノ當裁判所トハ何等ノ關係ヲ有セサルモノナリ。

(一) 主 文

主文ハ判決ノ本體ニシテ判決ノ確定力ヲ生スヘキ重要事項ナリ、特ニ主文タル字句ヲ要セサレトモ條文(刑訴、五一、二項)ニ之ヲ認メタルヲ以テ其字句ヲ使用シタル所以ナリ、判決ハ宣告ニ依テ其ノ效力ヲ生スルモノナレトモ(刑、訴、五〇)判決ノ宣告ヲ爲スニ必ス主文ヲ朗讀スルコトヲ要スルヲ以テ(刑、訴五一、二項舊刑、訴、二〇四、二項民、訴、二三四參照)主文ナキ判決ノ宣告ハアリ得ヘカラサル道理ナリ、假ニ之レ在リトスモ夫ハ違法ナルカ故ニ其ノ宣告ハ無効ノモノト解スヘキナリ、故ニ判決ハ其主文ト宣告トカ相俟テ其效力ヲ完備スルモノト謂ハサルヘカラス、若シ主文ノ朗讀ヲ誤テ宣告シタルトキハ此點ニ付テ殆ト立證ノ餘地ナキヲ以テ(刑、訴、六四)他ノ手續ニ依ルハ格別違ニ主文ヲ無視スルコトヲ得サルモノト解ス、而シテ主文ニ記載スヘキ事項ハ事件又ハ審級ノ異ルニ從テ一様ナラサレトモ大體左記ノ如シ。

(1) 原 審

- 一、刑名(刑、訴、三五八、一項)
- 一、刑ノ執行猶豫(刑法二五、刑、訴、三五八、二項)

- 一、勾留日數ノ通算(刑法二〇、刑、訴、五五六)
- 一、罰金及科料不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置(刑法一八、刑、訴、五五四)
- 一、沒收及還付(刑法一九、刑、訴、三七二、一項、五五四、三七三、一項參照)
- 一、追徴(刑法一九七、二項)
- 一、訴訟費用(刑、訴、二三七、二三八)
- 一、刑ノ免除(刑、訴、三五九)
- 一、免訴ノ全部又ハ一部(刑、訴、三六三)
- 一、無罪ノ全部又ハ一部(刑、訴、三六二)
- 一、管轄違(刑、訴、三五五)
- 一、公訴棄却ノ全部又ハ一部(刑、訴、三六四)

(2) 控 訴 審

- 一、原審記載事項(刑、訴、四〇七)
- 一、控訴棄却 刑、訴、四〇〇)
- 一、第一審裁判所ニ差戻(刑、訴、四〇二)

(3) 上告審

- 一、原審記載事項(刑、訴、四五五)
- 一、上告棄却(刑、訴、四四五、四四六)
- 一、原判決破毀(刑、訴、四四七)
- 一、原裁判所又ハ第一審裁判所ニ差戻(刑、訴、四四九)
- 一、管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送(刑、訴、四五〇)

(4) 豫審決定(例外)

- 一、中止(刑、訴、三〇五)
- 一、管轄違刑、訴、三〇九
- 一、公判ニ付ス(刑、訴、三一二)
- 一、免訴(刑、訴、三二三、三二四)
- 一、公訴棄却(刑、訴、三一五)

連續犯又ハ牽連犯タル公訴事實中其一部ニ免訴、無罪、公訴棄却ト爲ルヘキ點ハ特ニ之ヲ主文ニ記載

スルヲ要セス(判例)

(イ) 沒收

沒收ハ其性質刑罰ナルヤ否ヤハ議論ノ存スル所ナレトモ法典ハ之ヲ附加刑トシタリ(刑法、九)然レトモ實質ハ警察上ノ目的手段ニ外ナラサレハ所謂刑罰ニアラスト解ス(獨逸法ハ刑罰トセス)沒收ヲ附加刑トシナカラ被告人以外ノ者ノ偽造物件、主刑ナキ場合、例ヘハ共犯者一人ノミノ公訴ニテ他ノ共犯者ノ公訴ナキ場合)及主體ナキ物件ニ對シテモ沒收ヲ爲シ得ルヲ以テ沒收ノ性質ハ寧ロ犯罪ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルヲ相當トス舊刑事訴訟法時代ニ於テハ物件ノ所有者不明ノ場合ニ疑ヲ生シタル爲メ判例(大正四年五月二十二日)ハ之ヲ沒收シ得ルコトヲ認メタリトモ現行法(刑、訴、五六〇)ハ此點ヲ明ニシタリ。

判例(大正五年)ハ共犯ノ場合ニハ共犯人ノ各自ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘキモノトセリ。  
 尙現行法(刑、訴、五五九)ハ所持者保護ノ爲メニ(例ハ手形ノ裏書ノミノ偽造又ハ變造ノ場合)偽造又ハ變造ニ係ル物件ヲ返還スル場合ニハ偽造又ハ變造ノ部分ニ其旨ヲ表記スルコトヲ認メタレトモ舊法ハ本條ナキヲ以テ偽造又ハ變造ノ部分ニ線ヲ引キタルモノナリ。

(ロ) 追 徴

追徴ハ沒收ト同シク實質ハ一種ノ警察處分ナリト解ス若シ、沒收カ附加刑ナルノ故ヲ以テ追徴ハ沒收ニ代ルヘキ執行方法ナレハ之ヲ刑罰ナリトセハ沒收シ得ヘキ限度ニ於テ追徴ヲ爲ササルヘカラス(共犯人ニ對シテモ亦然リ)從テ刑罰ハ受刑者ノミニ限ルヲ以テ追徴ハ其相續人ニ及ササルモノト言ハサルヘカラス然レトモ法典ハ沒收又ハ追徴ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行シ得ルコトヲ認メタリ(刑、訴、五五四、五五五)

判例ハ追徴モ沒收ト同シク附加刑ナリトセリ、共犯人ノ追徴ニ就テハ各自ニ全部ノ負擔ヲ爲サシムルヘシトノ學說アルモ判例ハ各自平等ノ負擔トナス、更ニ判例(大正十年聯合判決)ハ刑法第百九十七條第二項ノ規定ハ收賄者ニ對シテノミ適用アルヤノ觀アルモ收賄者カ收受物ヲ贈賄者ニ返還スルモ尙贈賄タル性質ヲ變スルモノニ非サルヲ以テ贈賄者ニ對シテモ追徴ヲ爲スコトヲ得トセリ此判決ハ刑法第百九十七條第二項ノ正面解釋トシテハ妥當ヲ缺クノ嫌アリ。

(ハ) 訴 訟 費 用

訴訟費用ハ訴訟カ裁判所ニ繫屬シテ始メテ生スルモノニシテ夫レ以前ニ於テハ訴訟費用ノ問題ヲ生セサルモノトス、而シテ訴訟費用ノ何物ナルカハ刑事訴訟法ニ明示セリ(大正十年四月十二日法律第六十八條)

然レトモ訴訟繫屬以前ニ於テモ特ニ費用ヲ給與スルコトアルヘシ(司法省令第十一號)大正十三年五月二十九日) 訴訟費用ハ特別ノ場合ヲ除ク外必ス刑ノ言渡ト同時ニ其ノ全部又ハ一部負擔ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス(刑、訴、二三七、二三八、二四二)

(一) 理 由

判決ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス(刑、訴、四九)理由ハ主文ノ因テ生シタル事由ニシテ主文ノ原因ハ總テ理由中ニ明示セサルヘカラス、殊ニ有罪ノ判決ヲ言渡スニハ罪トナルヘキ事實ハ勿論法律上刑ヲ加重減輕スヘキモノアルトキハ其理由タル事實ヲ明示ササルヘカラス。

(イ) 所謂罪トナルヘキ事實トハ犯罪構成事實(具體的事實)ト其犯罪ノ性質上罪條ヲ異ニスル事實トヲ包含スルモノト解ス、故ニ前科並連續犯ノ如キハ罪トナルヘキ事實ニ該當ス、判例ハ前科事實ヲ認ムルニ付證據ヲ要セストセリ。

沒收ニ證據説明ヲ要スル說ハ特殊ナル刑ヲ科スル事實トシテ罪トナルヘキ事實ト看做スヘキモ首肯シ難シ從テ犯罪ノ緣由動機(犯罪事實ノ狀態)及併合罪(法律問題)等ハ孰レモ罪トナルヘキ事實ニ非サルナリ。

(ロ) 法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由トハ特殊ノ狀態ニ因リ犯罪ヲ不成立ナラシムル場合ヲ謂フ

即チ違法阻却(例ハ刑法三五、三六、三七並ニ自己救助)及犯罪無能力(例ハ刑法三八、一項、三九、一項、四〇、一項、四一)等ノ原因タル事實ヲ謂フモノトス、從テ故意犯(過失犯)ノ場合ヲ含マサルモノトス。

(ハ) 刑ノ加重減免トハ併合罪(刑法、四五)累犯(刑法、五六)及心神耗弱者(刑法、三九、二項)瘖啞者(刑法、四〇、後段)中止犯(刑法、四三、但書)從犯(刑法、六三)等ノ事實ノ如キ是ナリ、而シテ事實ノ主張ニ對シテハ悉ク判斷ヲ示スコトヲ要セサレトモ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ事實上ノ主張ニ對シテハ特ニ判斷ヲ示サルヘカラス、然レトモ其理由ヲ説明スルコトヲ要セサルモノトス、此判斷ハ法律上特定ノ事實ニ對シ必然的ニ刑ノ減免ヲ爲スヘキトキニ限り其事實ノ主張ニ對シ之カ判斷ヲ示スヘキモノニシテ法律上刑ノ減免ヲ爲スト否トハ裁判所ノ裁量ニ委ネタル場合ハ之ニ該當セサルモノトス。(大、判、大正一四、三月)

(ニ) 凡ソ判決ノ基本トナルヘキ事實ノ認定ハ總テ證據ニ據ルヲ原則トス(刑、訴、三三六)然レトモ法律上證據ノ説明ヲ要スル事項ハ罪トナルヘキ事實ニ限ルモノトス(刑、訴、三六〇、一項)從テ其他ノ事實ハ法律カ特ニ犯罪ノ内容トナシタルモノニアラサレハ證據ノ説明ヲ要セス。

證據ハ素ヨリ判事ノ自由ナル判斷ニ委ス(刑、訴、三三七)ト雖濫ニ感情ニ走り臆測妄斷ヲ許スヘキ趣旨ニアラス、證據トナルニハ證據能力ヲ有シ且ツ適式ナルコトハ(刑、訴、三四〇、三四一、三四七)勿論證據ノ範圍(刑、訴、三四二、三四三)ヲ脱セサルコトヲ要ス、而シテ證據ハ最モ適切ニシテ

有力ナルモノヲ選擇シ成可ク同一價值又ハ同種同一内容ノモノヲ省キ(例ハ同一人ノ公判廷及豫審廷ニ於ケル同一内容ノ供述)專ラ證據價值ニ傾注セサルヘカラス、而シテ證據理由ノ説明ハ努メテ簡易正確ヲ旨トシ證據ノ如何ナル部分ニ依リ如何ナル事實ヲ認定シタルカヲ判示事實ト相俟テ其内容ヲ推知シ得ヘキ程度ニ於テ、說示セサルヘカラス、從テ證據ノ内容ヲ具體的ニ明示スルヲ要セスト雖漫然證據ノ題目ヲ羅列スルノ弊ヲ避ケサルヘカラス(本書末尾聯合判決參照)事實上ノ主張ニ對スル判斷ト雖事實ニ付テハ證據ヲ要スルコトハ勿論ナレトモ判斷ヲ爲シタル理由ヲ説明スルヲ要セス

### (一) 法令ノ適用

罪トナルヘキ事實ニ對シテハ法令ノ適用ヲ示サルヘカラス(刑、訴、三六〇、一項)即チ法令ハ判示事實ニ對シテ適用セラルモノニシテ判示事實ハ主文ノ因テ生シタル事由ナレハ判示事實以外ノ事實ニ付テハ法令ノ適用ヲ示ササルモノトス

法令ノ適用ハ結局主文ノ因テ生シタル理申ヲ明示スルニ外ナラサルナリ然レハ判示事實ト法令適用ト主文トハ實質上一體ノモノニシテ相互ノ間ニ伸縮アルコトナシ故ニ主文ノ因テ生シタル事由ニ對シテハ總テ法令ノ適用ヲ示ササルヘカラス

而シテ法律ノ適用ハ通常左ノ事項ニ於テ爲サルモノトス

(1) 犯罪行爲並其態樣及其加重減免

(2) 沒收及還付

(3) 訴訟費用

右ノ外法令ニ認メタル事項ハ總テ擬律セサルヘカラス

(イ) 犯罪ノ性質又ハ其ノ時期、場所等ニヨリ夫々法令ノ適用ヲ異ニスル場合アルヲ以テ法令ヲ適用スルニ當リテハ常ニ特別法令(例ヘハ刑法施行法、恩赦令電信法、刑事交法渉等)並法令ノ改廢(刑法六、一〇)等ニ留意セサルヘカラス最モ恩赦令第五條ヲ引用スルトキハ刑法施行法ハ援用セサルモノトス

(ロ) 適條法令ニ二個以上ノ刑名アルトキ(刑法九、一二參照)ハ必ス其内ノ一ヲ選擇シ又ハ數個ノ刑名カ一個ノ刑罰トシテ定メラレタル場合ニハ同時ニ之ヲ科セサルヘカラス(刑法、二五六、二項)然シ原審カ窃盜罪ナリト認定シ懲役刑ヲ言渡シタル事件ニ對シ控訴審カ之ヲ贓物罪ナリトシテ原審通り懲役刑ヲ科ストキハ檢事ノ附帶控訴ナキ限り其罰金刑ヲ免除スルコトアルモノトス(刑、訴、四〇三)

(ハ) 一個ノ行爲カ數個ノ罪名ニ觸レタルトキハ最モ重キ刑ヲ科スルヲ要ス(刑法、五四、一項)數個ノ罪名トハ說アルモ異種ノ罪名ヲ指稱スルモノニシテ同種ノ罪名ヲ包含セサルモノトス若シ同種ノ罪名ヲモ包含スルモノトセハ刑ノ比較ノ問題ヲ生セサレハナリ、判例ハ同種又ハ、異種ノ罪名ヲ含ムトセリ又犯罪ノ手段若クハ結果タル二個以上ノ行爲カ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ科セサルヘカラス(刑法、五四、一項後段)而シテ手段結果ノ行爲中親告罪アルトキハ社會ノ通念ニ訴ヘ分離ヲ妥當ト認ムルトキハ之ヲ分離スルモ妨ケサルモノトセリ(判例、大正一二、二二、五日)

所謂牽連犯ハ本罪ノ構成要件ニ屬セサル獨立ノ犯罪行爲ニシテ而カモ犯罪タル行爲ニ離ルヘカラサル場合ナリ(例ヘハ偽造文書行使罪ト詐欺罪)

連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷スヘキモノトス(刑法、五五)同一罪名トハ同一罰條ニ該當スル場合ハ勿論縱令罰條ヲ異ニスルモ罪種ヲ同シクスル場合ヲモ包含スルモノナルカ故ニ同一罰條ニ該當スル場合ハ刑ノ輕重ノ比較ヲ要セサレトモ罰條ヲ異ニスル場合ハ刑ノ輕重ヲ比較セサルヘカラス、從テ刑法第五十四條第五十五條ノ所爲ハ孰レモ刑法第十條ヲ引用セサルヘカラス

若シ同法第五十四條並第五十五條ヲ同時ニ適用スル場合ハ犯罪ノ性質ニ依リ孰レヲ先ニスルモ違法ニハ非サレトモ通常同法第五十四條第一項、前段、第五十五條第五十四條第一項後段ノ順序

ニ依ルモノトス

尙前記取扱上ノ一罪タル行爲ニ對スル適條法令中ニ選擇刑アルトキハ先キニ其刑ヲ選擇スルニ非スシテ先ツ刑法第十條ニ依リ其最モ重キ刑ヲ比照シ然ル後其刑ヲ選擇シテ處斷スヘキモノト解ス

連續犯ニハ連續ナク常習賭博犯ニモ亦連續ノ觀念ナキモノトス

(二) 刑ノ加重トハ數個ノ行爲カ併合罪(刑法、四五、四七、四八)又ハ累犯(刑法、五六、五七)關係ニアルモノヲ謂フ、併合罪ニハ同法第四十五條第一項前段ト同條後段トノ場合アリテ同條後段ノ併合罪ハ確定判決後ノ罪ト確定判決前ノ罪ナレハ同法第四十七條ノ併合加重ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ同法第五十條ニ依リテ處斷スヘキモノトス、若シ確定裁判アリタル罪ノ前後ニ未タ裁判ヲ經サル罪アルトキハ其各罪ニ對シテ便宜上主文ヲ二個ニシテ之ヲ科セサルヘカラス  
加重スヘキ併合罪ハ之ヲ合算シテ科スヘキモノナリ(刑法四七、但書四八、二項、四六)若シ同法第四十六條カ併合刑ナラストセハ一部上訴ノ時ニ疑ヲ生ス、同法第五十二條ハ吸收刑カ併合刑カ争ヒアルモ抽象的ニ吸收スルモノト觀ルヲ相當トス、若シ選擇刑ノ罪ヲ二度以上犯シタル場合ニ各所爲ニ對シ夫々罰金刑ヲ選擇シタルトキハ刑法第四十八條ニテ各罰金刑ヲ併科スヘキモノナリ、同法第四十八條ノ併科ハ法定刑ナラスシテ處斷刑ナリ故ニ罰金刑ヲ選擇スレハ罰金ヲ

合算シテ科スルモノナリ而シテ同法第十四條ハ加重刑カ二十年以上ノ場合ニ限り之ヲ適用スルモノニシテ犯罪ノ性質上何回ニテモ本條ヲ適用スルコトアルヘシ

(ホ) 刑ノ減免ニハ法律上ノモノト裁判所ノ裁量ニ基クモノトアリ(刑法三六、二項、四三、六六、七一、六八、參照)又加重減刑ヲ爲ス場合ニ於テハ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用スヘキ刑ヲ定メ然ル後其輕重ヲ比照シテ所斷スヘキモノトス、同時ニ刑ヲ加重減免スルトキハ同法第七十二條ニ準據スルコト勿論ナリ

(ヘ) 本刑ノ執行部分ハ未決勾留通算(刑法、二一)刑ノ執行猶豫(刑法、二五、刑、訴三五八、二項)及勞役場留置ノ期間(刑法、一八)等ナリ

(ト) 沒收、還付及追徴(刑法、一九、一九七、二項刑、訴、三五八、一項三七二、一項三七三參照)ハ當該物件カ判示犯罪ト如何ナル關係ニアリタルカ其物件カ何人ノ所屬ナルカ及沒收ニ代ヘ追徴ヲ爲スヘキトキハ執レモ其理由ヲ明示シテ法令ヲ適用セサルヘカラス、尙沒收物件ノ所有者不明ノ場合ニ於テモ刑法第十九條第二項ヲ適用スルモノトス

(チ) 訴訟費用ハ全部又ハ一部ヲ何人ニ科スルカヲ示シ法令ノ適用ヲ爲ササルヘカラス(刑、訴、二三七、二三八、二四二)

(リ) 管轄違又ハ公訴棄却其他ノ訴訟手續ノ疑義ハ勿論公訴事實ノ一部ニ免訴、無罪、公訴棄却等ノ



事實存スルトキ及其事實カ連續若クハ牽連ノ關係ニアルトキハ孰レモ法律上之ヲ説明スルコトヲ要ス

(ヌ) 判決書ニハ作成當時ノ年月日ヲ記載スヘキモノト解ス尤モ舊刑、訴、(二〇)ハ之ヲ要件トシタルモ新法第七十一條(訓示規定)ハ要件トセサルヲ以テ之ヲ記載セサルモ裁判書ノ效力ヲ妨ケサルモノトス

(ル) 何々裁判所トハ如何ナル裁判所カ裁判ヲ爲シタルカヲ明示スル爲メニ表示スルモノナリ從テ裁判所ニ立會フタル當該判事ハ判決書ニ署名捺印ヲスルコトヲ要ス(刑、訴、六七、六八、七一、舊刑、訴、二〇五參照)

左ニ擬律記載ヲ例示セン

### (一) 法令改廢ノ場合

該行爲ハ新法ニヨリ改正セラレ刑法第二百五十三條ニ該當スルヲ以テ同法第十條第六條ニ依リ審級比照スルニ云々

### (二) 併合罪ノ場合

以上ハ刑法第四十五條後段ノ併合ニ係ルモ他ノ罪ニ就キテハ既ニ確定判決アリタルヲ以テ同法第五十條ニ依リ重キ確定判決ヲ經タル窃盜罪ノ刑ニ併合ノ加重ヲ爲シ其刑期範圍内ニ於テ云々

### (三) 併合罪及牽連罪ノ場合

重キ行使罪ノ刑ニ從ヒ罰金刑ヲ選擇シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第一項ニ則リ前記傷害致死罪ノ懲役刑ヲ併科シ其ノ刑期金額ノ範圍内ニ於テ云々

### (四) 舊刑法關係

業務上横領ノ判示所爲ハ刑法第二百五十三條ニ電信爲替ニ要スヘキ僞電ヲ發シタル點ハ明治三十三年三月法律第五十九號電信法第三十三條第二項第三項刑法施行法第二條第十九條第二十條第二十一條舊刑法第六十七條第二十二條第二項ニ詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ該當スルトコロ以上ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ僞電ヲ發シタル罪ノ刑ニ從ヒ之ト業務上横領ハ同刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ併合罪ノ加重ヲ爲シ尙情狀憫諒スヘキ點アルヲ以テ同法第六十六條第六十八條ニ則リ云々尙詳細ハ本書ニ付キテ引見セラレタシ

以上述ヘタル處ハ至テ拙劣不備ノモノト言ハンヨリハ寧ロ何等ノ價值ヲモ有セサルモノト信スレト  
モ幸ニ參考トナラハ編纂者ノ本懐ナリ

目 次

件 名	内 容 摘 示	附 隨 條 項	頁 數
公務執行妨害及傷害 證憑湮滅及官文書毀棄	差押ニ關シ執達吏ニ對スル毆打 貯金着服横領ト證憑湮滅教唆	刑法五四、一項前段、一〇 訴、費、連續、刑法五四、一項前 段、一〇	一 三
騷 擾	魚市場組合關係人ノ市會議員ニ對スル 騷擾(二十二名)	罰金、執、猶、一部無罪	六
騷 擾	大島製鋼所ニ對スル職工ノ騷擾(十六 名)	刑、訴、三六七、罰金、一部無罪	一三
放 火	保險金取得ノ目的ト放火	訴、費、連續	一九
放 火	保險金取得ノ目的ト放火	沒收、減刑、訴、費、 還付	二八
放 火	保險金取得ノ目的ト放火	沒收、減刑	三二
放火未遂	保險金取得ノ目的ト放火	未決勾留通算、沒收、減刑	三八
放火未遂(控訴)	保險金取得ノ目的ト放火	沒收	四一
放火豫備	宿泊拒絶ニ對スル遺恨ノ放火豫備	訴、費、減刑	四六
往來妨害	汽車線路上ニ枕木併列		四八

往來妨害(控訴)	汽車線路上ニ枕木併列	訴、費、減刑	五一
住居侵入並竊盜	金品窃取	連續、刑法五四、一項後段、一〇、累犯	五五
住居侵入強盜及橫領	日本刀ニテ脅迫シ現金強取	沒收、一部無罪、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇	五八
水道淨水汚穢	解雇サレシテ恨ミモーター油三、四合ヲ水漕ニ投入	四、一項後段、一〇	六〇
通貨偽造及通貨偽造準備	ハンダ及鐵板利用ト通貨偽造ノ成否	執、猶、沒收、減刑、連續、刑法一〇	六二
偽造通貨收得行使	偽造五十錢銀貨ノ收得	沒收、訴、費、連續、刑法一〇、五四、一項後段、減刑	六五
偽造通貨收得行使(控訴)	偽造五十錢銀貨ノ收得	沒收、訴、費、連續、刑法一〇、五四、一項後段、減刑	七〇
公文書變造行使	警視廳ヨリ交付ノ保管物品受領書利用ノ變造	沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇、四〇、後段、減刑	七六
公文書偽造教唆同行行使	婦女ニ對スル戸籍原本偽造ト其教唆(二名)	執、猶、沒收、訴、費、連帶、刑法五四、一項後段、一〇	七八
文書偽造行使並橫領	巡查ノ收得金橫領ト遺失物受領書ノ偽造	執、猶、沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、五四、一項後段、一〇、併合	八二
公文書偽造行使詐欺	大學卒業證書偽造ト金圓騙取並鐵道乘車券偽造	未決勾留通算、沒收、刑法五四、一項後段、一〇、累犯	八五
私文書偽造行使	中學卒業證書偽造	執、猶、沒收、刑法五四、一項後段、一〇	九二

私文書偽造行使詐欺	借用證書偽造ト金圓騙取	沒收、訴、費、刑法五四、一項、後段、一〇	九六
私文書偽造及變造行使詐欺未遂(地方控訴)	保險勸誘員ノ診查報告書偽造ト保險金詐欺	執、猶、沒收、訴、費、刑法五四、一項、後段、一〇	九九
私文書偽造行使詐欺	保險會社々員ノ出金傳票偽造ト保險證券利用ノ金錢詐欺	執、猶、沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇	一〇三
文書偽造行使詐欺業務上橫領	銀行員ノ支拂入金傳票及其他ノ偽造ト預金債權利得保管ノ公債株券橫領並背任行為	沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇、併合	一〇九
私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及橫領(地方控訴)	現金橫領抵當權登記ノ委任狀印鑑證明書及約束手形ノ偽造並登記原本不實ノ記載	未決勾留通算、連續、刑法五四、一項前段、一〇、併合	一一四
橫領私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使詐欺	他人ノ家屋擔保ト金員騙取會社ノ賣掛代金橫領印鑑屈偽造並登記簿原本不實ノ記載行使	沒收、連續、刑法五四、一項後段、一〇、併合	一二〇
竊盜文書偽造行使詐欺公文書變造放火	同居人ノ郵便貯金通帳窃取拂戻金受領書偽造並證據湮滅ノ目的ト放火	一部公訴棄却、沒收、刑法五四、一項後段、併合刑法一四	一二九
有價證券偽造行使詐欺	支配人ノ貨物引換書偽造及荷爲替取組金員騙取(二名)	執、猶、沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇	一三二
有價證券偽造行使詐欺未遂(地方控訴)	小切手偽造ニ依ル金員詐取	沒收、刑法五四、一項後段、一〇、累犯、刑事訴訟法四〇一、一項	一三七
印章偽造行使公文書偽造行使詐欺	郵便貯金通帳偽造行使ト金員騙取	沒收、刑法五四、一項後段、一〇、一四〇	一四〇

偽證	主人ノ手形取引ニ關シ虚偽ノ陳述	執、猶、	一四六
偽證教唆及偽證	貸金請求事件ニ付キ知人ノ依頼ニ依ル虚偽ノ陳述	刑法五四、一項前段、一〇、五〇	一四九
誣告	他人ノ當選ヲ恨ミ選舉法違反ノ行爲アリト官署ニ虚偽ノ申告	公訴棄却	一五五
猥褻致傷	十歳ノ幼女ニ對スル猥褻行爲ト傷害	未決勾留通算、訴、費、連續	一五七
猥褻致傷	十一歳ノ幼女ニ對スル猥褻行爲ト病毒感染	未決勾留通算、訴、費、	一五九
猥褻致傷(控訴)	六歳ノ幼女ニ對スル猥褻行爲ト傷害	執、猶、控訴費用	一六二
姦通(控訴)	六歳ノ幼女ニ對スル猥褻行爲ト傷害	無罪、刑事訴訟法四〇七	一六四
賭博(地方控訴)	公園ニ於テ知り合ヒタル他人ノ妻ト姦通罪ノ成否	科料、沒收	一六五
常習賭博	花札使用ト八十ノ馬鹿花	沒收、果犯	一六八
賭博開帳幫助(地方控訴)	花札使用ノ祖倒ト前科ニ對スル常習賭博ノ成否(二名)	執、猶、減刑、刑事訴訟法四〇一、四〇七	一七〇
瀆職	場代金ヲ受取り賭博開帳ノ行爲ヲ容易ナラシム	執、猶、罰金、無罪、追徵、訴費減	一七二
瀆職	東京市電氣局御用商人ト同局員トノ商取引ニ關スル瀆職(十七名)	罰金、刑法五四、一項前段一〇	一八九
瀆職	市會議員ノ東京市電氣局長推薦ニ關スル瀆職		

收賄贈賄	砂利取引ニ關シ東京市道路局員及請負人ノ瀆職(二名)	執、猶、罰金、追徵、訴、費	一九四
收賄贈賄瀆職	自動車諸機械其他附屬品ノ取引ニ關シ警視廳技師及商人ノ瀆職(四名)	執、猶、罰金、追徵	二〇〇
瀆職公文書偽造行使詐欺	急設電話架設ニ關シ東京市電話局員及其他ノ者ノ瀆職及文書偽造行使詐欺(四十二名)	執、猶、沒收、未決勾留通算、罰二〇六金、追徵、訴、費、連續、刑法、一〇、五四、一項後段、併合、減刑	二〇六
偽證及瀆職	東京市瓦斯料金値上及東京市道路改修工事ニ關スル瀆職及偽證	未決勾留通算、無罪、追徵、沒收、連續、果犯、併合	二二七
殺人豫備放火豫備家宅侵入公務執行妨害	清浦内閣倒壊被告事件(七名)	未決勾留通算、併合、刑法五四、二五〇一項前段、一〇	二五〇
殺人	妻ト友人トノ密會ヲ疑ヒ友人ヲ殺害	沒收、訴、費、	二五六
殺人	隣室ニ居住セル知人ノ妻ト色情關係アリト罵倒セラレタルニ依リ殺害	沒收、訴、費、	二五八
殺人	殺害ト正當防衛	無罪、正當防衛	二六一
殺人(控訴)	正當防衛殺害ニ對スル檢事ノ控訴	沒收、訴費、刑事訴訟法、四〇一、一項	二六四
殺人	金錢貸借ノ仲介トナリ履行ニ付口論ノ末知合ノ債權者ヲ刺ス	沒收	二六九
殺人未遂	同室ノ知人ヨリ傷害ヲ受ケタルニ依リ殺害	沒收、減刑	二七二

殺人未遂	口論ノ末實兄一家ヲ亞砒酸ヲ以テ毒殺ヲ計ル	沒收、訴、費、刑法五四、一項前二七七段、一〇	六
殺人未遂	主人ヲ辭スルニ際シ事務員ノ冷淡ヲ憤リ口論ノ末殺害	沒收	二八一
殺人未遂	不義ノ廉ニヨリ解雇セラレ主人ノ冷酷ナル態度ニ憤慨ノ餘リ殺害	執、猶、沒收、減刑	二八四
殺人未遂	口論ノ上毆打セラレタルヲ恨ミテ殺害	沒收、累犯、刑法一四	二八七
殺人公文書偽造行使	數人ノ貫子ニ對スル營養不良ノ行爲ト殺人ノ成否及戸籍簿原本偽造(三名)	共犯、訴、費、連帶、連續、刑法五四、一項前段、五四、一項後段、一〇、併合	二九一
殺人未遂及傷害	結婚拒絶ニ對スル殺害	沒收、連續、刑法一〇、併合、減刑三〇二	三〇二
殺人未遂	産後内縁ノ夫ニ捨テラレ搜索中他ノ女ト同棲ヲ怨ミ夫ヲ殺害	執、猶、未遂、減刑	三〇八
殺人豫備	徳川候暗殺事件(二名)	沒收、一部無罪、公訴棄却、刑法三一一五四、一項前段、一〇	三一七
殺人豫備銃砲火藥類取締法施行規則違反並暴行	福田大將暗殺並ニ其他ノ殺人事件(四名)	未決勾留通算、沒收、訴、費、連帶、刑法五四、一項前段、一〇、併合、刑法四六、連續	三二二
殺人未遂爆發物取締罰則違反毀棄窃盜及恐喝等	首相暗殺被告事件(四名)	共犯、無罪、未決勾留通算、沒收	三三二
自殺幫助	主人ノ金ヲ費消シタル上娼妓ト情死	沒收、訴、費、	三三九
傷害	口論ノ上傷害	未決勾留通算、沒收、訴、費、	三四二

傷害	同業者等口論ノ上傷害	自首、辨疏	三四四
傷害及傷害教唆	家屋賃借紛議ノ交渉ニ付キ口論ノ上傷害(二名)	未決勾留通算	三四七
傷害致死	賭博ニ關シ兒分ノ喧嘩ヨリ交渉ノ末傷害	沒收、訴、費、正當防衛、辯疏	三四九
業務上過失傷害	輕便鐵道蒸汽機關運轉手ノ四歳ノ幼女ニ轢傷	罰金、刑法、一八	三五二
業務上過失致死(地方控訴)	自動車運轉手ノ車體ト四十四歳ノ男子ト衝突傷害後死亡	罰金、刑法、一八、刑事訴訟法四三、一、一項	三五四
住居侵入及脅迫	普通選舉反對ノ貴族院議員ニ對スル脅迫一名見張(一名)	沒收、併合、刑法一〇、減刑	三五九
傷害並脅迫(地方控訴)	護皇會本部ノ看板奪取者ニ對スル傷害	執、猶、控訴、費用、	三六二
營利誘拐	他家ノ女中ヲ酌婦奉公ニ爲シ前借金獲得(一名)	無罪、訴、費、	三六五
營利誘拐	他人ノ妻ヲ酌婦奉公ニシテ前借金獲得	訴、費、	三七一
營利誘拐橫領	前借金橫領並ニ誘拐セル婦女ノ前借金獲得	訴、費、連續、刑法一〇、四七、併合	三七三
文書偽造行使詐欺營利誘拐	女中周旋名義ノ下ニ金員詐取	沒收、訴、費、刑法五四、一項後段、一〇、累犯、併合、刑法、一四	三七七
名譽毀損	代表社員除名ニ付同人ノ不行跡ヲ各關係者ニ通知(一名)	罰金	三八二
侮辱	新聞社員カ他人ヲ誅伐云々ノ執筆掲載	科料、訴、費、	三八四

窃盗	店頭ノ時計一箇窃取	還付	三八六
窃盗(地方控訴)	衣類時計其他雜品窃取	沒收、累犯	三八八
窃盗(地方控訴)	浴場脱衣場ニ於テ金品窃取	未決勾留通算	三九一
窃盗教唆及窃盗(伏石事件)	稻刈取被告事件(二十三名)	共犯、未決勾留通算、執、猶、無罪、訴、費、連帶、連續、刑法、四七、前段	三九四
强盗	屋内ニ忍ヒ洋食用ナイフヲ以テ家人ヲ脅迫シ金品強取	併合、刑法五〇、五四、一項、後段	四一〇
强盗	數軒ニ忍入り九寸分ヲ以テ家人ヲ脅迫シテ金品強取	沒收、刑法五四、一項、後段、一〇四二二	四二二
强盗	數軒ニ忍入り理髮用鋏又白鞘ノ短刀ヲ家人ニ突付ケ或ハ縛シテ金品強取二人共謀(一人見張二名)	沒收、連續、刑法五四、一項、後段、一〇併合、減刑	四一六
强盗	屋内ニ忍込ミ覆面シテ衣類強取	沒收、刑法五四、一項、後段、一〇減刑	四二一
强盗窃盗傷害	數軒ニ侵入シ金品強取	訴、費、連續、刑法一〇、五四、一四二四項、後段、併合、刑法一四	四二四
强盗窃盗傷害(控訴)	屋内ニ侵入シ金品強取其他數個所ニ於テ金品強取	控訴費用、連續、刑法五四、一項、後段、併合、刑法一〇、一四	四二九
强盗及窃盗	主人及其他ノ者ノ金品強取並ニ覆面シテ茶切庖丁ヲ以テ脅迫強取	沒收、訴、費、連續、刑法五四、一四三三項、後段、一〇	四三三

强盗窃盗	屋内ニ侵入シ現金強取及金品強取	連續、刑法一〇、五四、一項、後段、一〇減刑	四三九
窃盗强盗未遂强盗傷人家宅侵入	金品強取並ニ數軒ニ忍入り女中妻等ヲ暴行脅迫シタル上強取ノ目的ヲ遂ケス	連續、刑法五四、一項、後段一〇、四四一減刑	四四一
住居侵入强姦及窃盗	物品窃盗、娘妻ヲ强姦	連續、刑法五四、一項、後段一〇、四四七一四、併合罪	四四七
强盗窃盗横領	主人ノ金員費消及娼妓其他ノ者ノ金品強取並ニ質屋ニ侵入シ海軍ナイフヲ以テ脅迫シ金品強取	沒收、連續、刑法一〇、五四、一四五〇項、後段、累犯、刑法一四、併合	四五〇
家宅侵入準强盗傷人	屋内ニ侵入シ金品強取ヲ發見セラレ逮捕ヲ免カルル爲メ追跡者ヲ脅迫	訴、費、刑法五四、一項、後段、一四五四〇、累犯、刑法一四	四五四
强盗傷人窃盗詐欺	主人ノ金品強取及路上ニ於テ金品強取	沒收、訴、費、連續、累犯、併合、刑法一〇、一四、減刑	四五八
窃盗强盗殺人未遂	屋内ニ忍入り物品強取及主人ヲ絞殺シ預金通帳金員強取	連續、刑法一〇、減刑	四六二
强盗殺人(準强盗)	屋内ニ忍入り窃取シタル物品携帶シタルヲ巡查ニ發見セラレ逮捕ヲ免カレントシテ小刀ヲ以テ同巡查ヲ殺害	還付、訴、費、刑法五四、一項、後段、一〇、累犯、刑法一四、併合	四六五
强盗殺人私文書私印偽造行使	借用證書ヲ偽造シテ五日會ヨリ金員ヲ受取り兩替店員ニ銀員ヲ持參セシメ之ヲ殺害シテ強取	死刑、沒收、訴、費、刑法五四、一四六九項、後段、一〇、四六、一項、併合	四六九
强盗殺人(控訴)	大輝九江連被告事件(十八名)	共犯、未決勾留通算、執、猶、沒收、四七四收、控訴費用、連續、累犯、併合、刑法一〇、一四、減刑	四七四

強盜強姦並窃盜(控訴)

屋内ニ侵入シテ金員窃取並ニ強取ノ上強姦

連續、刑法五四、一項、後段一〇、四八七

詐欺(地方控訴)

賭碁ニ依ル金員騙取

無罪

詐欺

反物騙取

訴、費、辯疏 四八九

有價證券偽造行使詐欺(地方控訴)

偽造約束手形及偽印、他人ノ土地ヲ利用シテ帽子莫大小類及金員騙取

執、猶、沒收、連續、刑法五四、一項、後段一〇 四九五

有價證券偽造行使詐欺偽造有價證券行使詐欺(地方控訴)

朝鮮興業株式會社株券ヲ偽造シ偽造株券擔保金員借用(二名)

被告人不出頭、執、猶、沒收、訴、費、刑法五五、五四、一項、前後段一〇、刑事訴訟法四〇一、一項、四〇七 五〇〇

詐欺等(領事裁判)

虛偽ノ船荷證券利用ノ債務免脱並金員騙取

沒收、還付、連續、刑法五四、一項、後段一〇 五〇六

背任

龜崎合資會社支配人荷爲替ニ關スル任務違背

連續 五二二

背任(領事裁判)

奉天取引所信託株式會社取締役及社員ノ投機取引ニ依ル任務違背(二名)

執、猶、沒收、併合、減刑 五一四

恐喝

金員取得ノ目的ヲ以テ東京ゴルフ俱樂部員ニ對スル恐喝

未決勾留通算 五二八

恐喝

大行社思想團顧問カ富者ヲ恐喝シテ金員受領

執、猶、 五三二

詐欺横領(地方控訴)

常磐工業合資會社外務員ノ日掛貯金加入者ヨリ金員騙取又ハ物品着服

果犯、併合、刑法一〇、一四、刑事訴訟法四〇一 五三六

土地假裝賣買ト横領罪ノ成立

假裝賣買ニ依ル畑ヲ返還セス之ヲ他ニ賣却横領

無罪 五三九

横領電信法違反

郵便局員ノ同局ヨリ支拂ノ物品代金及飲食代金支拂依託ノ金員費消並ニ電信爲替ニテ送金セリトノ虚偽ノ通信

併合、刑法一〇 五四三

業務横領

蠶糸業組合員ノ保證金不能ニ終ラシメ同組合ニ對シ財産上ノ損害ヲ與フ(二名)

訴、費、連帶、連續 五四五

業務上横領(地方控訴)

保險會社代理店員ノ保險料費消

未決勾留通算、刑事訴訟法四〇 五四八

窃盜及横領(地方控訴)

製材工場ニ侵入丸鋸及雜品窃取物品賣却代金費消

併合、刑法一四、刑事訴訟法四〇 五五三

郵便法違反窃盜放火横領

集配人ノ郵便切手小爲替騙取及保險金騙取ノ目的ニ依ル放火並ニ簡易保險料費消(三名)

沒收、訴、費、連帶、刑法五四、二五五六、項後段一〇、併合、刑法一四 五五六

横領電信法違反及詐欺

電報料金費消並ニ虚偽ノ爲替電報ヲ打電シ配達夫ヨリ電報爲替證書受取り

還付、刑法五四、一項後段、一〇、五三九、併合、刑法一四、刑法施行法一 五三三

横領窃盜文書偽造行使詐欺強盜

宿泊中金品窃取及窃取セル郵便貯金通帳利用ノ金員詐取並屋内ニ侵入シ小刀ヲ以テ金員強取

沒收、連續、刑法一〇、五四、一項、後段、併合、刑法一四 五六六

文書偽造行使詐欺横領

税金費消及納税金内預リ名義ニ依ル騙取並ニ納稅告知書偽造

刑法五四、一項、前段、一〇、五五七一、併合、 五五七

文書偽造行使詐欺同未遂横領業務上横領及窃盜	自轉車賣却及物品賣却代金費消横領白轉車及注文名義ノ金員騙取並ニ受預書偽造	未決勾留通算、還付、沒收、連續、五七四 刑法五四、二項、前段一〇、五四、一項、後段、併合	五七四
贓物運般	窃取ノ古銅線屑運搬	未決勾留通算、罰金、累犯	五八一
贓物故買(地方控訴)	盗品タル衣類雜品ヲ買受	執、猶、罰金、刑事訴訟法四〇七、四〇一、二項	五八三
贓物故買(地方控訴)	窃取セルケープル線其他ノ金屬買受	執、猶、刑事訴訟法四〇一、二項	五八五
贓物牙保	犯人ノ依頼ニ依リ盗品タル衣類入質	罰金、累犯	五八八
一般毀棄	遺恨ニ依ル他人ノ石碑破壞	沒收、訴、費、	五九〇
名譽毀損、信用毀損	元大連新聞編輯人カ財團法人慈惠病院内ニ於テ婦女患者ニ對シ掠奪強姦毒殺ヲ爲シタリトノ記事掲載	刑法五四、一項、前段、一〇、罰金、訴、費、	五九二
名譽毀損、信用毀損ニ對スル私訴	取消廣告ヲナスヘシ	刑事訴訟法五七二、民事訴訟法七二、一項、七三、二項	六〇三
印章偽造行使公文書偽造行使詐欺ニ對スル私訴	郵便貯金通帳ヲ利用シテ之ヲ偽造行使シテ局員ヨリ金員騙取	刑事訴訟法五七二、五號、民事訴訟法七二、二項	六一四
土地假裝賣買ト横領罪ノ成立ニ對スル私訴	財産浪費ヲ防ク爲メ他人ニ土地ヲ寄託スル爲メ假裝賣買シタルモノナルニ受託者ハ返還拒絶	刑事訴訟法五七二、五號、五六六、一八七、五九〇、一項、民事訴訟法七二、一項	六一八
衆議院議員選舉法違反(控訴)	地方ノ利害關係利用ト選舉法違反ノ成否	無罪	六二三

町會議員選舉罰則違反	投票ヲ得ル目的ヲ以テ有權者ニ金員供與及其供與ヲ受ク(八名)	罰金、追徵、連續、刑法一八	六二六
商法違反	發起人ノ全部拂込終了セリトノ虚偽ノ報告(二名)	執、猶、訴、費、連帶、商法二六一、六三二、一項、一號、刑法施行法一九二、二〇	六三二
出版法違反猥褻(地方控訴)	發賣禁止ノ慘死體寫眞及春畫ノ販賣(二名)	罰金、出版法二八、二項、一項、連續、刑法施行法一九、二〇、刑法一八	六三五
陸軍刑法違反	演習召集令ニ不參	刑事訴訟法四〇一、一項、陸軍刑六三八、法、九六、二號	六三八
陸軍々人服役令施行規則違反	住居變更不届	科料、陸軍々人服役令施行規則六三九、四、一項、六一、刑法一八	六三九
治安警察法違反	共產黨事件(三名)	未決勾留通算、沒收、訴、費、連帶、刑法一〇、六、刑法施行法二、一九、二〇、治安警察法二八、一、一項、前段	六四一
治安警察法違反	共產黨事件(二十三名)	未決勾留通算、無罪、沒收、訴、費、連帶、刑法二八、四五、一〇〇、併合、刑法施行法二、一九、二〇、治安警察法二八、一、一項	六五二
治安警察法違反	未成年者ノ政治結社加入	罰金、訴、費、連帶、治安警察法六六一、五、二、刑法施行法一九二〇、刑法一八	六六一
警察犯處罰令違反	密淫賣	警察犯處罰令一、二號、違警罪即六六三、決例一三	六六三



自動車取締令施行細則違反	交通妨害トナルヘキ場所ニ自動車停車料、自動車取締令、施行細則、三六四、三六五、三六六、三六七、三六八、三六九、三七〇、三七二、三七三、三七四、三七五、三七六、三七七、三七八、三七九、三八〇、三八一、三八二、三八三、三八四、三八五、三八六、三八七、三八八、三八九、三九〇、三九一、三九二、三九三、三九四、三九五、三九六、三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一一、四一二、四一三、四一四、四一五、四一六、四一七、四一八、四一九、四二〇、四二一、四二二、四二三、四二四、四二五、四二六、四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五一、四五二、四五三、四五四、四五五、四五六、五五七、五五八、五五九、五六〇、五六一、五六二、五六三、五六四、五六五、五六六、五六七、五六八、五六九、五七〇、五七一、五七二、五七三、五七四、五七五、五七六、五七七、五七八、五七九、五八〇、五八一、五八二、五八三、五八四、五八五、五八六、五八七、五八八、五八九、五九〇、五九一、五九二、五九三、五九四、五九五、五九六、五九七、五九八、五九九、六〇〇、六〇一、六〇二、六〇三、六〇四、六〇五、六〇六、六〇七、六〇八、六〇九、六一〇、六一一、六一二、六一三、六一四、六一五、六一六、六一七、六一八、六一九、六二〇、六二一、六二二、六二三、六二四、六二五、六二六、六二七、六二八、六二九、六三〇、六三一、六三二、六三三、六三四、六三五、六三六、六三七、六三八、六三九、六四〇、六四一、六四二、六四三、六四四、六四五、六四六、六四七、六四八、六四九、六五〇、六五一、六五二、六五三、六五四、六五五、六五六、六五七、六五八、六五九、六六〇、六六一、六六二、六六三、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七二、六七三、六七四、六七五、六七六、六七七、六七八、六七九、六八〇、六八一、六八二、六八三、六八四、六八五、六八六、六八七、六八八、六八九、六九〇、六九一、六九二、六九三、六九四、六九五、六九六、六九七、六九八、六九九、七〇〇、七〇一、七〇二、七〇三、七〇四、七〇五、七〇六、七〇七、七〇八、七〇九、七一〇、七一一、七一二、七一三、七一四、七一五、七一六、七一七、七一八、七一九、七二〇、七二一、七二二、七二三、七二四、七二五、七二六、七二七、七二八、七二九、七三〇、七三一、七三二、七三三、七三四、七三五、七三六、七三七、七三八、七三九、七四〇、七四一、七四二、七四三、七四四、七四五、七四六、七四七、七四八、七四九、七五〇、七五一、七五二、七五三、七五四、七五五、七五六、七五七、七五八、七五九、七六〇、七六一、七六二、七六三、七六四、七六五、七六六、七六七、七六八、七六九、七七〇、七七二、七七三、七七四、七七五、七七六、七七七、七七八、七七九、七八〇、七八一、七八二、七八三、七八四、七八五、七八六、七八七、七八八、七八九、七九〇、七九一、七九二、七九三、七九四、七九五、七九六、七九七、七九八、七九九、八〇〇、八〇一、八〇二、八〇三、八〇四、八〇五、八〇六、八〇七、八〇八、八〇九、八一〇、八一五、八二〇、八二五、八三〇、八三五、八四〇、八四五、八五〇、八五五、八六〇、八六五、八七〇、八七五、八八〇、八八五、八九〇、八九五、九〇〇、九〇五、九一〇、九一五、九二〇、九二五、九三〇、九三五、九四〇、九四五、九五〇、九五五、九六〇、九六五、九七〇、九七五、九八〇、九八五、九九〇、九九五、一〇〇〇
新聞紙法違反	罰金、辯疏、新聞紙法二〇、三六、六六六、刑法一八、一項、四項
決闘罪ニ關スル件違反	刑法施行法一九、二〇、二、明治二十二年十二月三十日法律三十四號、決闘罪ニ關スル件、第一條刑法五五
醫師法違反(略式命令)	罰金、沒收、醫師法一一、刑法一六七二、八、一九
醫師法違反	罰金、沒收、醫師法一一、刑法一六七四、八、一九
取引所法違反	共犯、罰金、連續、減刑、取引所法六六六、三二、五
執行猶豫取消請求(決定)	刑法二六、一號、三號、刑事訴訟法三七四
累犯加重請求(決定)	刑法五九、五七、五八、刑事訴訟法三七五
文書並有價證券偽造行使詐欺未遂(公訴棄却決定)	刑事訴訟法三六五、一項、二號、前段、死亡
殺人未遂(公訴棄却決定)	刑事訴訟法三六五、一項、一號、六八四

竊盜(認訴棄却決定)	刑事訴訟法三六五、一項、二號、前段、死亡
再審判決(名譽毀損)	無罪
再審判決(失火罪)	無罪
辯護士懲戒判決	過料、辯護士法一四、一項、一、三六九二、一、三二一
豫審決定	公判ニ附ス、破産法三七、四、一六九五號、刑法二四六、五五、併合、刑事訴訟法三二一
豫審終結決定	連續、刑法五四、一項、後段、刑事七〇一、訴訟法三二一
大審院裁判(以下)	上告棄却
公訴事實ト連續犯又ハ牽連犯トノ關係(判決)	原判決破棄、未決勾留通算、免七二七、除、上告棄却、累犯
數箇ノ行爲一罪ノ起訴ト一部獨立ノ別罪(判決)	原判決破毀、無罪
犯罪ノ證明ナキ場合(判決)	原判決破毀、一部無罪、併合、刑七二三、法一〇
犯罪ノ證明ナキ場合(判決)	原判決破毀、執、猶、併合、刑法一七二五、〇、一四、減刑
嬰兒殺シニ執行猶豫(判決)	

東京市瀆職事件(判決)

水利妨害ト罰金十圓(判決)  
老母ノ遺棄(判決)

管轄違ノ起訴ト無効ノ豫審調書(決定)

犯罪阻却ノ原由タル事實上ノ主張ニ付判斷ヲ爲ササル場合(決定)

法律上刑ノ減免ノ原由タル事實上ノ主張ヲ看過シタル場合(決定)

證據申請留保ノ儘辯論ヲ終結セル不法判決ノ事例(決定)

質權者ノ轉質ト横領罪ノ成否決定無効ナル公判調書(決定)

虛無ノ證據ヲ援用シタル場合(決定)

判示事實ニ關係ナキ證據ヲ援用シタル場合(決定)

贈收賄偽證

分水用ノ松丸太除去(七名)

起居不自由ノ老母ヲ一室ニ押入粥食ヲ與ヘス放擲

瀆職

傷害(正當防衛)

詐欺未遂

強盜殺人

横領

窃盜横領

有價證券偽造行使印章偽造行使私文書偽造行使詐欺及其各教唆及教唆未遂並ニ偽造印章行使私文書偽造行使詐欺證據説明

原判決破毀、未決勾留通算、上告七二九棄却

原判決破棄、訴、費、連帶

上告棄却

事實審理

事實審理、判決ニ示スヘキ判斷遺脱 七四一

事實審理、判決ニ示スヘキ判斷遺脱 七四三

事實審理、刑事訴訟法四〇七、四七四六四四

事實審理、聯合審判

事實審理、刑事訴訟法六三、一項七五三

事實審理 七五六

事實審理 七五九

採證ノ法則ニ違背セル場合(決定)

採證ノ法則ニ違背セル場合(決定)

虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル場合(決定)

採證手續ニ違法アル場合(決定)

刑ノ量定著シク不當ナル場合(決定)

判決理由ニ齟齬アル場合(決定)

刑ノ量定重キニ過クル場合(決定)

理由不備ノ違法アル場合(決定)

事實理由ト證據理由トニ齟齬アル場合(決定)

銀行員ノ不當小切手支拂ニ關スル擬律(決定)

事實誤認ノ顯著ナル理由アル場合(決定)

傷害致死ト刑ノ執行猶豫(決定)

詐欺森林窃盜誣告

縣會議員選舉罰則違反

常習賭博

村會議員選舉罰則違反

被告人所有ノ牛小屋ニ放火ス

賣藥法違反

森林放火

詐欺

詐欺

業務上横領詐欺

放蕩者兄ヲ殺害

傷害致死

事實審理

事實審理

事實審理

事實審理

事實審理、刑事訴訟法四四三

事實審理

事實審理、刑事訴訟法四一二、森林法一〇二

事實審理

事實審理

事實審理

事實審理、刑事訴訟法四四三

事實審理

七六二

七六六

七六九

七七一

七七三

七七九

七八二

七八四

七九〇

七九三

七九六

八〇〇

犯罪事實ノ認定ト證據說示ニ關スル大審院一大新判例(決定)	竊盜	事實審理、刑事訴訟法三六〇、一八〇二項、舊刑事訴訟法二〇三、二項	八〇二
強姦墮胎事件(決定)	醫學博士ノ犯罪	事實審理	八〇八
不敬罪新聞紙法違反事件(決定)	大本教主ノ心靈現象	事實審理、刑事訴訟法四四三	八一〇
強姦ト犯意ノ缺如(決定)	外國人ノ強姦	事實審理、刑事訴訟法四四三	八二八
死刑囚(不敬罪)ニ對スル特赦	爆彈輸入計劃中ノ朴夫妻ニ對シ死刑宣告ノ處死一等ヲ減ス(一名)	刑事局長通牒(大正十二年十二月五日)	八三一
判例研究召喚狀ノ件	新舊法ノ判例批評數種	大審院	八三三
新刑事訴訟法注意事項	強制捜査處分ノ請求其他九種		八三九
新刑事訴訟法注意事項	新舊訴訟手續ノ效力其他六種		八四七
司法省刑事局通牒			八五四

目次終

# 刑事判決書研究

公務執行妨害及傷害

判決

本籍 何縣何郡何村大字何番地

住居 同所

農

甲 野 一 郎

當 二 十 七 年



右ノ者ニ對スル公務執行妨害傷害被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

公務執行妨害及傷害

被告人ヲ懲役參月ニ處ス

理由

(一) 刑法ニ所謂公務員トハ官吏公吏及法令ニヨリ公務ニ從事スル職員委員其ノ他ノ職員ヲ指稱スルコト同法第七條ノ明定スル所ナレハ縱令官吏公吏ニ非スシテ公務ニ從事スル者アリトスルモ其ノ任用職務等ニ關シ法令上ノ根據アルニアラサレハ之ヲ目シテ公務員ト稱スルコトヲ得ス(大判、大正一四、一二、八日)

(二) 町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得ルコト町村制第七八條第二項ノ規定スルトコロナレハ町村長ハ町村稅納處分ヲ爲スコトヲ町村吏員タル書記ニ命スルコトヲ得ルモノト謂フヘク從ツテ村役場書記ハ同村長ニ依リ村稅納處分ニ爲ス職務權限ヲ有スルモノニシテ其ノ處分ハ同書記ノ職務執行ニ外ナラサルヲ以

葛城區裁判所執達吏宮崎堅忍カ債權者福井剛太郎ノ委任ヲ受ケ同裁判所大正十四年(ハ)第三十一號和解調書ニ付シタル執行正本ニ基キ強制執行ノ爲メ大正十四年七月二十八日午前十時頃被告人方ニ赴キ動産ノ差押ヲ爲シ居リタルトコロ被告人ハ右差押ニ付執達吏ノ採リタル態度ヲ憤リ拳ヲ以テ右宮崎堅忍ノ右手ヲ歐打シ因テ同人ニ治療日數三日ヲ要スル打撲傷ヲ負ハシメ以テ同執達吏ノ差押ノ執行ヲ妨害シタルモノナリ

證據省略

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中公務執行ヲ妨害シタル點ハ刑法第九十五條第一項ニ傷害ノ點ハ同法第二百四條ニ該當スル處一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ重キ傷害ノ刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ其刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役參月ニ處斷スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス(地控同罪)

大正十四年十一月六日

何區裁判所刑事部

判事 何

某印

證據湮滅及官文書毀棄 判決

休職三等郵便局長

甲 野 一 郎

當 三 十 九 年

右ノ者ニ對スル證據湮滅及官文書毀棄被告事件ニ付檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役參月ニ處ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

證據湮滅及官文書毀棄

テ之ニ對スル妨害ハ公務執行妨害罪ヲ構成スルモノトス(大判、大正一四、三、一六日)

(三) 刑事訴訟法第三二三條ニ依ル公判準備手續ニ關スル調書ハ之ヲ公判廷ニ顯出シテ證據調書爲スヲ要スル旨ノ規定存セサルヲ以テ受命判事カ被告人ヲ訊問シテ作成シタル公判準備調書ヲ公判ニ於テ法廷ニ顯出シテ以テ之カ證據調書爲ササリシトスルモ違法ニ非ス(大判、大正一三、五、二七日)

理由

被告人ハ静岡縣安信郡千代田村上土郵便局長在職中其知人ナル森田松藏カ大正十四年八月下旬頃其勤務先ナル静岡縣市西草深郵便局ニ於テ自己取扱中ノ同局金員ヲ森田ともニ貯金拂渡ヲ爲シタルカ如キ手續ニ於テ着服横領シタル事件ニ付同人ニ該不正事實アリタルヲ感知シナカラ其頃自宅ニ於テ之ヲ庇護スル目的ヲ以テ

第一 (後記ロ) 右松藏ニ對シ右貯金拂戻ニ使用シタル角形印章ヲ湮滅スヘク教唆シ因テ同人ヲシテ其頃同人宅ニ於テ該印章ヲ燒燬スルニ至ラシメ

第二 尙前記森田とも貯金通帳ノ當初預入局カ右上土郵便局ニシテ同局備付ノ貯金交付簿中右とも名義欄ニ事實上ノ貯金者タル静岡市兩替町森田松藏ノ略記トシテ兩替町森田ナル附記アリ又其名下ニ當初預入ノ橢圓形印影ノ存在シアリタルヨリ(後記イ)右附記ヲ墨ニテ塗抹シ(後記ハ)右印影ヲ指頭ニテ磨消シタルモノナリ

而シテ右第一、第二ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノニシテ證據湮滅ノ教唆並ニ證據湮滅ノ罪ヲ各構成シ第二ノ所爲ハ一面公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シ

(一) 罰金以上ノ利ニ該ル罪ヲ犯シタルモノトシテ捜査中ノ者ナルコトヲ知り之ヲ藏匿シ又ハ隠避セシムル行爲ハ刑法第一〇三條ノ罪ヲ構成スルモノニシテ同罪ヲ以テ處斷スルニ付テハ必シモ其ノ確定的犯人タル事實及證據ヲ舉示スルノ要ナシ(大判、大正一二、五、九日)

タル罪ニ該ルモノトス

證據省略

法律ニ照スニ第一事實ハ刑法第四百四條第六十一條第一項ニ第二事實ハ同法第四百四條第二百五十八條ニ各該當シ右證據湮滅ノ教唆ト證據湮滅トノ間ニハ連續關係アリ而モ第二事實ノ證據湮滅ト公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄トハ一所爲ニシテ二罪名ニ觸レタル場合ナルヲ以テ結局同法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ本件全事實ニ對シ重キ同法第二百五十八條ノ刑ヲ以テ臨ムヘク仍テ犯情ヲ按スルニ本件犯行ノ動機カ何等私慾ニ基カスシテ全ク友情ニ出テタルト貯金交付簿カ郵便實務取扱上重要ノ帳簿ニアラサルトニ鑑ミ該所定期中最短期懲役三月ヲ量定處斷スヘキモ苟クモ郵便局長タル被告カ郵便局ニ於ケル不正事件ニ關シテ本件ノ罪ヲ犯シ而モ未タ改悛ノ情顯著ナリト認ムルニ足ルモノナキニ想到スレハ今直チニ執行猶豫ヲ與フヘキ案件ニアラス仍テ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

(地、控、執行猶豫)

大正十四年十月十四日

騷擾

判決

魚仲買商 甲 野 一 郎

當 三 十 六 年  
外 二 十 一 名

右ニ對スル騷擾被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某立會ノ上審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト  
左ノ如シ

主 文

被告人甲野一郎ヲ懲役八月ニ被告人宮崎喜太郎同高橋泰吉同大塚勝治同  
山田鍵一郎彦坂秀雄ヲ各懲役六月宛ニ處ス

但シ以上各被告人ニ對シ本判決確定ノ日ヨリ三年間各其刑ノ執行ヲ猶豫  
ス  
被告人山岸房治同宮本秀吉同小川政次郎同佐藤辰三郎同大久保保之助同  
飯田信三郎同加藤綱太郎同内山弘一同岡田庫吉同川合武一同荻元久治同  
山本喜平治同島村新太郎同松下竹次郎ヲ各罰金三十圓宛ニ處ス若シ該罰  
金ヲ完納スル事能ハサルトキハ同被告人ヲ孰レモ拾五日間勞役場ニ留置  
ス

理 由

被告人等ハ孰レモ日本橋魚市場組合ニ屬スル魚商又ハ其雇人ニシテ同組合ハ元東京  
市日本橋區魚河岸ニ於テ毎年營業ヲ爲シ來リシカ大正十二年九月ノ大震災災ニ遭ヒ  
市場營業ノ一切ノ設備ヲ失ヒタルヨリ其後東京市當局ト交渉ノ結果京橋區築地町河  
岸ニ於テ同市ノ建設ニ係ル市場建物ヲ無料ニテ借受ケ此處ニ市場ヲ移轉シテ其營業  
ヲ繼續シ來リシ處大正十三年三月下旬東京市ニ於テ同年度豫算案ヲ編成スルニ際シ  
同市場營業者ヨリ其賣場高ノ千分ノ五ノ手数料ヲ徵收スルコトト爲シ既ニ豫算委員

騷擾

七

(一)  
刑法第一〇六條ノ騷擾罪  
ハ多衆聚合シテ暴行又ハ  
脅迫ヲ爲スニヨリテ成立  
スルモノニシテ多衆カ共  
同ノ力ヲ利用シテ暴行又  
ハ脅迫ヲ爲スコトヲ要ス  
ルモ其ノ他ニ特ニ騷擾ノ  
意思又ハ騷擾ノ行爲アル  
コトヲ要セザルノミナラ  
ス其ノ暴行脅迫力不定ノ  
多數人ニ對スルト特定ノ  
一個人ニ對スルトハ本罪  
ノ成立ニ何事ノ影響ナキ  
モノトス(大刑、大正一  
三年れ第四七五號)

(二) 刑法第一〇六條ハ多衆共  
同シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲  
スニ依リテ成立スルモノ  
ニシテ治安警察法第一二  
條ハ集會又ハ運動ノ爲メ  
聚合シタルモノカ各個獨  
立ノ意思ヲ以テ故ラニ  
喧擾シ又ハ狂暴ニ涉リタ  
ル行爲ヲ爲シタル場合ニ  
成立ス又刑法第一〇七條  
ハ初メヨリ共同シテ暴行  
又ハ脅迫ヲ爲ス目的ヲ以  
テ聚合シタルモ其實行ナ  
キ點ニ於テ騒擾罪ト異ル  
(大判、大正四、一〇、三  
日)

(三) 本條ハ騒擾ノ行爲其者ヲ  
公益ニ害アリトシテ處罰  
スルモノナルカ故ニ目的  
ノ適法ハ手段ノ不法ヲ妨  
クルコトナシ又苟モ多衆  
ノ聚合アラハ足ルカ故ニ  
當初ヨリ暴行脅迫ヲ自ラ  
目的トシテ集會シタルモ  
ノナレコトヲ要セス他ノ

目的ノ爲メニ集會シタル  
多衆カ中途ヨリ暴行脅迫  
ヲ爲スモ亦本罪ナリ(法  
學博士牧野英一氏増訂刑  
法通義二二三頁)

(四) 主觀的要素トシテハ多衆  
ノ間ニ共ニ暴行又ハ脅迫  
ヲ爲スノ認識アルヲ必要  
トス從ツテ例ヘハ村祠祭  
禮又ハ戰捷祝賀其他多衆  
聚合スル機會ニ於テ進退  
容易ナラス互ニ相壓迫シ  
テ雜踏ヲ極メ遂ニ一構事  
ヲ惹起スル場合ノ如ク多  
衆聚力ヲ持ミテ暴行又  
ハ脅迫ヲ爲スノ意思ナキ  
トキハ本罪ヲ構成セス然  
レトモ多衆暴行脅迫ヲ爲  
スノ目的ヲ以テ聚合シタ  
ルコトヲ必要トセサルカ  
故ニ最初祭禮又ハ運動會  
等ノ爲メニ聚合シタル多  
衆カ與ニ乘シテ暴行又ハ  
脅迫ヲ爲スガ如キ場合ト  
雖モ公共ノ騒擾ヲ生スル  
程度ノモノタル以上ハ本  
罪ヲ構成スルモノト認め

會及市參事會ノ承認ヲ經テ該案ハ將ニ來ラントスル市會本會議ヲモ其儘通過セント  
スル情勢ニ在リシ折柄偶々之ヲ聞知シタル同市場ノ組合員及營業關係者ハ大ニ騒キ  
災禍未タ幾何ナラサルニ名ヲ手數料ニ籍リ賃料ノ徵收ヲ強ユルモノナリシ爲メ俄ニ  
時ノ市會議員其他市有力者ヲ訪問シ該案阻止ノ運動ヲ開始スルト共ニ一方市會ニ於  
ケル該案上程ノ日タル同年三月二十九日ハ早朝ヨリ市場關係者數百名ヲ集メ示威運  
動ノ爲メ旗ヲ推立テ列ヲ爲シテ東京市役所ニ到リ當時同市場組合ノ取締役タリシ甲  
野一郎等外百餘名ハ市會議事堂内傍聽席ニ據リ其他ノ數百名ハ議事堂外ノ廣場ニ集  
合シ該案通過阻止ノ運動ニ努メタルモ時機既ニ遅ク市會ノ大勢ハ該豫算案ノ修正ヲ  
悦ハス漸クニシテ市會議員小坂梅吉(料亭松本樓主人ニシテ市參事會員タリシ人)  
坪野房次郎等ノ盡旋ニ依リ開催セラレタル市會各派ノ交渉委員會ニ於テ該豫算案ハ  
一先之ヲ通過セシムルモ後日市會ニ於テ右市場ノ施行條例ヲ決定スルニ當リテ同組  
合ノ希望ヲ容レ前記手數料ノ徵收ヲ免除スル様取計フヘキ旨申合セ市當局ノ諒解ヲ  
得タル上同夜九時頃市會本會議ニ於テ三十票對十五票ノ差ヲ以テ該算案ノ通過ヲ見  
ルニ至リタルカ右ノ内情ヲ知悉セサル議場内外ノ群集ハ該案ノ通過ヲ聞キテ一途ニ  
激昂シ急テ甚シキ混亂ニ陥リ或ハ反對議員ヲ毆リ殺セト叫ヒテ押寄せ或ハ閉聲ヲ舉

ケテ騒キ將ニ多數ニテ何等カノ暴舉ニ出テントスル狀勢ヲ呈スルニ至リタリ  
然ルニ之ヨリ曩前記市會議員小坂梅吉ハ市會各派ノ交渉委員會ニ於ケル協定ニ依リ  
同市會ノ歸決ヲ豫見シ會議半ニシテ和田ノ爲メ議場ヲ退席シ採決ニ加ハラサリシ處  
斯ル内情ヲ知悉セサル多數群集ハ同氏ヲ目シテ組合ノ信賴ヲ裏切り私カニ議場ヲ逃  
レタルモノト誤解シ憤激ノ餘リ同氏ニ報スルトコロアラントシ退散ノ歸途凡ソ二百  
名ハ閉聲ヲ舉ケテ同人ノ經營ニ係ル京橋區尾張町二丁目二番地料亭松本樓ヲ襲撃シ  
同夜十時頃附近ノ公路ニ集合シテ竹竿石木煉瓦等ヲ以テ同樓ノ窓硝子及障壁等ヲ破  
壞シ尙隣家黒澤商店裏ノ窓硝子ヲモ破リタルノミナラス同樓雇人深山直吉及取締役  
巡查空戸重雄白畑周三等ニ對シ暴行強迫ヲ加フル等狼籍ヲ極メ因テ一時銀座通電車  
ノ交通ヲモ停止スルニ至ラシメ附近ノ靜謐ヲ害シタルモノニシテ該騒擾ヲ醸スニ當  
リ

第一 被告人甲野一郎ハ前記議案ノ通過ヲ見テ憤慨シ議事堂内傍聽席ヨリ出ツル  
ヤ玄關先ノ石段上ニ立テ熱狂セル前示ノ群集ニ向ヒ松本樓ノ小坂梅吉ハ吾々ト  
密接ノ關係アリ握手迄セシ間柄ナルニ拘ラス中途ニ議場ヲ退席シ吾々ニ賛成ノ  
投票ヲ爲ササリシ皆サン此事ヲ好ク覺エテ居テ後テ松本樓ニ御禮ヲ仕ヤウ云々

サル可カラス若シ夫レ多  
衆聚合シテ暴行又ハ脅迫  
ヲ爲スノ目的カ朝憲ヲ紊  
亂セントスルニアルト  
キハ則チ内亂罪ヲ構成ス  
ルカ故ニ騷擾ノ罪ニハ此  
ノ目的ノ存在セサルコト  
ヲ必要トスルハ勿論ナリ  
反之其他ノ一定ノ目的  
(動機又ハ緣由)カ多衆ノ  
間ニ共通的ニ存在スルコ  
トハ素ヨリ本罪ノ成立ヲ  
妨クルモノニアラスト雖  
モ是レ亦本罪成立ノ要件  
ニハアラス(法學博士泉  
二新熊氏日本刑法論下編  
三三版九七四頁)

(五)  
騷擾罪ハ其ノ行爲ノ結果  
特ニ當該地方ニ於ケル靜  
謐ヲ害スル事ヲ要件トス  
ルモノニ非ス(大判、大正  
一三、七、一〇日)

- ト演説シ暗ニ報復ノ實行ヲ諷刺シ以テ前記騷擾ノ釀成ニ付率先シテ其勢ヲ助ケ
- 第二 被告人櫻井幸三郎ハ前記議事堂前ノ石段附近ニ於テ右甲野一郎ノ演説ニ次  
キ松本樓へ行ケト叫ヒ一同ノ先頭ニ立チテ同樓ニ押寄セ其裏通ニ面シタル同樓  
硝子戸ニ煉瓦片數個ヲ投付ケ以テ其勢ヲ助ケ
- 第三 被告人高橋泰吉ハ同市役所廣場ニ於テ同様松本樓ニ行ケト叫ヒナカラ先頭  
ニ立チテ同樓ニ押寄セ衆ニ先ンシテ裏通ニ面シタル同樓普請場板圍ノ大扉ヲ押  
倒サント試ミ以テ其勢ヲ助ケ
- 第四 被告人大塚勝治ハ同様先頭ニ立チテ同樓ニ押寄セ率先シテ右板圍ノ大扉ヲ  
押開キ以テ其勢ヲ助ケ
- 第五 被告人宮崎喜太郎ハ衆ト共ニ右松本樓ニ押寄セ率先シテ表電車通ニ面シタ  
ル同樓食堂ノ硝子窓ニ竹竿ヲ突入シテ搔キ廻シ且木煉瓦ヲ投付ケ取締巡查ノ制  
止ヲ受ケテ之ニ反抗シ其ノ勢ヲ助ケ
- 第六 被告人下川榮之助ハ衆ト共ニ同樓ニ押寄セ同樓前ノ電車通ニ於テ率先シテ  
ヤレ々々ト叫ヒナカラ同食堂ノ壁ニ木煉瓦ヲ投付ケテ其勢ヲ助ケ
- 第七 被告人山田健一郎ハ同様同處ニ於テ衆ニ先立チヤレ々々ト叫ヒナカラ同食

堂ニ投石シ以テ其勢ヲ助ケ

第八 被告人彦坂秀雄ハ同様同處ニ於テヤツツケロト叫ヒナカラ率先シテ同食堂  
ノ店内ニ木煉瓦ヲ投込ミテ其勢ヲ助ケ

第九 被告人山岸房吉同宮本秀吉同小川政次郎同佐藤辰三郎同大久保保之助同飯  
田信三郎同加藤綱太郎同内山弘一同岡田庫吉同川合武一同荻元久治ハ孰レモ群  
集ニ隨從シテ前記松本樓ニ押寄セ同樓表電車通リヨリ同樓食堂ニ向テ木煉瓦ヲ  
投付ケ以テ附和雷同シ被告人山本喜平治同島村新太郎同松下竹次郎ハ同様群集  
ニ隨從シテ同樓ニ押寄セ裏通ニ面セル同樓建築場ニ向ヒ被告人喜平治及竹次郎  
ハ同建築場板圍羽目板ヲ剝取り以テ附和雷同シ  
孰レモ本件騷擾行爲ニ加擔シタルモノナリ

證據省略

法律ニ照スニ被告人甲野一郎櫻井幸三郎高橋泰吉大塚勝治宮崎喜太郎下川榮之  
助山田健一郎彦坂秀雄ノ各所爲ハ孰レモ刑法第百六條第二號後段ニ該當スルヲ  
以テ被告人一郎ニ對シテハ懲役八月被告人幸三郎泰吉勝治喜太郎榮吉健一郎秀  
雄ニ對シテハ各懲役六月ニ處スヘク但シ以上各被告人ニ對シテハ孰レモ其情狀



ニ照シ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當トスルカ故同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク被告人山岸房治宮本秀吉小川政次郎佐藤辰三郎大久保保之助飯田信三郎加藤綱太郎内山弘一岡田庫吉川合武一荻元久治山本喜平治島村新太郎松本竹次郎ノ各所爲ハ同法第百六條第三號ニ該當スルヲ以テ以上各被告人ニ對シテハ孰レモ罰金三十圓宛ニ處スヘク若シ該罰金ヲ完納セサルトキハ同法第十八條第一項ニ依リ其被告人ヲ十五日間勞役場ニ留置スヘキモノトス次ニ本件公訴事實中被告人宮崎喜太郎ハ判示騷擾ノ際取締ノ制服巡查ニ對シ逮捕ノ處分ヲ爲ササラシムル爲メ之ヲ毆打スヘキ態度ヲ示シテ同巡查ニ脅迫ヲ加ヘタリトノ點並ニ被告人大塚勝治ハ判示松本樓内ニ侵入シタリトノ點ハ孰レモ其證明不十分ニシテ犯罪ノ成立ヲ認メサルモ判示認定ノ犯罪ト索連ニ係ルモノトシ公訴セラレタルモノナルヲ以テ此點ニ付特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

仍テ主文ノ如ク判決シタリ

大正十四年十二月二十四日

何地方裁判所第二刑事部

騷擾

判決

鑄物職工

甲

野

一

郎

當四十年

外十五名

右ニ對スル騷擾被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與被告甲野一郎甲野五郎甲野四郎ノ三名ヲ除ク其餘ノ者ハ大正十四年十一月二十五日ノ公判期日ニ出頭セサルヲ以テ其陳述ヲ聽カスシテ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告甲野二郎ヲ罰金五十圓ニ被告甲野八郎甲野九郎甲野十郎甲野十三郎ハ各罰金四十圓ニ被告甲野三郎甲野四郎甲野五郎甲野七郎甲野十一郎甲

野十二郎ハ各罰金三十圓ニ被告甲野六郎甲野十四郎甲野十五郎甲野十六  
野ハ各罰金二十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ執レモ一日金二圓ノ割合ニ依リ勞  
役場ニ留置ス

被告甲野一郎ハ無罪

理 由

被告人等ハ東京府南葛飾郡大島町四丁目十五番地所在株式會社大島製鋼所ノ元職工  
ナルトコロ同會社ハ大正九年頃ヨリ營業ノ不振ヲ來シ每期缺損ヲ生シ經營困難ニ陷  
リタルニ依リ幹部ヲ更迭シテ事業ノ刷新ヲ圖ルト同時ニ大正十一年八月二十一日職  
工ノ賃銀制度ヲ變革シ從來ノ一般的獎勵手當金支給制度ヲ撤廢シテ各職工ニ付技能  
及作業能率ヲ斟酌シ一割乃至二割ノ定給賃銀ノ増額ヲ發表シテ定給制度ト爲シタ  
ルトコロ一般ニ職工ノ收入ニ減少ヲ來シタル爲不平ノ聲漸次盛ントナリタル際偶々  
會社カ大阪ヨリ招聘シタル職工梶山五三郎ヲ役付職工ニ任命シタル爲メ愈不平ノ聲  
ヲ高メ他面右職工梶山ノ排斥運動ニ從事シタル職工村田信次外六名ヲ大正十一年十

月三日突然解雇シ其手當金トシテ僅カニ日給十四日分ヲ給シタルニ過サリシ爲メ職  
工中ニ不安ノ念ヲ醸シ茲ニ爭議ノ端ヲ發シ大正十一年十月五日及六日ノ兩度ニ職工  
等ハ請負利益金歩合ヲ引上ケテ前記賃銀制度變革前ト大差ナキ收入ヲ得セシメ解雇  
手當支給規定ヲ定メ且公病私病ノ場合ニ適當ノ手當ヲ支給スルコト等ニ關スル嘆願  
書ヲ提出シ會社ハ之ニ對シ同月九日請負歩合増率ヲ平均三割マテ支給スルコト等ノ  
回答ヲ爲シタルモ右職工等ノ嘆願全部ヲ容ルルニ至ラザリシヨリ職工等ハ同日改メ  
テ前記嘆願事項ノ外外來者ヲ直ニ役付職工ニ任命セサルコト理由ナキ不當解雇ヲ爲  
ササルト等ヲ加ヘタル十ヶ條ノ要求書ヲ提出シ翌十日更ニ定傭工賃ヲ三割ノ歩増ヲ  
附スルトノ追加要求ヲ爲シ之カ會社ノ容ルルトコロトナラサルヤ職工等ハ漸次怠  
業狀態ニ陥リタル爲會社ハ同月十一日工場全部ノ休業ヲ發表シテ通用門ヲ閉鎖シ且  
横尾有三郎外四十一名ノ解雇ヲ斷行シテ工場閉鎖ヲ繼續シタルモ同月十六日ニ至リ  
鍛冶工場外一工場ノ作業ヲ開始シ爭議ニ參加セサル職工ヲ入場作業セシメ又爭議參  
加ノ職工ト雖モ爭議團ヲ脱退シテ入場ヲ希望スル職工ハ順次入場作業セシメ居タル  
トコロ横尾有三郎外多數ノ職工ハ其間前記大島町二丁目三十一番地所在ノ大島勞働  
會館ニ集合シ鶴岡貞之ノ指導ニ基キ會社ニ對スル對抗策ニ協議シタル結果殆ント全

部ノ職工ヲ純労働者組合城東支部ニ加入セシメ該支部ヲ以テ爭議團トナシ右加入職  
工中ヨリ評議員其他ノ役員ヲ選定シ横尾有三郎ハ其支部長即團長ト爲リ職工弓削秀  
須藤喜一郎及川丈之助甲野一郎正岡高一久保勇冲志樓本野正之前田近藏被告甲野  
二郎等ハ各其評議員中ノ最高幹部トナリテ參加職工等ノ結束ニ努メ前記會館ヲ爭議  
團本部ト爲シ前記要求ノ貫徹ヲ期セント欲シ屢代表者ヲ以テ會社重役ニ交渉ヲ重ネ  
タルモ會社ハ其後唯解雇手當支給規定ヲ發表シタルニ止マリ前記要求ハ到底之ヲ容  
ルルニ至ラス却テ十月二十三日ニハ職工前田近藏外十一名ノ第二回ノ解雇ヲ斷行シ  
更ニ十月二十七日ニハ一般職工ニ對シ同月末日限り入場作業セサル者ハ自由退職者  
ト認ムヘキ旨通告シタルヨリ爭議團ハ之ニ對抗スル爲メ爭議解結前ハ單獨入場セス若  
シ之ニ反スルトキハ鐵拳制裁ヲ加ヘ且全國ノ工場ニ白票ヲ廻付シテ就職不能ト爲ス  
ヘキコト等六箇條ノ決議ヲ爲シ愈結束ヲ固メテ罷業ヲ繼續シ飽迄強硬ノ態度ヲ持シ  
タルモ十一月一日ノ會見ニ於テ交渉不調トナリ從來ノ運動方法ヲ以テハ到底其目的  
ヲ貫徹スルコト覺束ナキヲ悟リタルヲ以テ其翌二日爭議團參加職工等ハ前記大島  
労働會館ニ集合シ猛烈ナル示威運動ヲ爲シテ會社ニ其結束力ノ強固ナルヲ示シ因テ  
會社ニシテ其要求ヲ容ルルノ外ナキコトヲ知ラシメンコトヲ謀リ同日午後二百名ノ

參加職工等ハ隊伍ヲ組ミテ右會館ヲ出發シ労働歌ヲ高唱シテ前記會社ノ閉鎖中ナル  
表正門前ニ押寄セ門衛トノ間ニ二、三問答ヲ爲シ居ル中群衆中ニハ或ハ萬歳ヲ絶叫  
シ喊聲ヲ揚ケ或ハ構内ニ投石スル者又ハ正門脇ノ板塀ヲ破壊スル者ヲ生シ漸次騷擾  
ノ氣勢ヲ醸シ忽チ衆力ニヨリ正門ヲ押破リテ構内ニ亂入シ閑ノ聲ヲ揚ケナカラ會社  
ノ表事務所ニ殺到シ同事務所ノ扉及廊下左右ノ硝子戸並ニ板ノ間ノ壁ニ設備シアリ  
タル姿見等ヲ破壊シテ重役室ニ闖入シタルモ重役等カ逸早く逃避シタルヨリ表事務  
所内ヲ通過シテ裏手ノ廣場ニ出テ更ニ集合シタル上大舉シテ鑄物工場ニ殺到シ鑄型  
其他ノ器具ヲ轉覆毀壞シ同工場内事務所及役付職工詰所ニ器物鐵片瓦石木片等ヲ投  
ケ付ケ硝子戸等ヲ破壊シ電話機其他ノ備品ヲ毀壞シ轉シテ電氣場ヲ襲撃シ窓硝子  
等ヲ破壊シ騷擾ヲ爲シタルモノニシテ被告一郎ヲ除ク其他ノ被告人等ハ孰レモ前記  
騷擾ニ參加シ群衆ト共ニ會社表正門ニ押入り「ワツシヨワツシヨ」「ワアーワアー」  
等喧騒シナカラ會社構内ヲ通過シ以テ前記騷擾ニ附和隨行シタルモノニシテ其間イ  
被告八郎ハ鑄物工場伍長室ヘ煉瓦缺ヲ投付ケテ窓硝子ヲ破壊シ(ロ)被告九郎ハ表事務  
所廊下ノ硝子戸ヲ強壓シテ其硝子ヲ破壊シ且鑄物工場ニ於テ事務所ノ窓硝子ニ石ヲ  
投ケ付ケテ其硝子ヲ破壊シ(ハ)被告三郎四郎五郎七郎十一郎十二郎ハ手拳又ハ肱ニテ

證據省略

法律ニ照スニ被告人等ノ判示各所爲ハ孰レモ刑法第六條第三號ニ該當スルヲ以テ同條所定期範圍内ニ於テ被告二郎ヲ罰金五十圓ニ被告八郎九郎十郎十三郎ハ各罰金四十圓ニ被告三郎四郎五郎七郎十一郎十二郎ハ各罰金三十圓ニ被告六郎十四郎十五郎十六郎ハ各罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ孰レモ一日金二圓ノ割合ニヨリ勞役場ニ留置スヘキモノトス

而シテ被告一郎ニ係ル同人カ前記騷擾ノ謀議ニ參與シタル後大島勞働會館ニ集合セル多數ノ職工等ニ對シ會社トノ交渉不調ニ歸シタル顛末ヲ報告シ此ノ上ハ暴力ニ訴フル外ナキ旨過激ノ演說ヲ爲シ參加職工ヲ激勵シテ騷擾ノ氣勢ヲ作りタル上其他ノ幹部ト共ニ群集ヲ率ヒテ前記會社ノ正門ニ押掛ケ群集ト共ニ表門ヲ押破リテ會社構内ヘ闖入シ群集ニ對シ率先シテ「遅レルナ遅レルナ」「早く早く」ト號令シ以テ前記騷擾行爲ノ指揮ヲ爲シタリトノ公訴事實ハ證據不十分ニシテ其證明ナキヲ以テ無罪ノ旨渡ヲ爲スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年十二月二十一日

何地方裁判所第三刑事部

放 火

判 決

芝生養成業

甲

野

一

郎

當 二 十 九 年

右ノ者ニ對スル放火被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役拾年ニ處ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

(一) 現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現住スル建築物ヲ滅燬セル事實ヲ認めメ之ヲ刑法第百八條ノ重キ罪ニ間接セントスル場合ニ於テハ燒燬シタル建築物カ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現住セル事實ニ付證據ヲ明示スル事ヲ要ス然レトモ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現住セル建築物ヲ燒燬セル事實ヲ認めメ之ヲ刑法第百九條ノ輕キ罪ニ間接セントスル場合ニ於テハ必スシモ燒燬シタル建築物カ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現住セル事實ニ付證據ヲ明示スル事ヲ要セズ多人ノ住居シ得ヘキ建築物ナル事ニ付證據ヲ明示スルヲ以テ足ルモノトス

(大判、大正一四、(レ)第六〇〇號)

(二) 人ノ住居ニ使用スル建築物ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ

被告

二〇

被告人ハ大正十三年七月頃ヨリ東京府北豐島郡長崎村字西向三千七百三十二番地内ノ土地ヲ地主田島兼吉ヨリ賃借シ該地上ニ概算約三千圓ノ經費ヲ以テ家屋一棟ノ新築工事ヲ爲シ大正十三年八月末頃同家屋ニ付東京海上火災保險株式會社ト保險金三千圓契約期間自大正十三年八月三十日至大正十四年八月三十日ナル火災保險契約ヲ締結シ後更ニ大成海上火災保險株式會社ト大正十三年九月二日新築家屋ニ付保險金四千圓契約期間自大正十三年九月二日至大正十四年九月二日ナル火災保險契約及同會社ト大正十四年一月十三日該家屋内ノ被告人所有ニ係ル動産ニ付保險金二千圓契約期間自大正十四年一月十三日至大正十五年一月十三日ナル火災保險契約ヲ締結シ尙該家屋ニ對シ被告人ノ債權者ナル東京府北豐島郡西巢鴨町字池袋三家二千三百九十四番地板倉誠ノ爲メニ一番抵當權及千葉縣長生郡茂原町上林百九十七番地板倉千秋ノ爲メニ二番抵當權ヲ各設定シタルトコロ借財合計五千圓ニ達シ之カ辨濟ニ窮シ且ハ賣掛代金ノ回收意ノ如ク成ラス芝生業モ亦振ハス生計次第ニ困難トナリ遂ニ此處ニ於テ大正十四年二月十日頃自宅ニ放火シテ保險金ヲ獲得セムコトヲ企テタルカ之カ犯罪事實ヲ隱蔽スル爲ニハ寧ロ他ノ空家ニモ放火シ其間自宅ヲモ燒燬セムコトヲ決意シ犯意ヲ繼續シテ

他ノ建築物ニ放火シ其燒燬作用ニ依リ同住宅ヲ燒燬シ得ヘキ状態ニ措キタルトキハ未タ住宅ニ延燒セサルトキト雖住宅燒燬罪ノ未遂犯ヲ構成スルモノトス

住宅燒燬 目的ヲ以テ住宅ノ屋根ニ接スル草葺物置ヨリ僅カニ七尺ヲ隔ツル草葺二階建築物内ノ藁ニ所持ノ燐寸ヲ以テ放火シ其住宅ニ延燒セシメント計リタルモ他人ノ爲メニ消止メラレ該物置ノ一部ヲ燒燬シタルニ止マリ所期ノ目的ヲ達クルニ至ラザリシ所爲ハ住宅燒燬罪ノ未遂犯ヲ構成スルモノトス(大判、大正一一、一一、二二日)

(三) 直接ニ犯人ノ目的トスル他人ノ住宅ニ放火セスシテ間接ニ導火材料ノ燒燬作用ヲ藉リテ目的タル住宅ヲ燒燬シ得ヘキ事ヲ認識シ導火材料ニ點火シ其

被告

二一

第一 大正十四年二月十日午後十一時頃東京府北豐島郡長崎村字西向三千六百九十四番地所在秋元銀次郎所有ニ係ル漬物小屋ノ西側南角ノ軒下ノ丸太上ニ積重ネアリシ麥殼ニ燐寸ヲ以テ放火シ因テ右建築物ヲ燒燬シ因テ更ニ同人所有ノ物置並右秋元方住居ニ延燒セシメ

第二 同月十二日夜十一時過頃同村字大和田二千二百六十三番地所在東京市淺草區須賀町十八番地永野重藏所有ニ係ル三戸建空家一棟ノ北端ノ一戸ノ西側椽側下ニアリシ空俵ニ燐寸ヲ以テ放火シ因テ右長屋一棟ヲ燒燬シ

第三 同夜右放火後直チニ同所ヨリ西方約二町ヲ距テタル同村字大和田二千六十五番地所在東京府北豐島郡板橋村字江古田二千二百二十七番地田切ゑい所有ニ係ル二階二戸建空家ニ到リ其土間ノ鈔屑ニ燐寸ヲ以テ放火シ右家屋ヲ燒燬シ因テ更ニ附近ノ空家二棟及原田定次郎住居一棟ニ延燒セシメ

第四 同月十五日夜十一時頃東京府北豐島郡長崎村大字五郎窪四千四十四番地所在同府同郡高田町字巢鴨代地三千五百五十三番地春日敏所有ノ平家一戸建空家一棟ノ北側羽目板ノ下ニアリシ紙屑ニ燐寸ヲ以テ點火シ以テ同家ニ放火シテ之ヲ燒燬シ更ニ附近阿部某ノ住居一棟ニ延燒セシメ

燒燬作用ヲ繼續シ得ヘキ  
状態ニ置キタル場合ニ於  
テハ未ダ住宅ニ燃焼セサ  
ルトキト雖モ刑法第一〇  
八條ヲ以テ論ス可キ罪ノ  
未遂ヲ構成スルニ妨ナシ  
(大判、大正三、一〇、一三  
日)

放 火

三三

第五 愈々同月十八日當時空家ナリシ被告人自宅ヲ燒燬センタメ之カ準備ヲ爲シ  
同月二十日夜十一時頃前記自宅内東部八疊ノ座敷ノ床ノ間ノ未タ末板ヲ張ラサ  
リシ所ニ在リタル鉤屑ニ燐寸ヲ以テ放火シテ以テ同家屋ヲ燒燬シ

第六 同夜右自宅ノ放火ヲ爲シタル後直チニ同村西向三千六百六十六番地田島市  
五郎方屋敷内西南ニ存スル物置ニ逃込ミ居ル内右物置西側軒下ニ積重ネアリシ  
藁ニ燐寸ヲ以テ放火シ以テ該物置ノ柱及屋根ノ各一部ヲ燒キ以テ該物置ヲ燒  
シ

第七 右放火ノ後直チニ逃走シテ同村字大和田一千九百五十四番地所在長野縣北  
佐久郡御代田村込山培助所有ノ二階二戸建空家一棟ノ中ニ身ヲ隠シ人々ノ騒キ  
ヲ待チ居ル内南側ノ一戸内六疊ノ間ノ押入内ニ蠟燭ヲ發見シタルヲ以テ茲ニ亦  
右蠟燭ニ燐寸ヲ以テ點火シ之ヲ押入ノ襖ニ接着シテ内側敷居ノ上ニ立テ以テ漸  
次襖ニ燃移リ自然家屋ヲ燒クカ如キ方法ニテ同家屋ニ放火シテ逃走シ因テ襖ヨ  
リ鴨居及天井ノ各一部ヲ燒キ以テ同家屋ヲ燒燬シタルモノナリ

右事實中被告人カ判示ノ頃判示場所ニ判示家屋ヲ新築シ之ニ對シ判示ノ火災保險契  
約ヲ締結シタルコト判示家屋ヲ判示ノ如ク抵當ニ入レテ他ヨリ金借ヲ爲シタル外總

テ借財合計約五千圓ニ達シタルモ其辨濟ノ途ナク生計モ亦次第ニ困難トナリ甚シク  
苦境ニ陥リタルコトハ被告人ニ對スル豫審第一回訊問調書中ノ同人ノ其旨ノ供述記  
載ニ依リ之カ爲メ遂ニ自宅ニ放火シテ保險金ヲ獲得セムコトヲ企テタルコト其犯行  
ヲ隱蔽スル爲メニ空家ニモ放火セムト決心シテ斯クノ如ク引續キ他ノ空家ニモ放  
火ヲ爲シタリトノ點ハ被告人ニ對スル豫審第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ同趣  
旨ノ記載アルニ依リ各之ヲ認ム被告人ハ警察檢事局ニ於テハ全部ノ犯罪事實ヲ認メ  
豫審公判準備手續ニ於テハ第二第四第五第六ノ事實ヲ認ムルニ過キササルヲ以テ順  
次之カ證據ヲ按スルニ第一事實ハ其燒燬並ニ延燒ノ點ヲ除キ被告人カ判示日時判示  
場所ノ麥殼ニ燐寸ヲ以テ放火シタリトノ點ハ被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書中  
同人ノ供述トシテ警察ニ於テハ判示ノ日夜十時頃判示ノ通り放火シタル如ク申立テ  
タリトノ記載ト證人古川美左衛門ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ被告人  
ハ自分ノ警察ニ於ケル取調ニ對シテ判示ノ如ク放火事實ヲ申立テタリトノ記載ト證  
人高瀬すぎ證人秋元銀次郎ニ對スル豫審訊問調書中同人等ノ供述トシテ判示場所  
ニハ當時麥藁カ存在シタル旨ノ各記載ト證人秋元銀次郎ニ對スル同調書中同人ノ供  
述トシテ火事ノアリシハ夜十一時少シ前頃ナリトノ記載トニ依リ燒燬並延燒ノ點ハ

證人秋元銀次郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ其旨ノ記載ニ依リ各之ヲ認メ

第二事實ハ所有者カ永野重藏ナリトノ點及燒燬ノ點ヲ除キ其餘ノ事實ハ被告人ニ對スル第三回豫審訊問調書中(第二六五丁乃至第二六八丁)ノ同人ノ供述トシテ其夜判示ノ如ク放火シタリトノ旨ノ記載ト證人高橋友五郎ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ判示ノ火事ノアリタル時刻ハ大體十一時半頃ト思フトノ旨ノ記載トニ依リ所有者カ判示永野重藏ナリトノ點及燒燬ノ點ハ證人永野重藏ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ其旨ノ供述記載ニ依リ各之ヲ認メ

第三事實ハ所有者カ田切ゑいナリトノ點及燒燬並ニ延燒ノ點ヲ除キ被告人カ判示日時判示空家土間ノ鉋屑ニ燐寸ヲ以テ放火シタリトノ點ハ被告人ニ對スル第四回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ警察ニ於テハ第二事實ノ放火後直チニ二、三丁西南ノ方ニ眞直ニ行キ途中畑ヲ斜ニ突切り新築中ノ判示家屋内ニ入り鉋屑ニ火ヲ放チソレヨリ西ノ方ニ三、四丁逃ケテ植木溜ノ中ニ暫ク隠レタリトノ旨申立テタリトノ記載ト證人古川美左衛門ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ被告人ハ自分ノ警察ニ於ケル取調ニ對シテ判示事實ノ如ク放火シタル旨申立テタリトノ記載ト證人高橋

友五郎ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ判示ノ火事ヲ認メタルハ判示第二事實ノ火事ヨリ三十分位後ナリトノ旨ノ記載ト證人原田定次郎證人橋爪雛次郎ニ對スル各豫審訊問調書中同人等ノ供述トシテ當時判示家屋ニ鉋屑ノ存在シタル事實ヲ認メタリトノ旨ノ各記載トニ依リ所有者カ判示田切ゑいナリトノ點ハ證人田切ゑいニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ其旨ノ供述記載ニ依リ燒燬並延燒ノ點ハ證人篠磯吉證人原田定次郎ニ對スル各豫審訊問調書中ノ同人等ノ供述トシテ判示事實ニ照應スル各記載トニ依リ各之ヲ認メ第四事實ハ所有者カ春日敏ナリトノ點及燒燬並延燒ノ點ヲ除キ其餘ノ事實ハ被告人ニ對スル第三回豫審訊問調書中(第二七一丁乃至二七四丁)ノ同人ノ供述トシテ判示ノ日夜八時四十分頃判示空家ニ判示ノ如ク放火シタル旨ノ記載ト證人濱中辰五郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ判示ノ火事ハ其夜十一時少シ前頃發見シタル旨ノ記載ト證人春日賀陽子ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ判示二月二日ニ判示家屋ニ行キタルカ其際モ其後モ紙屑等ヲ片付ケスシテ其儘ニ爲シ置キタル旨ノ記載トニ依リ所有者カ春日敏ナリトノ點ハ右證人ニ對スル右調書中ノ同人ノ其旨ノ供述記載ニ依リ燒燬ニ延燒ノ點ハ證人濱中辰五郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ判示同旨ノ記載ニ依リ之

(四)  
 檢證ハ實驗ニ依リ事物ノ状態ヲ認識シ證據方法ニシテ實驗ニ伴フ意見判斷ヲモ包含スヘキモノトス(大判、大正一四、一、二、三、四)

第 事實ハ燒燬ノ點ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル自白ニ依リ燒燬ノ點ハ證人田島作次郎ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ被告人宅ノ火事ヲ發見シ自宅ニ歸ル時ニハ被告人宅ハ一面ノ火ニナリ居タリトノ旨ノ記載ト豫審ニ於ケル大正十四年四月一日作成ノ檢證調書中被告人宅燒跡ニハ建物ノ存在ヲ認メストノ旨ノ記載トニ依リ之ヲ認メ

第六事實ハ燒燬ノ部位程度ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル自白ニ依リ燒燬ノ部位程度ハ證人田島重吉ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ判示同旨ノ記載ニ依リ之ヲ認メ

第七事實ハ所有者カ込山培助ナリトノ點及燒燬ノ部位程度ヲ除キ被告人カ判示空家ニ判示日時判示ノ如ク放火シタリトノ點ハ被告人ニ對スル第四回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ警察ニ於テハ田島方物置ニ火ヲ放チテヨリ判示空家ニ入り左側ニ在リシ押入ニ這入りシ處足ニ何カ障リシ故手ニ取り見タル處蠟燭ナリシ爲メ之レニ燐寸ニテ點火シ其蠟燭ヲ敷居ノ上ノ襖ノ傍ニ立テ洋服ノ塵ヲ拂ヒ人カ表ヲ通ラナクナル迄暫ク其處ニ隠レンレヨリ其處ヲ表口ヨリ出テ線路傳ヒニ中井方ニ歸リタル旨申

立テタリトノ旨ノ記載ト證人古川美左衛門ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ供述トシテ警察ニ於ケル自分ノ取調ニ對シテ被告人ハ判示田島市五郎方ノ放火後人ヲ避クル爲判示空家ニ入り六疊ノ間ノ戸棚ニ這入り様子ヲ窺ヒ居リタルトコロ人通カ無クナリシ爲メ其處ヲ出テムトシテ其時火ヲ點ケル氣ニナリ一、二丁經テカラ發火スル様其處ニ在リシ長サ四寸位ノ西洋蠟燭ヲ敷居ノ内側ニ立テ其蠟燭ニ火ヲ點火シテ唐紙ヲ締メテ同所ヲ逃走シタル旨申立テタリトノ旨ノ記載ト證人埴市太郎證人小宮太助ニ對スル各豫審訊問調書中ノ同人等ノ供述トシテ判示ノ火事ハ自分等ノ發見スルトコロナルカ其現場ニ短イ蠟燭ト燐寸ノ燃ヘ殘リノ棒一、二本在リタル旨ノ各記載トニヨリ所有者カ判示込山培助ナリトノ點ハ證人難波亥三郎ニ對スル豫審訊問調書中ノ同人ノ其旨ノ供述記載ニ依リ燒燬ノ部位程度ハ豫審ニ於ケル大正十四年四月十八日作成ノ檢證調書中ノ判示同旨ノ記載ニ依リ各之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一乃至第四、第六、第七ノ各所爲ハ刑法第百九條第一項ニ第五ノ所爲ハ同法第百十五條第百九條第二項第一項ニ各該當スルトコロ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ其刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ則リ被告人ヲシテ全部負



放 火

二八

擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決シタリ

大正十四年十二月二十一日

何地方裁判所第三刑事部

放 火

判 決

靴職工 甲 野 一 郎

當 二 十 五 年

右ノ者ニ對スル放火被害事件ニ付キ當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト  
左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役二年六月ニ處ス

押收ノ富貴燐寸壹個鉤屑一包ハ之ヲ沒收ス  
訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

(一) 放火罪ハ既テニ家屋ニ火  
ヲ放チテ即チ完成スルモ  
ハニシテ僅カ一部分ノ燒  
燬ニ止ルト雖モ既遂ヲ以  
テ之ヲ論スヘキモノトス  
佛文草案ニ只火ヲ放テト  
ノミアリテ燒燬ト云ハス  
故ニ苟モ火ヲ放チタル事  
實ノミアラハ放火罪ノ既  
遂ナリトス本條ノ燒燬ノ  
文字ヲ加ヘタリト雖モ其  
精神ヲ變シタルモノニア  
ラス(宮城治造氏刑法正  
義九一〇頁)

被告人ハ東京府北豐島郡尾久町大字下尾久八百五拾一番地所在宮崎守仲等數名ノ居  
住ニ係ル木造瓦葺平家六戸建長屋ノ一戸ヲ借り受ケ單獨居住シ同所八百八十二番地  
靴製造業中村竹藏方ノ靴職工トシテ雇ハレ竹藏方ニ通勤シ靴製造ニ從事シ居タルモ  
ノナルトコロ大正十三年九月末頃右主人竹藏ヨリ金二百圓ノ調達方ノ依頼ヲ受ケ一  
應之カ金策ニ奔走シタルモ豫期ニ反シ其ノ金融意ノ如クナラサリシ爲メ主人 藏ノ  
窮境ヲ察シ煩悶シ居タル折柄大正十三年十月十六日午後十時頃仕事ヲ仕舞ヒ主人竹  
藏方ヨリ歸宅ノ途次清元師匠ノ處ニ立チ寄り十一時半頃辭去シ入浴ノ上附近ノ飯屋  
小梅屋ニテ酒一合半斗リヲ飲ミ歸宅シ十七日午前一時頃就寢シタルモ豫テ主人ヨリ  
依頼ヲ受ケタル金策ノ件ヲ想起シ是非共主人ノ希望ヲ満足セシメタキモノト考慮中  
偶々前記被告人住居内ノ自己所有ノ家財家具什器衣類寢具等動産ニ付キ大成火災海  
上保險株式會社保險金五百圓ノ動産保險契約ヲ取結ヒ居レルコトニ氣付キ之ヲ奇貨

放 火

二九

效用ヲ喪失セシムルニ違  
ハサルモ刑法ニ所謂燒燬  
ノ結果ヲ生シ放火ノ既遂  
状態ニ達シタルモノト謂  
ハサルヘカラス(大判、  
大正六、三、一五日)

(三)  
放火ノ既遂罪成立スルニ  
ハ家屋其他放火ノ目的タ  
ル物體ガ全然燒燬シ其存  
在ヲ失フカ若クハ家屋其  
他ノ物體カ其ノ效用ヲ喪  
フヘキ状態ニ於テ燒燬セ  
ラルルコトヲ必要トセス  
犯人ノ點シタル火力媒介  
物タル燃料ヲ離レテ目的  
物ニ移リ獨立シテ燒燬作  
用ヲ遂ケ得可キ程度ニ達  
スルヲ以テ足ルモノトス  
(大判、大正二、二、二  
日)

トシ前記居宅ニ放火ノ上右動産類ヲ燒失セシメ不法ニ保險金ヲ領得シ以テ主人竹藏  
ノ希望ヲ満足セシメンコトヲ決意シ同日午前二時頃豫テ職業用トシテ自宅ニ貯ヘ置  
キタル鉋屑ヲ持出シ燐寸ニテ之ニ火ヲ點シ職業用ノミシン臺及ビール箱ヲ重ネ之ヲ  
踏臺トナシ右居宅二疊ノ間ノ天井板ノ剝離セル間隙ヨリ六疊間天井裏ニ之ヲ押込ミ  
之ニ所持ノ燐寸(押收 號)ヲ以テ火ヲ點シ以テ右居宅ニ放火シタル爲メ判  
示被告居宅及隣家宮崎守仲方ノ境界壁ヲ中心トセル屋根裏約一坪ヲ燒燬シタル外同  
個所ノ天井板棟木等少許ヲ燒燬シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ被告人カ判示ノ場所ニ一戸ヲ構ヘ靴職工トシテ靴製造業中村竹藏方  
ニ通勤シ居タル折柄主人ハ藏ヨリ金二百圓融通方ノ依頼ヲ受ケテ之カ金策方ニ奔走  
シタルモ事豫期ニ反シタル爲メ主人ノ窮狀ヲ察シ思案中偶々判示居宅内ノ被告人所  
有ノ家財其他ノ動産ヲ金五百圓ノ動産保險ニ付シアルコトニ氣付キ右動産ヲ燒失セ  
シメタル上保險金ヲ入手シ以テ主人竹藏ノ希望ヲ満足セシメント決意シ判示ノ日時  
ニ於テ判示ノ如キ方法ニ依リ其ノ居宅ニ放火シ之カ爲メ判示ノ如キ燒燬ノ結果ヲ生  
セシメタルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ供述ニ據リ之ヲ認メ得ヘク又被  
告人カ金策ノ爲メ奔走シタルモ失敗ニ歸シタル事實及被告人カ大正十三年十月十六

日午後十時頃仕事ヲ終リ主人竹藏方ヨリ歸途清元師匠ノ處ニ立寄り十一時半頃同所  
ヲ辭去シ入浴ノ上小梅屋飯店ニテ酒一合半ヲ飲ミ歸宅ノ上十七日午前一時頃就寢シ  
タルモ主人竹藏ヨリ依頼ヲ受ケタル金策意ノ如クナラサリシ爲メ主人ノ窮狀ヲ察シ  
是非共主人ノ希望ヲ満足セシメタク苦心中動産保險ニ氣付キ遂ニ判示ノ如キ方法ヲ  
以テ判示ノ居宅ニ判示ノ日時頃放火シタル事實ハ被告人ニ對スル第一第二第三ノ各  
豫審ノ訊問調書中被告人ノ其ノ旨ノ供述記載ニ據リ之ヲ認メ得ヘシ尙主人中村竹藏  
カ大正十三年九月末頃金融ニ迫リ金二百圓ノ調達方ヲ被告人ニ依頼シタル事實ハ豫  
審ニ於ケル證人中村竹藏ニ對スル訊問調書中同證人ノ其ノ旨ノ供述記載ニ據リ更ニ  
被告人カ判示ノ如キ動産保險ヲ取結ヒタル事實ハ押收ニ係ル大成火災海上保險株式  
會社ノ火災保險證券第二〇八四一號一通ノ存在ニ據リ又被告人ノ放火ノ結果判示ノ  
如キ燒燬ノ結果ヲ發生セシメタル事實ハ豫審判事ノ檢證調書中其ノ旨ノ記載ニ據リ  
各之ヲ認ムルニ十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第百八條ニ該當スルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シ其  
ノ刑期範圍内ニ於テ處斷スヘキトコロ犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第  
六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減刑ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ

放 火

三二

被告人ヲ懲役二年六月ニ處スルヲ相當トシ押收ノ富貴燐寸一個鉤屑一包ハ本件犯罪行爲ニ供シタル被告人ノ所有ニ係ルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年一月十五日

何地方裁判所第二刑事部

放 火

判 決

材木商 甲 野 一 郎

當 二 十 八 年

右ノ者ニ對スル放火被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役五年ニ處ス

押收物件ハ各差出人ニ還付ス

理 由

(一) 刑法第一〇九條第一項ニ居謂建造物トハ家屋其ノ他之ニ類似ヘル工作物ニシテ土地ニ定着シ人ノ起居出入ニ適スル構造ヲ有スルモノヲ云フ(大判、大正一三、五、三一日)

(二) 放火罪ノ規定ハ公共的の法益ノ侵害ニ重テ措キテ設ケラレタルモノニシテ一ナル放火行爲ニ依リ數人ノ財産的の法益ヲ侵害シタル場合ト雖一ナル放火罪トシテ處斷スヘキモノトス(大判、大正一一、一一、一五日)

被告人一郎ハ東京府住原郡大井町四千七十一番地住所ニ於テ材木ノ販賣ニ從事シ居タル處大正九年中ニ痔疾ニ悩ミ爲メニ其營業意ノ如クナラサリシノミナラス治療費トシテ多額ノ失費ヲ爲シ家計漸ク困難ヲ感スルニ至リシカ大正十年一月頃ヨリ再ヒ病勢募リ更ニ治療ヲ受クル必要ニ迫ラレタルモ到底充分ナル治療費ヲ支出スルノ途ナカリシヲ以テ茲ニ惡意ヲ生シ曩ニ大正九年十二月中滿壹ケ年ノ期限ニテ明治火災保險株式會社ニ前記住所所在地ノ自己ノ所有ニ係ル木造アリキ葺平家建家屋一棟並ニ同所所在ノ商品諸材木ニ付保險金六千圓ノ火災保險ニ附シアリタルヲ奇貨トシ右住宅ヲ燒燬シ因テ保險金ヲ得テ右治療費ニ充テントコトヲ企テ大正十年二月二十八日午前二時頃現ニ被告人及其家族ノ住居ニ使用セル前示家屋ニ接續セル物置小屋内ノ鉤屑ニ燐寸ヲ以テ放火シ因テ右物置小屋並ニ住宅ヲ燒失セシメテ燒燬シタルモ

三三

以上ノ事實ハ  
ノナリ

一 被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ東京府荏原郡大井町四千七十一番地ニテ材木商ヲ營ミ居タルカ大正六年ヨリ大正八年中頃ハ景氣ヨク利益モアリシカ其後大正九年中痔疾起リ大井町高橋病院ニ數度入院手術ヲナシ八百圓位ヲ失費シタルモ思ハシカラス又左様ナ次第テ岩崎甚五郎ト云フ者カ指圖テ商ヒヲ爲シテ居マシタカ營業モ不振ニシテ賣掛代金ノ回收不能モアリ本年ニ入り順天堂病院ニテ診療ヲ受ケシニ入院手術ヲ要ストイハレシモ前述ノ如ク家政不如意ニシテ出來ス痔病ノ苦痛ヲ堪ヘテ營業ヲ爲シ居タルニ二月ニ入り益々苦痛ヲ感シ淺慮ニモ自分ノ家ヘ放火シ保險金ヲ取リテ治療セントノ考ヲ起シタリ自分ノ住家及物置ハ自分ノ父兄ヨリ建テテ貫ヒタルモノナルカ母家ハ間口二間奥行四間半ニテ其母家ニ接續シテ間口三間奥行三間ノ物置アリ母家ト物置ハ屋根ハ別々ニ葺キアルモ内部ハ壁一重ニテ連接セルモノナリ自分ハ大正九年十二月二十二日明治火災保險株式會社ト住宅一千圓及商品等二千五百圓宛二口合計六千圓ノ保險契約ヲ爲シ大正九年十二月二十二日ノ満期日ニ更ニ改メテ同額ノ保險契約ヲナシタ

リ自分ハ放火ノ考ヲ起シテヨリ平田ト言フ差出人名テ自分ノ家ヲ燒キ拂フトイフ意味ノ脅迫狀ヲ自分テ認メ投函シタリソレハ大正八年中自分妻ノ妹室田貞子カ他ヨリ艶書ヲ付ケラレタルコトアリ其際自分カ其返書ヲ認メタルコトヲ思ヒ出シ其事ヲ平田某ヨリ自分ニ右ノ脅迫狀カ來リシ様ニ裝ヒ其者等カ放火シタル如ク見セテ犯跡ヲ蔽ハントシタリ而シテ其手紙カ郵送サレタ爲メ大正十年二月十七日夜ヨリ室田ノ兄ト佐藤保三郎柳川兼吉等ト交代ニテ夜警スルコトナリタリ自分ハ大正十年二月二十八日午前二時頃自分一人ニテ夜警ニ出カケタルカ前宵ヨリ痔ノ痛ミ激シク足ヲ引擦リツ、丁度住宅ニ接スル物置小屋ノ東北隅ニ來リシ時ハ一層苦痛ヲ感シ放火スルコトヲ思ヒ立チ數日前新橋驛ニテ買ヒタル煙草用燐寸カ外套ノ隱シニアリシヲ取出シ物置ノ東北隅ノ羽目ノ隙間ヨリ鉤屑ノ出テタルニ點火シタルニ直ク燃エ上リタル故夢中ニテ半丁許リ離レシカ物置ヨリ火カ出テ來リタレハ水ヲ汲ミテ掛ケシモ及ハス物置住宅ハ燒ケテ仕舞ヒタル旨ノ供述

二 參考人柳川兼吉ニ對スル豫審調書中同人ノ供述トシテ大正十年二月十八日主人一郎カ自分ニ可笑ナ手紙カ來タカラ今晚ヨリ火ノ番ヲ初メルニヨリ遺ツテ吳

レト云フ事ナリシヨリ其晩ヨリ一郎ト室田ト佐藤ト自分ノ四人テ出店ヲ詰所トシテ夜番ヲ爲シタリ其當時別段氣付カサリシカ唯今考フレハ一郎ハ夜番ヲ爲シ居ル間ハ餘リ熱心ナリシ様思ハレス大正十年二月二十七日夜十二時頃迄ハ一郎ト自分ト一時間置キ位ニ代ル々々夜番ニ出掛ケタルカ十一時過キヨリ翌二十八日午前一時頃迄ノ間ニ一郎カ夜番ニ出カケタル後五十嵐ト云フ巡査カ自分等ノ居ル處ニ來リテ話シ居タルカ其間一郎カ戻リ來リ五十嵐巡査ハ午前二時前ニ出テ行キタリ夫レヨリ二三分置テ順番カラ云ヘハ其際自分カ見廻リニ出掛ケヘキ順ニナツテ居タルニ一郎ハ俺カ見廻ツテ來ルト云ヒ出掛ケタリ出掛ケテ十分カ十五分タツタト思フ時分何タカ人ヲ呼フ様ナ聲カ聞エバチバチ音カ聞ヘタルヨリ變タト思ヒ主人ノ住宅ノ方ヘ行キタル處主人方ノ物置小屋ノ東北隅カ燒上リ居リ其場所ヨリ三四尺離レタル處ニ地面ニ主人カ腹這ニナリ居タリ火ハ住宅ト物置小屋ヲ燒キ盡クシテ鎮火シタルカ他家ニハ延燒セサリシ旨ノ記載

三 證人海老原利四郎ニ對スル豫審調書中同人ノ供述トシテ自分ハ麴町區有樂町一丁目一番地明治火災保險株式會社ノ品川代理店ヲ爲シ居レルカ大正八年十二月二十二日甲野一郎ト荏原郡大井町四千七十一番地所在木造ブリキ葺平家住宅

建坪一棟ニ付保險金額一千圓同場内ノ商品諸材木ニ付キ保險金二千五百圓同番地所在輪木及之レニ立テカケアル商品諸材木ニ付保險金額二千五百圓合計六千圓ノ火災保險契約ヲ爲シ契約當日保險料四十八圓ヲ受取リタリ其契約期間ハ一ケ年ナル故大正九年十二月二十二日滿期ニナリタルモ同日更ニ前契約ヲ一ケ年繼續スルコトトシ保險料四十八圓ヲ受取レリ自分ハ大正十年二月二十八日朝甲野方ノ住宅及材木カ燒ケタリト話ヲ聞キ甲野方ニ行キタル處一郎カ自分ニ向ヒ放火サレテ困ツタト云ヒ居タルカ自分ハ原因サヘワカレハ保險金ハ早速支拂フトイフ話ヲナシタルニ別ニ保險金ヲ請求シタル事ナキ旨ノ記載トヲ綜合考覈シテ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示放火ノ所爲ハ刑法第百八條ニ該當スルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘク押收物件ハ沒收ニ係ラサルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條ニ則リ各差出人ニ還付スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年七月四日

何地方裁判所第三刑事部

放火未遂

判決

飲食店營業

甲

野 一 郎

當 三 十 一 年

右ノ者ニ對スル放火未遂被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役參年ニ處ス  
被告人ヲ懲役參年ニ處ス  
押收品中石油入硝子壘一個氷囊一個新聞紙半切二葉マツチ二個團子串一  
東板切九個蠟燭一本ボロ屑一塊(大正十三年押第一二二八號ノ一乃至五  
及七、八、十)ハ之ヲ沒收ス

理 由

(一) 刑事訴訟法第四〇四條ハ  
檢テノ控訴事件ニ通スル  
規定ニシテ其ノ控訴審ニ  
關スル特別手續ヲ定メタ  
ルモノナルヲ以テ附金  
以上ノ刑ニ該ル事件ナル  
ト其ノ他ノ事件ナルトヲ  
間ハス控訴裁判所ハ同條  
ノ規定ニ從ヒ訴訟手續ヲ  
進行スヘキモノト謂フヘ  
ク同法第四〇七條從テ第  
三六七條ノ規定ハ上記ノ  
如ク別段ノ規定アルモノ  
ニ對シテハ其ノ準用ナキ  
モノトス(法曹會議議、  
大正一四、三、二八日)

被告人ハ東京市深川區三好町一番地所在同區久永町六番地佐藤孝助所有木造瓦葺二階建四戸長屋ノ北端ノ一戸ヲ借受ケ家族ト共ニ之ニ居住シ餅菓子汁粉等販賣ノ飲食店ヲ營ミ居タルモノナルトコロ大正十三年十月半頃ヨリ營業次第ニ不振トナリタルニヨリ家業ハ主トシテ妻ホリニ任セ自己ハ他ノ菓子店配達夫トナリ別途ノ收入ヲ計リタレトモ家計遂ニ意ノ如クナラス親戚知人ニ對スル債務ノ返済ヲ爲スコト能ハサルハ勿論同年十、十一兩月ノ家賃ノ支拂ヲモ爲スコト能ハスシテ同年十二月ニ入ルノ止ムナキニ至レリ而シテ十二月二日ノ夜妻ホリヨリ種々家計ノ窮迫ヲ訴ヘラレタル上今月ヲ經過セハ家賃ノ支拂モ三ヶ月分モ滯ル旨告ケラルルヤ茲ニ動機ヲ得テ同年七月中日本動産火災保險株式會社ト自己所有ノ動産ニ付金額二千圓ノ火災保險契約カ締結シアルコトト嘗テ石油コンロヲ使用シタルトキノ残りカ尙奥二疊ノ間ノ椽ノ下ニ入レ在ルコトトニ想到シ被保險動産ヲ燒燬シテ保險金ヲ獲得セムコトヲ企テ之カ目的ヲ達セン爲メ人ノ居住セル前記家屋ニ放火シテ之ヲ燒燬セムコトヲ決意シ同夜十一時過頃家人ノ寢靜マルヲ待テ自宅階下奥二疊ノ間ノ椽ノ下ニ入り其東南隅ナル中柱ノ根本ニ石油ノカ、リタル木端ヲ寄セ新聞紙ヲ細長ク折疊ミタル一端ヲ之ニ續ケ他端ニハ蠟燭ヲ立テ其蠟燭ニ點火セハ其火カ漸次ニ中柱ニ移リ之ヨリ更ニ床

放火未遂

放火未遂

四〇

入スルトキハ刑ノ内容ニ變更ヲ來スヘク即チ刑ノ量定ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ナルヲ以テ上告ヲ棄却スヘキトキニハ被告人ノ上告ヲ爲シタル以後ノ未決勾留日數ト雖モ之ヲ本刑ニ算入スルニ由ナキモノトス(大判、大正一三、一一、二八日)

(四) 刑法第一〇八條ニ於テ規定セル放火罪ノ物體ノ一ナル所謂現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トハ放火行爲當時現ニ犯人以外ノ人ノ住居ノ用ニ供スルモノ即チ起臥飲食ノ場所トシテ日常使用スル建造物ノ謂ニシテ其ノ放火行爲當時犯人以外ノ人ノ現在スルト否トテ問ハサルノトス(大判、大正一四、二二、一日)

(五) 懲罰刑事カ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲ル場合ニ被告ノ利益又ハ不利益ト爲ル狀況

上ニ燃上ルニ至ルヘキ装置ヲ爲シ置キ翌三日午後一時頃外出ニ際シ右蠟燭ニ點火シ因テ同日午後六時頃前記木端ニ燃エ移リ中柱ノ下方並ニ之ニ接着セル蹴込板ノ一部ヲ燻焦スルニ至ラシメタルモ妻ホリカ之ヲ發見シ附近ニ居合セタル人々ニ告ケテ消シ止メタル爲メ所期ノ目的ヲ遂クルコト能ハサリシモノナリ

證據ヲ按スルニ右ノ事實中燃燒ノ位置程度ハ豫審檢證調書(記録八十四丁)ニ判示同旨ノ記載アルニヨリ明瞭ニシテ被告人ノ妻ホリカ判示床下ノ燻焦スルヲ發見シ附近ニ居合ハセタル人々ニ告ケテ消火シタリトノ事實ハ豫審ニ於ケル證人甲野ホリニ對スル訊問調書記録百三十八、九丁ニ其旨ノ供述記載アルニヨリ之ヲ認ムヘク其他ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同旨ノ供述ニヨリ認定シタリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第一百十二條第八條ニ該當スルヲ以テ其有期懲役刑ヲ選擇シ未遂ナルヲ以テ減輕スルヲ相當ト認メ同法第四十三條本文第六十八條第三號ニ則リ法定ノ減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處シ押收ニ係ル主文掲記ノ物件ハ執レモ本件犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル犯人以外ノ者ニ屬セサル物ナルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニヨリ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年四月二十七日

何地方裁判所第三刑事部

放火未遂

判決

飲食店業

甲

野

一

郎

當三十二年

右ノ者ニ對スル放火未遂被告事件ニ付大正十四年四月十三日何地方裁判所カ言渡シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與更ニ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役三年ニ處ス

放火未遂

四一

存否ヲ判斷シテ其ノ判斷スル所ニ從ヒ檢證調書ニ犯罪ノ性質方法等ヲ證明テ記載スルコト、刑事訴訟法第三百三條ノ規定ニ從ツテ之ヲ爲スモノニ外ナラサレハ記載事項カ豫審判事ノ判斷ニ屬スルノ故ヲ以テ證據力ヲ有セサルモノト謂フヘカラス(大判、大正一二、一一、二〇日)

但未決拘留日數百日ヲ本刑ニ算入ス  
押收ニ係ル石油入硝子壘一個氷囊一個新聞紙半切二枚板切九個ハ之ヲ沒收ス

理由

(一) 覆審主義トハ事實及法律ノ全體ニ付更ニ新ナル審理ヲ行フト謂フノミノ意義ヲ有ルニ過ギサルモノトス新刑事訴訟法ノ下ニ於テハ控訴審ハ全ク第一審判決ニ關係ナク被告事件ニ付判決ヲ言渡スヘク而シテ第二審判決ハ第二審判決ノ言渡ニ依リ當然消滅スルモノトス(小野學士法學志林二七卷五號)

被告人ハ佐藤孝助所有ニ係ル東京市深川區三好町一番地所在ノ木造瓦葺二階建四軒長屋ノ北端ノ一戸ヲ同人ヨリ借受ケ家族及雇人等ト共ニ之ニ居住シテ飲食店業ヲ經營シ大正十三年七月中日本動産火災保險株式會社ト右居宅内ニ在ル被告人所有ノ動産類ニ付金額二千圓ノ火災保險契約ヲ締結シタルトコロ同年十月頃ヨリ營業不振ニ陥リ債務次第ニ嵩ミテ家賃ノ支拂ニモ滯ルニ至リ同年十二月二日ノ夜妻ホリヨリ種々家計ノ窮乏ヲ訴ヘラレ且十月以降家賃延滞シ居ル旨ヲ告ケラルルヤ困惑ノ餘リ遂ニ右住居ニ放火シテ被保險動産類ヲ燒燬シ以テ保險金ヲ騙取センコトヲ企圖シ同夜竊ニ右居宅階下奥二疊ノ間ノ床下ニ入り其東南隅ナル中柱ノ根元ニ石油ノ掛リタル木片(大正十三年押第一二二八號ノ七)ヲ寄セ集メ尙石油壘(同上ノ一)ヨリ氷囊(同上ノ二)中ニ石油ヲ詰メ込ミ之ヲ右木片上ニ載セ新聞紙(同上ノ三)ヲ細長ク折疊ミ

訴ノ申立ハ檢事ノ爲シタルト被告入カ爲シタルトフ同ハス檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽キタル上其ノ審理ヲ開始セサルヘカラサルモノトス檢事カ控訴ヲ爲シタル場合ト雖既ニ檢事ノ被告事件陳述アリタル以上ハ控訴手續ヲ開始シ得ルモノト云フヘキヲ以テ裁判所ハ更ニ控訴ノ趣旨ヲ聽カサルモ被告事件ニ付審理判決ヲ爲スニ毫モ妨ケナキモノトス(大判、大正一四、五、一五日)

テ其一端ヲ右木片ニ續ケ他端ニハ蠟燭ヲ立テ其蠟燭ニ點火セハ火ハ漸次燃移リテ中程ヨリ床上ニ燃上ル様裝置ヲ施シ翌三日午後零時半頃外出スルニ當リ右蠟燭ニ點火シタルヨリ火ハ新聞紙ヨリ木片ニ燃移リ因テ中柱ノ下方並ニ之ニ接着セル蹴込板ノ一部ヲ燻焦シタルモ妻ホリカ之ヲ發見シ他人ノ助ヲ得テ消シ止メタル爲右住宅ヲ燒燬セラレサルニ至ラサリシモノナリ

證據ヲ按スルニ  
被告人カ左藤孝助所有ニ係ル判示家屋ヲ借受ケ家族及雇人ト共ニ之ニ居住中大正十三年十二月二日ノ夜同住宅階下奥二疊ノ間ノ床下東南隅ノ中柱ノ根元ニ判示ノ如キ裝置ヲ施シタルコトハ被告人ノ當公廷ニ於ケル同趣旨ノ供述ニ依リ明瞭ニシテ翌三日午後零時半頃被告人カ曩ニ裝置シアリタル蠟燭ニ點火シタル爲火ハ延燒シテ同住宅床下中柱ノ下方並ニ之ニ接着セル蹴込板ノ一部ヲ燻燒スルニ至リタルモ遂ニ消止メラレ右住宅ヲ燒燬スルニ至ラサリシコトハ(一)被告人ニ對スル第三回豫審調書中自分ハ十二月二日ノ夜二疊ノ間ノ椽ノ下ノ柱ノ根ノ方ニ石油ニ濡レタ木端氷囊新聞紙團子串蠟燭等ヲ著シ其蠟燭ニ火ヲ放ノレハ蠟燭カトボルニ從ヒ新聞紙ニ移リテ遂ニ柱ニ燃エ行ク様裝置シタル其蠟燭ニ翌日晝食後思ハス知ラス火ヲ放ケテ了ヒタリ



ソレト同時ニモウ石油ニ火カ移ツタ様ナ心持カシテ尙隣人カ自分方裏口へ來ル様ナ物音シタルヨリ石油ヲ嗅キ付ケテ參リタルモノト思ヒ直ニ外出シタリ押收ノ石油壘水囊新聞紙木端等ハ前記ノ裝置ニ用ヒタル旨ノ供述記載(二)證人甲野ホリニ對スル第一回豫審調書中自分ハ甲野一郎ノ妻ナルカ大正十三年十二月三日午後六時頃自分方ヨリ發火シタル其際自分ハ下ノ二疊ノ間ニ裁縫ヲ爲シ居タルカ土間ニ面シタル椽ノ下ノ蹴込板ノ間ヨリ嗅イ煙カ立上ルヨリ椽ノ下ヲ覗キ見タルニ二疊ノ椽ノ下ノ奥ノ方ニ燐カ燃エ上リ居リタルヨリ客人二人ノ助ヲ得水ヲ掛ケテ消シテ貫ヒタリ同日夫一郎ハ午後零時半頃出掛ケタリシ旨ノ供述記載(三)豫審判事ノ檢證調書中東京市深川區三好町一番地元甲野一郎ノ居住シタル家屋ハ木造瓦葺二階建四軒長屋中北端ノ一戸ニシテ其床下東南隅ニ施設セラレタル四角柱ノ西側及北側ノ兩側土臺石ヨリ上方約一尺二三寸ノ間ハ一帶ニ黒ク焦ケ居リ其程度ハ最大ナルトコロ深サ約六七分ニ達スル燃燒ナリ尙同柱ニ取付ケアリシ西北兩側ノ根太掛及蹴込板ハ少許焦ケ居タル旨ノ記載ヲ綜合シテ之ヲ認ムルニ十分ナリ被告人ハ思ハス知ラス火ヲ前記蠟燭ニ付ケタルモノナリト主張シ放火ノ事實ヲ否認スレトモ被告人カ日本動産火災保險株式會社ト判示ノ如キ火災保險契約ヲ締結シタルコト並ニ判示ノ如ク家計窮迫シタル結果

前示ノ如ク住宅ニ放火シテ被保險動産類ヲ燒燬シ以テ右保險金ヲ騙取セント企テタリシモノナルコトハ(一)被告人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ供述(二)證人甲野ホリニ對スル第二回豫審調書中大正十三年十二月當時自分方ニハ田舎ニ二百圓許リ宗圓寺ニ五十圓ノ借金アリ家賃モ二ヶ月程滞リ居タル旨ノ供述記載(三)證人井上役太郎ニ對スル豫審調書中自分ハ日本動産火災保險株式會社ノ勸誘員淺川倭夫ノ勸誘補助ヲ爲シ居ルカ大正十三年七月甲野一郎ヲ勸誘シテ二千圓ノ動産保險契約ヲ爲シタル旨ノ供述記載ヲ綜合シテ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ此事實ニ前記被告人ニ對スル第三回豫審調書中思ハス知ラス火ヲ放チテ了ヒタル旨ノ供述記載ヲ參酌考量スルトキハ被告人ノ右主張ハ到底採用スルニ由ナク叙上證據ニ照シ本件犯罪ニ付テハ之カ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第八條第一百十二條ニ該當スルヲ以テ其有期懲役刑ヲ選擇シ未遂罪ニ係ルヲ以テ同法第四十三條本文第六十八條第三號ニ依リ未遂減刑ヲ爲シ其刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ未決拘留日數百日ヲ本刑ニ算入シ押收ニ係ル主文掲記ノ物件ハ本件犯罪ノ用ニ供セラレタルモノニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收ス可キモノトス

放火未遂

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年六月二十二日

何控訴院刑事第三部

四六

放火豫備

判決

無職 甲 野 一郎 當四十八年

右ノ者ニ對スル放火豫備被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與判決ヲナスコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役六月ニ處ス

押收物件中燐寸一個(大正十三年押第二六三〇號)ハ之ヲ沒收ス

(11) 家宅侵入ノ行爲ハ放火ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ト雖モ放火行爲ノ一部ヲ成スモノニ非スシテ全然別異ノ犯罪行爲ナリトス(大判、明治四三年)

理由

被告人ハ東京市芝區芝公園九號地六番地綠山宿泊所ニ宿泊中宿料金三圓四十錢ノ支拂ヲ爲ササリシ爲メ大正十四年三月二十日午前九時頃其宿泊ヲ斷ハラレタルヲ以テ之ヲ遺恨ニ思ヒ現ニ人ノ住居ニ使用シ居ル右宿泊所ヲ燒燬センコトヲ決意シ該目的ヲ達スル爲メ同日午後四時頃同市麴町區日比谷公園バラック東町三百三十號煙草商武田ます方ヨリ燐寸一個ヲ買求メ更ニ翌日午前一時二十分頃同市芝區三田四國町二番地四號空家内ニアリタル藁屑紙箱屑等ヲ苙ニ包ミ之ヲ携帯シ放火ノ爲メ右宿泊所ニ至ルヘク同二時十分同市芝區片川前町二丁目七番地先道路ヲ通行シ以テ放火ノ豫備ヲ爲シタルモノナリ

右犯罪事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル供述及ヒ押收ニ係ル燐寸並ニ苙包各一個ノ存在ニ據リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第百十三條第百八條ニ該當スルヲ以テ同法第百十三條所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘク主文掲記ノ押收物件ハ判示犯行ヲ組成シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ則リ之

放火豫備

四七

ヲ沒收スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年七月十五日

何區裁判所

往來妨害

判決

雇人 甲 野 一郎

當 二 十 一 年

右ノ者ニ對スル往來妨害被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役壹年六月ニ處ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

(一)  
刑法第一二五條ニ所謂往來ノ危險ヲ生セシメタルトハ現實ニ汽車又ハ電車ノ顛倒脱線等ノ結果ヲ惹起スルコトヲ必要トセスシテ此等ノ結果ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ足ルモノトス(大判、大正一三、一〇二二日)

被告人ハ中村三造ト共謀ノ上大正十三年十月十五日午後十一時頃中央線南多摩郡日野驛ト豊田驛ノ中間ニ於ケル新宿起點十九哩五十鎖ノ鐵道線路ニ於テ其附近ニ積置キアリタル古枕木三本(大正十三年押第一一二四號ノ一、二、三)ヲ拔取り之ヲ同所線路軌道上ニ並列シ因テ汽車往來ニ危險ヲ生セシメタルモノニシテ同時午後十時飯田町驛發長野行第四百一號旅客列車カ午後十一時七分過頃該所ヲ通過シタルモ前記枕木カ或ハ撥飛ハサレ或ハ破碎セラレタル爲メ幸ニ轉覆脱線ヲ免レタルモノナリ  
證據ヲ按スルニ右ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並ニ證人中村三造ニ對スル豫審調書中判示日時自分ハ判示一郎ト日野驛ヨリ豊田驛ノ方ヘ線路傳ヒニ歩イテ歸リ陸橋ノ附近マテ來リタルトコロ一郎ハ線路ヘ枕木ヲ置イテ見ヤウト云ヒソレヨリ少シ進ムト針金ニテ縛リタル枕木カ線路ノ脇ニ置イテアリタレハ其枕木ヲ一郎ト共ニ拔キ出シ線路ヘ横ヘ置キ更ニ一本ヲ前ノ様ニ拔キ出シ前ノ一本ト

往來妨害

少シ離シテ同シ様ニ線路ニ置キ尙一丁ノ半分程ノ枕木一ヲ持チ出シソレヲ線路ニ前ノ枕木ト並ヘテ汽車カ如何云フ風ニナルカヲ見ヤウト思ヒタリソレヨリ畑ノ道ヲ行キ大下ノ方ヘ逃ケ其時汽車カ新宿ノ方ヨリ八王子ノ方ヘ向ヒ進行シ來ルヲ見テ居タルカ汽車ハ其枕木ノ置イテアル所ヲ何事モナク通りタル旨供述記載並ニ證人佐藤軍藏ニ對スル豫審調書中自分ハ大正十三年十月十五日午後十時飯田町驛發第四百一號長野行旅客列車機關手トシテ列車ヲ運轉シ午後十一時七分頃日野驛ヲ通過シ豊田驛ニ到ル途中陸橋ノ邊マテ進行シ來ル際助手カ「枕木カ飛ンダ」ト云ヒタレハ自分ハ注意シテ徐行シ別段ニ故障モナカリシ故ソノ儘進行シタル旨供述記載並ニ押收ニ係ル枕木破片(大正十三年押第一二二四號ノ一、二、三)ノ存在ニ依リ之ヲ認定ス法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百二十五條第一項ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ刑期範圍内ニ於テ處斷スヘキトコロ犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條ニヨリ被告人ヲ懲役壹年六月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ノ負擔タルヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年一月十四日

何地方裁判所第三刑事部

### 往來妨害控訴判決

### 判 決

雇 人 甲 野 一 郎

當 二 十 一 年

右ノ者ニ對スル往來妨害被告事件ニ付大正十四年一月十四日何地方裁判所カ言渡シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役壹年六月ニ處ス  
 訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ豫テ知合ナル中村三造ト共謀ノ上大正十三年十月十五日午後十一時頃中央線東京府南多摩郡日野驛ト豊田驛トノ中間ニシテ新宿驛ヨリ十九哩五十鎖ヲ距ル鐵道線路ニ於テ其附近ニ堆積シ在リタル古枕木ノ内ヨリ三本(大正十三年押第一一二四號)ヲ拔取リ之ヲ同所線路軌道上ニ並列シ因テ汽車往來ニ危險ヲ生セシメタルモノナリ

右ノ事實ハ

- 一 被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ判示ノ日日野町へ活動寫真ヲ見ニ行キ歸途知合ナル中村三造ト一緒ニナリ中央線日野驛ヨリ豊田驛ニ向ヒ鐵道線路ヲ傳ヒ來リタルカ判示場所ノ邊ニテ三造ト共ニ其附近ニ積ミ在リタル枕木三本ヲ拔キ取リ之ヲ同所ノ鐵道線路ニ並ヘ置キタル右ハ自分カ三造ニ對シ材ハヲ線路ニ乗セ置カハ面白カラント言ヒ出シ同人モ面白カルヘシト申シ共ニ爲シタルニテ暫クスルト飯田町驛ノ方ヨリ汽車進行シ來リタルモ異狀ナク右箇所ヲ通過シタリ而シテ枕木ヲ線路上ニ置クコトノ汽車往來ニ危險ナルコトハ承知シ居レリトノ旨

(一) 刑法第一二五條第一項ノ罪ハ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシムル認識ヲ以テ鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ發生セシムルニ因テ成立スルモノトス刑法第一二六條第一項ノ罪ハ汽車又ハ電車ニ人ノ現在スル事ヲ認識シ之ヲ顛覆又ハ破壞スル意思ヲ以テ其結果ヲ生セシムルニ因テ完成スルモノトス判決ニ於テ被告等ハ判示電車カ某方面ニ向テ進行セルヲ認メ其歸路ヲ妨害センコトヲ謀リ共同シテ電柱一本ヲ甲停留所ト乙停留所トノ間ナル電車軌道上ニ横ヘ以テ電車往來ノ危險ヲ生セシメ因テ同日午前一時十分右電車ヲシテ其歸途該電柱ニ衝突セシメタルモ顛覆又ハ破壞スルニ至ラザリシモノ

ノ供述ト

- 一 被告人ニ對スル第二回豫審調書中自分カ三造ト共ニ枕木ヲ線路上ニ置キタルハ判示ノ日午後十一時頃ナリシトノ旨ノ供述記載ト
- 一 證人中村三造ニ對スル豫審調書中自分ハ判示日ノ晚日野町へ活動寫真ヲ見ニ行キ先方ニテ甲野一郎ト出合ヒ同人ト日野驛ヨリ線路傳ヒニ歸ルコトトシ陸橋ノ近ク迄來リタル際一郎ハ「線路ニ枕木ヲ置イテ見様此先キニ枕木カアル故出シテ置ケ」ト云ヒ陸橋ヨリ少シ進ミタル所ソコニ枕木カ重ネ在リ一郎ハ反對ノ方ヨリ枕木ヲ押出シ自分ハ之ヲ拔取リ二人ニテ擔ツテ線路ヘ横ヘ置キ更ニ一本前ノ様ニ拔キ出シ運ンテ前ノ一本ト少シ離シテ同様線路上ニ置キ尙一丁ノ半分程ノ枕木一ツヲ持チ出シ線路ニ前ノ枕木ト並ヘ置キタリトノ旨ノ供述記載ト
- 一 證人佐藤軍藏ニ對スル豫審調書中自分ハ判示日ノ午後十時飯田町驛發第四百一號長野行旅客列車機關手トシテ乗務シ同十一時七分頃日野驛ヲ通過シ豊田驛ニ到ル途中陸橋ノ邊ヨリ少シ進行シタル際助手カ「枕木カ飛ンダ」ト云ヒタルヨリ自分ハ注意シ徐行ヲ續ケタルモ別段故障ナカリシ爲其儘進行シタリトノ旨ノ供述記載ト

ナリト判示シタル場合ニ於テ右判決ノ認定スル所ハ被告人等ハ人ノ現在スル右電車ヲ顛覆又ハ破壞スル意思ヲ以テ電柱一本ヲ電車軌道上ニ横ヘ以テ該電車ヲ衝突セシムルモ未ダ顛覆又ハ破壞スルニ至ラザリシモノトノ趣旨ニ非ス唯右電車ノ往來ノ危險ヲ生セシムル認識ノ下ニ電柱一本ヲ電車軌道上ニ横ヘ以テ右電車ノ往來ノ危險ヲ發生セシメタリトノ趣旨ニシテ其後段ノ判示ハ之單ニ被告人等ノ行為ニ因テ現實ニ電車ノ往來ノ危險發生セシメ事實ヲ明確ナラシム趣旨タルニ止マリ之ヲ以テ被告人ノ行為ハ刑法第一二六條第一項ノ未遂罪ヲ構成スルモノト判示シタルモノニ非スト解スルヲ正當トス(大判、大正一二、七、三日)

(二) 汽車又ハ電車ノ轢覆脱線

等ノ結果ノ惹起スル虞アルコトヲ認識セル以上刑法第二百二十五條第一項往來危險罪ノ犯意アルモノトス(大判、大正一三、一〇、二三日)

住來妨害控訴判決

一 證人大野正男ニ對スル豫審調書中自分ハ豊田驛長ナルカ現場ハ同驛ト日野驛トノ間ノ鐵道線ニテ日野驛ヨリ五、六丁ノ箇所ニ重ネテ在リタル古枕木ヲ線路ニ横ヘタルナリ而シテ古枕木ナリシ爲幸ニ列車ハ無事ナリシモ若シ新ラシキ枕木ナリシナランニハ汽車ノ通過ニ甚タ危險ニシテ顛覆等ノ恐アリトノ旨ノ供述記載ト

並ニ押收ノ枕木(大正十三年押第一一二四號)ノ現存ニ徴シ之ヲ認定ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百二十五條第一項ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ刑期範圍内ニ於テ處斷スヘキ所犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアリト認メ同法第六十六條第七十一條第六十八條ニ從ヒ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ノ負擔トスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年三月四日

何控訴院刑事第三部

住居侵入並竊盜

判決

無職 甲 野 一 郎

當 二 十 四 年

右ノ者ニ對スル住居侵入並竊盜被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス

理 由

被告人ハ犯意ヲ繼續シテ

第一 大正十四年七月二日午前八時頃東京府豊多摩郡淀橋町角筈新町一丁目七十

住居侵入並竊盜

(11) 連續犯ハ同一意思ヲ以テ同種ノ行爲ヲ反覆スルニ依リテ成立スルモノニシ

住居侵入並竊盜

五六

番地 藤實方ニ於テ辨慶縮縮木綿單物一枚外二點價格約合計金十一圓十五錢ヲ竊取シ

第二 同月三日午前三時頃東京府南葛飾郡龜戸町龜戸神社社務所ニ忍入り現金三十七圓ヲ竊取シ

第三 同月十三日午前二時頃東京市本所區白島須崎町百九十五番地片野辰藏方裏手物置ニ忍入り羅紗マント一枚價格約八圓ヲ竊取シ

第四 同月同日午前三時頃竊盜ノ目的ヲ以テ同市同區同町十二番地小野垣淺次郎方裏手臺所ノ硝子戸約二寸ヲ開キタルモ家人ニ發見セラレ其目的ヲ達セザリシモノナリ尙被告人ハ大正十一年四月二十日東京區裁判所ニ於テ懲役十月ニ處セラレ且三年間其刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ言渡ヲ受ケ該判決ハ同月二十六日確定シ居タル處大 十一年十月二十三日同裁判所ニ於テ同罪ニ依テ懲役一年ニ處セラレ該判決ハ同月二十八日確定シ次テ同年十一月十五日前記刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス旨ノ決定確定シタルヲ以テ前記一年ノ懲役刑ノ執行後引續キ前記十月ノ懲役刑ノ執行中大正十三年一月二十六日勅令第十號ニヨリ右十月ノ刑期ハ七月十五日ニ變更セラレ大正十三年六月十二日其刑ノ執行ヲ終リタルモノナ

テ其ノ反覆トハ必スシモ月日ヲ異ニスルコトヲ要セス假令通常ノ觀念ニ於テ同時トシテ目セラルル一定ノ時間内ニ於テ行ハレタル場合ト雖行爲ノ果行セラルルニ於テハ猶之ヲ反覆ト謂フヲ妨ケサルモノトス(朝、高、法院判決、大正一四、五、二一日)(一)

連續犯ハ獨立シテ罪トナルコトヲ得ル行爲カ反覆セラルル場合ナリ故ニ其ノ第一ノ行爲ニシテ既遂ナランカ其ノ第二ノ行爲カ未遂ナルモ連續犯トシテハ既遂ナリ又其ノ各個ノ行爲ハ總テ獨立ノモノナラサルヘカヲサルカ故ニ實行ノ過程ノ進ムルカ爲同種行爲ノ反覆セララルル場合例ヘハ毒殺ノ目的ヲ以テ毎日毒物ヲ薦ムルカ始キハ連續犯ニ非スシテ單一犯ナリ(法學博士牧野英一氏日本刑法第四一七頁)

リ

右犯罪事實ハ(一)被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニヨリ之ヲ認メ右受刑事實ハ前科調書ノ記載ニヨリ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入既遂ノ點ハ刑法第三百三十條ニ同未遂ノ點ハ同法第三百二十二條第三百十條ニ該當スル處判示住居ニ侵入既遂ノ所爲及ヒ同未遂ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ則リ其連續一罪トスヘク竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條第五十五條ニ該當スル處右各連續一罪ヲ爲ス住居侵入ノ所爲ト竊盜ノ所爲トノ間ニハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ竊盜ノ罪ノ刑ニ從フヘク尙被告人ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ則リ右連續一罪ヲ爲ス竊盜ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年九月十一日

何區裁判所

住居侵入並竊盜

五七

住居侵入強盜及橫領

判決

青物商 重野乙太郎

明治何年何月何日生

右之者ニ對スル住居侵入強盜及橫領被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役五年ニ處ス

押收ノ日本刀一振(大正十四年押第一二三四號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用中證人丙ニ給シタル分ハ被告人ノ負擔トス

橫領ノ事實ニ付テハ被告人ヲ無罪トス

理 由

(1) 一個ノ連續犯トシテ告訴ヲ俟テ論スヘキ數個ノ行爲ヲ起訴セラレタル場合ニ於テ裁判所カ審理ノ結果其ノ起訴事實中ノ或部分ニ付告訴ナキコトヲ認メタルトキハ該部分ニ付テハ判文ニ於テ唯其ノ罪ヲ問ハサル旨ヲ判示スレハ足り特ニ主文ニ於テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキニ非サルモノトス(大判、大正一三、一〇、二八日)

被告人ハ大正十四年一月二十六日午前二時頃東京市神田區須田町一番地吳服商丙方ニ忍入り奥座敷ニ就寢中ノ丙ヲ呼起シ所携ノ日本刀(大正十四年押第一二三四號)ヲ突付ケ金ヲ出セト脅迫シテ同人所有ノ現金五十圓ヲ強奪シタルモノナリ  
右ノ事實ハ被告人ノ當法廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ト證人丙ノ證言トニ據リ之ヲ認ム法律ニ照スニ被告人ノ行爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百三十條ニ強盜ノ點ハ同法第二百三十六條第一項ニ各該當スル處同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ強盜ノ罪ノ刑ニ從ヒ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘク主文掲記ノ押收ノ日本刀ハ本件犯罪行爲ニ供シタルモノニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルモノト認メ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用中證人丙ニ給シタル日當ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス  
被告人カ丁ヨリ預リタル金時計一個ヲ大正十三年十二月三十日東京市神田區須田町五番地質商戊方ニ於テ擅ニ自己ノ爲メ入質シテ橫領シタリトノ公訴事實ニ付テハ其ノ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス



住居侵入強盜及横領

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年二月十日

何地方裁判所第一刑事部

六〇

### 水道浄水汚穢

### 判 決

元小使

甲

野

一

郎

當 三 十 七 年

右ニ對スル水道浄水汚穢被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役八月ニ處ス

### 理 由

被告人ハ東京市深川區古石場町二十二番地東京市營住宅管理所小使トシテ被雇中大正十四年九月十八日同所ヲ解雇セラレ土屋長節カ其後任ト爲リタルヲ以テ他ニ就職口ヲ求メテ種々奔走シタルモ成功セス爾來市當局及右土屋ニ對シ私ニ啣ム所アリ同年十月四日亦早朝職ヲ求メントシテ家ヲ出テ奔走シタルモ功ナク歸途從兄弟齋藤利助ノ許ニ立寄り酒食ノ饗應ヲ受ケ稍酩酊シテ同夜七時頃歸宅シタルカ突然水道ニ由リ同住宅居住者ニ供給スル飲料ノ浄水ヲ滯溜スル水槽ノ掃除カ小使ノ任務ナルヨリ之ヲ汚穢シテ掃除ヲ困難ナラシメ市當局及土屋ニ對ス 私憤ヲ晴サンコトヲ決意シ右住宅階下動力室内ニ在ル前記水槽中ニ有合セタル「モーター油」三、四合ヲ投入シ其浄水ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルモノナリ

證據省略

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第四百十三條ニ該當ス ヲ以テ其所定期ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘキモノトス 仍テ主文ノ如ク判決ス

水道浄水汚穢

六一

大正十四年十二月十五日

何區裁判所

通貨偽造及通貨偽造準備

判決

鍛冶職 甲 野 吉 郎

當 四 十 四 年

右ノ者ニ對スル通貨偽造及通貨偽造準備被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ壹年六月ノ懲役ニ處ス  
但四年間其刑ノ執行ヲ猶餘ス  
押收物件(大正十四年押第四二二號ノ一乃至七)ハ全部沒收ス

理 由

(一) 明治三十八年法律第六十六號第四條ノ罪ハ同條所定ノ偽造變造ノ目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ製造シ授受シ若ハ準備スル等ノ行為ニ因リ成立シ偽造變造ヲ中止スルモ之カ爲ニ其ノ罪ノ成立ヲ妨ケス(大判、大正一三、一〇、一〇日)

(二) 兌換日本銀行券ト略同型ナル紙片ノ一半ニハ其ノ銀行券ノ表面又ハ裏面ノ半部ニ模擬セル圓形ヲ印刷シ他ノ一半及他ノ一面ニハ銀行券ト異ナル繪畫及文字ヲ印刷シタルニ止ルモ右紙片ハ之ヲ折疊ミ特ニ其ノ模造部分ノミヲ現ハストキハ之ヲ瞥見スル世人ヲ誑惑スルニ足リ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法第一條ニ所謂兌換銀行券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノトス(大判、大正一

被告人ハ鍛冶職ヲ業トシ麻糸製造用針ノ製造鍋釜ノ修繕等ヲ爲シ居ルモノナル處營業不振ノ爲妻子六人ヲ抱ヘテ生活難ニ陥リ遂ニ通貨ヲ偽造シテ行使セムコトヲ企テ第一 大正十四年二月中被告人方仕事場ニ於テ「ハンダ」ヲ延シ略十錢白銅貨ノ厚サトシ其兩面ヲ十錢白銅貨二個(大正十四年押第四二二號ノ七)ニテ挾ミ金槌(押同號ノ三)ヲ以テ其上ヨリ叩キ該「ハンダ」ニ十錢白銅貨ノ文字及模様ヲ印シ周圍ヲ鑢及紙鑢ヲ以テ摺リ十錢白銅貨大トナシ其中央ニ錐(押同號ノ四)ニテ穴ヲ穿テ依テ十錢白銅貨類似ノモノ二個ヲ作成シタルモ其文字及模様ハ左型ニ寫リテ其完成ヲ遂ケス

第二 右ノ如ク偽造ノ目的ヲ達セサリシ爲メ更ニ精巧ナル偽造通貨ヲ作成セントシテ同年同月中前同所ニ於テ鐵板ニテ梓ヲ作り之ニセメントヲ詰メ其上ニ五十錢銀貨二個十錢白銅貨一個ヲ嵌メ込メ通貨偽造ノ用ニ供スル鑄型一個(押同號ノ一)ヲ作成シ且ツ通貨偽造ノ原料タル「ハンダ」二本(押同號ノ二)及セメント(押同號ノ五)ヲ準備シタルモノナリ

通貨偽造及通貨偽造準備

右ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル自白ニ依リ之ヲ認ム  
 法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ行為ハ刑法第五百一一條第四十八條第一項ニ判  
 示第二ノ行為ハ同法第五百十三條ニ各該當スル處右行為ハ連續ニ係ルヲ以テ同法  
 第五十五條第十條ヲ適用シ重キ通貨偽造未遂ノ一罪トシ其所定刑中有期懲役刑ヲ選  
 擇シ同法第四十三條本文第六十九條第六十八條第三號ニヨリ未遂減輕ヲ爲シタル刑  
 期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘキトコロ其情狀刑ノ執行ヲ猶豫スル  
 ヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ裁判確定ノ日  
 ヨリ四年間其刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトシ押收物件中鐵材(大正十四年押第四二  
 二號ノ三)針金 押同號ノ四)拾錢白銅貨二個(押同號ノ七)ハ犯罪供用ノ物件ニシテ  
 其以外ノ物件ハ犯罪行為ヲ組成シタル物ニシテ且孰レモ被告人以外ノ者ニ屬セサル  
 ヲ以テ同法第十九條第一項第一、二號第二項ニヨリ各之ヲ沒收スヘキモノトス  
 仍テ主文ノ如ク判決シタリ

大正十四年六月十七日

何地方裁判所第三刑事部

### 偽造通貨收得行使

### 判 決

人 夫 職 甲 野 一 郎

當 四 十 八 年

右ノ者ニ對スル偽造通貨收得行使被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判  
 決スルコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役二年ニ處ス

押收物件(大正十三年押第三九五號)中偽造貨幣ハ全部之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

### 理 由

(1) 外國ノ一地域ニ於テ流通

偽造通貨收得行使

被告人ハ

第一 大正十三年一月八日東京府南葛飾郡大島町八丁目三百七番地浦野鐵五郎方裏手ノ蓮田ニ於テ偽造ニ係ル帝國五十錢銀貨百 十個ヲ其情ヲ知ラスシテ收得シ自宅ニ持歸リ布片ヲ以テ之ニ附著セル汚物ヲ除去シ磨キ上ケタルニ黒ク光リテ其色澤ノ異様ナルヲ見テ茲ニ初メテ其偽造貨幣ナルコトヲ知リタルニ係ラス同年一月中旬ヨリ二月中旬頃迄ノ間數回ニ亙リ東京市深川區猿江町十二番地谷田部通一方外數個所ニ於テ右偽造貨幣全部ヲ眞貨ナル如ク裝ヒテ行使シ

第二 同年四月十一日行使ノ目的ヲ以テ前記蓮田ニ於テ前同様ノ偽造ニ係ル五十錢銀貨四百個ヲ其情ヲ知リテ收得シタル上同月十六日迄ノ間數回ニ亙リ東京府南葛飾郡小松川町字西小松川五千三百八十七番地宇田川寛治方外數個所ニ於テ右偽造貨幣九十四個ヲ眞貨ナルカ如ク裝ヒテ行使シ

第三 同年四月十三日行使ノ目的ヲ以テ前同様蓮田ニ於テ偽造五十錢銀貨九十個ヲ其情ヲ知リテ收得シタルモノナリ以上偽造貨幣ノ收得並ニ其行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノナリ

證據ヲ按スルニ被告人ハ當公庭ニ於テ判示日時場所ニ於テ判示物件ヲ收得シ之ヲ判

通スル貨幣紙幣銀行券等ヲ偽造シタル所爲ト雖明治三十八法律第六十六號ニ謂所外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券等ヲ偽造シタルモノニ該當スルモノトス(大判、大正一四、一二二五五)

示ノ如ク使用シタル事實ハ之ヲ認ムルモ右貨幣カ偽造ナリシ事實ハ之ヲ認ムルモ右貨幣カ偽造ナリシ事實ハ最後迄之ヲ知ラサリシモノナル旨辯疏スレトモ被告人ニ對スル第一回豫審訊問調書ニ被告人ノ供述トシテ大正十三年一月八日午後四時頃判示蓮田ニ於テ亞鉛板ノ圓筒ノ包ミヲ三本拾ヒタルカ内一本ノ包ミ破レ内部ヨリ五十錢銀貨三四個轉ケ出テタルニヨリ手ニテ擦リタルニ明治四十何年五十錢等ノ文字モ明瞭ニ讀マレ眞ノ五十錢銀貨ナリト思ヒ之ヲ家ニ持歸リ開キタルニ同包ミ一本ニ五十錢銀貨五十個宛合計百五十個在中セリ之ハ總テ錆ヤ汚レ附着セル爲メ同日及翌日ノ二日ニ妻ト一緒ニ自分方ニテ襪襪ニテ之ヲ磨キタルニ普通ノ光澤ヲ有スル物モアリタレト強 磨ク時ハ黒ク光ル故自分モ變ニ思ヒタリ且ツ音ヲサセ見ルニ中ニハ眞ノ銀貨ノ如キ音ヲ發スルモノモアリタレトモ大部分ハ音カ全ク變リテ偽造貨幣ニ相違ナシト思ヒタルモ當時自分ハ怪我ノ爲メ採療治ニ通ヒ居リ生活ニモ困リ居リタレハ惡シキ事トハ知リナカラ之ヲ拾ヒテヨリ一週間許リ後ヨリ二月中旬頃迄ノ間ニ右貨幣ヲ判示東京市深川區猿江町柔道師範宅ニテ採療治費其他生活費等ニ全部費ヒタリ次ニ判示ノ如ク同年四月十一日午前十一時頃ニモ釣ニ行ク途中前同一ノ蓮田ニ於テ前同様ノ亞鉛ノ包ミ三本ヲ一緒ニ括リタルモノヲ見付ケタル故若シ其中ニ前同様

ノ貨幣アラハ之ヲ使フ考フニテ拾ヒ上ケ更ニ附近ニテ五本ヲ拾ヒテ家ニ持歸リ包ミヲ開キ見タルニ前同様一包ミニ付五十錢貨幣五十個宛合計四百個在リタルヲ以テ暇ヲ見テハ襪褌ニテ磨キ上ケ同年四月十六日迄ノ内ニ其一部分ハ判示西小松川其他ノ場所ニ於テ費ヒ其餘ハ自宅ノ押入ノ中ニ入レ置キタリ尙同年四月十三日ニモ釣ニ行ク途中前示同一ノ蓮田ニ於テ前同様ノ亞鉛ノ包ミ一本ヲ探シ當テ釣ノ歸途更ニ一本ヲ探シ當テ結局二本拾ヒテ歸宅シ開キ見タルニ前同様ノ五十錢貨幣四十五個宛在中セルヲ以テ之ヲモ費フ考ヘニテ一本ノ方ハ全部磨キ上ケ他ノ一本ハ其儘ニシテ押入ニ入レ置キ居タル旨ノ記載アルト證人綠川タネニ對スル第一回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ノ夫ナル被告人ハ判示大正十三年一月八日釣魚ニ行キ大島町ノ蓮田ニ於テ拾ヒタリトテ五十錢銀貨五十枚在中ノ亞鉛ノ筒三本ヲ持歸リタルカ自分ハ銀貨カ亞鉛ノ筒ノ中ニ入レアルコトヲ變ニ思ヒ又餘程以前支那人カ贋金ヲ造ルトノ風評ヲ聞キタルコトアリ大島附近ニハ支那人多數居住セル故右貨幣ハ或ハ支那人カ偽造セルモノニアラスヤト被告人ニ質シタルニ被告人ハ左様ナ事ハナカルヘシ非常ニ良ク出來居レリト申シタリ然レトモ右貨幣ハ大變汚レ居リタルニ依リ被告人ト共ニ磨砂ニテ之ヲ磨キタルニ黒シミ來リ眞ノ銀貨ノ如ク白ク光ラサリシヨリ被告人

ハ成程之ハ少々變タ或ハ贋金ナルヤモ知レスト申シタリ自分等ハ右貨幣ヲ全部磨キタル上火鉢ノ抽斗ニ入レ置キタルカ其後惡事トハ知リナカラ生活費等ノ爲メ漸次ニ之ヲ費消シタル旨ノ記載アルト鑑定人阿部温ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ大正十三年押第三九五號ノ一ノ一二ノ一七ノ一ノ銀貨ハ孰レモ偽貨ナリト鑑定スル旨ノ記載アルトニ徵スルトキハ判示ノ如ク判示第一ニ付キテハ收得後其偽貨ナルコトヲ覺知シ乍ラ之ヲ行使シ判示第二第三ニ付キテハ偽貨ナルコトヲ覺知シ乍ラ之ヲ行使スル目的ヲ以テ收得シ其一部ヲ行使シタルモノト認定スルヲ相當トス而シテ犯意繼續ノ點ハ被告人カ短期間ノ内ニ同種行爲ヲ反覆累行シタル事實ニ徵シテ之ヲ認メ得ルヲ以テ判示犯罪事實ハ全部證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示第一ノ收得偽造貨幣行使ノ點ハ刑法第五百二十二條ニ判示第二第三ノ行使ノ目的ヲ以テ偽造貨幣ヲ收得シタル點ハ各同法第五百十條ニ判示第二ノ收得偽造貨幣行使ノ點ハ同法第四百四十八條第二項ニ該當シ以上偽造貨幣收得ノ各所爲並ニ其行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ各連續ノ一罪トシテ重キ判示第二ノ偽造貨幣收得罪及行使ノ罪ノ刑ニ從フヘク尙右連續偽造貨幣收得ノ所爲ト其連續行使ノ所爲トノ間ニハ更ニ手段結果ノ關

係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シテ重キ判示第二ノ偽造貨幣行使ノ罪ノ刑ニ從ヒ有期懲役刑ヲ選擇シテ處斷スヘキトコロ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ其刑ヲ酌量減輕シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク押收ニ係ル偽造貨幣中大正十三年押第三九五號ノ符號一乃至六ハ本件偽造貨幣行使罪ノ組成物其餘ハ本件偽造貨幣取得罪ノ因得物ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條ヲ適用シテ全部之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十五年一月七日

何地方裁判所第四刑事部

### 偽造通貨取得行使控訴判決

## 判 決

人 夫 職

甲

野

一

郎

當 四 十 八 年

右ノ者ニ對スル偽造通貨取得行使被告事件ニ付大正十四年三月七日東京地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴申立テアリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與審理ノ上判決スルコト左ノ如シ

## 主 文

被告人ヲ懲役二年ニ處ス

押收物件中偽造貨幣ハ全部之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

## 理 由

被告人ハ

第一、大正十三年一月八日東京府南葛飾郡大島町八丁目三百七番地浦野鐵五郎方裏手蓮田ニ於テ偽造ノ帝國五拾錢銀貨百五十個ヲ取得シタル後其偽造貨幣ナル

コトヲ知リタルニ拘ラス同月中旬ヨリ翌月中旬頃過ノ間數回ニ亘リ東京市深川區猿江町十二番地谷田部通一方外數個所ニ於テ治療代其他ノ代金支拂ニ供シテ全部之ヲ行使シ

第二、同年四月十一日行使ノ目的ヲ以テ前記蓮田ニ於テ前同様ノ偽造銀貨四百個ヲ其情ヲ知テ取得シタル上同月十六日迄ノ間數回ニ亘リ東京府下小松川町字西小松川宇田川寛治方外數個所ニ於テ物品代金ノ支拂等ニ九十四個ヲ使用行使シ第三、同月十三日行使ノ目的ヲ以テ前同所ニ於テ前同様偽造銀貨九十個ヲ其情ヲ知リテ取得シタルモノナリ右偽造貨幣ノ取得並ニ其行使ノ各所爲ハ孰レモ犯意

繼續ニ出テタルモノナリ

右事實中判示日時場所ニ於テ判示物件ヲ取得シタル事實並ニ判示第一及ヒ第二ノ拾得偽造銀貨ヲ夫々判示ノ如ク使用シタル事實ハ原審第一回公判調書ニ被告人ノ其旨ノ供述記載アルニ徴シ之ヲ認定シ

判示第一ノ取得偽造銀貨全部ヲ判示期間中ニ使用シタル事實ハ被告人ノ第一回豫審訊問調書中第三乃至第十三問答ニ被告人ノ其旨ノ供述記載アルニ徴シ之ヲ認定シ判示第二ノ取得偽造銀貨四百個ノ内九十四個ヲ判示期間中ニ使用シタル事實ハ被告

人ノ豫審第一回訊問調書中第十八、乃至第二十一及第二十八問答ニ「大正十三年四月十一日偽造銀貨四百個ヲ拾ヒ同日一本磨キ翌日家内カ田舎ニ歸ル旅費トシテ二十枚渡シ其他ハ同月十六日迄ノ間ニ費ヒタリ同月十六日大島町ノ洋食店共和軒ニテ飲酒シ拾フタ銀貨ニテ四圓拂ヒ二十錢釣リヲ貰ヒタルカ其家ヨリ交番ニ知ラセタト見エ巡查來リ連レ行カレタリトノ旨ノ供述記載ト原審第一回公判調書中（記録三〇三丁）ニ被告人ノ警察ニ連行セラレタルトキ三十一個ヲ所持シ捜査ノ結果三百七十五個アリタルニ相違ナキ」旨ノ供述記載ト被告人豫審第二回訊問調書中第四問答ニ「大正十三年四月十三日第三回目ニ拾ヒタル九十個ハ使用セサリシ」旨ノ供述記載トヲ綜合シテ之ヲ認定シ

判示第一ノ取得後偽造銀貨ナルコトヲ知リタル事實及ヒ判示第二第三ノ偽造銀貨ナルコトヲ知リテ取得シタル事實ハ被告人ノ豫審第一回訊問調書中第十第十二問答ニ被告人ノ「自分カ夫レヲ拾ヒ歸リ其晩十枚翌日残り全部ヲ磨キタルニ内ニハ普通ニ光ルモノモアリタルモ強ク磨クト黒ク光リ來ルモノモアルノテ變タト思ヒタリ光カ變ナルノミナラス音ヲサセ見ルニ内ニハ眞ノ五拾錢銀貨ノ如キ音スルモノモアリタルカ大部分ハ音ハ全ク變リ居リタル故偽金ニ違ヒナシト思ハレタリ」トノ旨ノ供述

記載ト同訊問調書中第十八第十九問答ニ被告人ノ「第二回目ニ拾ヒタルモノハ拾フトキヨリ前同様偽金ナルコトハ無論知り居リタル」旨ノ供述記載ト訊問調書中第二十四第二十五問答ニ被告人ノ「第三回目ニ拾ヒタルモノハ拾フトキヨリ前同様偽金ナルコト知り居リタル」旨ノ供述記載ト豫審ニ於ケル鑑定人阿部温ノ訊問調書ニ同人ノ「大正十三年押第三九五號一ノ一二ノ一及ヒ七ノ一ノ三個ハ孰レモ偽貨ト鑑定ス」トノ旨ノ供述記載ト右押收物件ノ存在スルトヲ綜合シテ之ヲ認定スルニ足ル判示第二及第三ノ偽貨ノ取得カ行使ノ目的ヲ以テナサレタル事實ハ被告人ノ豫審第一回訊問調書中第十八及ヒ第二十四乃至第二十七問答ニ被告人ノ「二度目ニハ若シ前同様ノモノナラハ使用セムトノ氣ヲ起シ拾ツテ家ニ持チ歸リタリ三度目ニハ二本拾ヒタルカ前二回ト同シク費フ考フニテ拾ヒ來リタリ」トノ旨ノ供述記載ト判示第二ノ如ク偽貨ヲ使用シタル事實ニ徴シ明白ナリ犯意繼續ノ點ハ短期間内ニ夫々同種犯行ヲ累行シタル事實ニ徴シ之ヲ認定ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中判示第一ノ偽造貨幣取得後知情行使ノ點ハ刑法第五百二十二條ニ該當シ判示第二及ヒ第三ノ偽造貨幣取得ノ點ハ刑法第五百十條第五十五條ニ該當シ判示第二ノ偽造貨幣行使ノ點ハ刑法第四百四十八條第二項ニ該當スルト

コロ判示第一第二ノ偽造貨幣行使ノ所爲ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條第十條ニ則リ重キ判示第二ノ偽造貨幣行使罪ノ刑ニ從フヘク右偽造貨幣取得ト其行使トハ互ニ手段結果ノ關係ニアルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ判示第二ノ偽造貨幣行使罪ノ刑ニ從ヒ有期懲役刑ヲ選擇シ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第七十一條第六十八條ニヨリ減輕シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク押收ノ偽造貨幣中大正十三年押第三九五號ノ一乃至六ハ本件偽造貨幣行使罪ノ組成物其餘ハ本件偽造貨幣取得罪ニヨリ得タルモノニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ刑法第十九條ニヨリ全部之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年五月十九日

何控訴院刑事第四部



公文書變造行使

判決

無職 甲 野 一 郎

當 三 十 五 年

右之者ニ對スル公文書變造行使被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決ヲナス  
コト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役六月ニ處ス

押收ニ係ル保管物品受領證書(大正十四年押第六七二號ノ一)ノ變造部分

ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

(一) 文書ノ作成ヲ委託セラレタル者カ委託者ノ意思ニ反シ其ノ内容ヲ知ラシメスシテ委託ノ内容ト異ル文書ヲ作成スルニ於テハ假令其ノ内容ニシテ委託ノ種類ト同シキ場合ト雖モ其ノ委託ノ範圍ノ超越スルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス公文書ト私文書トハ文書ノ性質效用ヲ異ニシ且其ノ罰條ヲモ異ニシテ其ノ各偽造及偽造文書ノ行使 行為ハ罪質ヲ同シクセサルヲ以テ假令意思繼續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ通シテ一個 連續犯ヲ構成セザルモノトス(朝、高、法院、大正一二、八、三〇日)

(二) 明治三十八年法律第六六號ニ所謂外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券等トハ必シモ外國ノ領土全權ニ亘リ流通スルモノニ限ラス其ノ一地域ニ於テ流

被告人ハ生來ノ瘡啞者ナルトコロ大正十三年五月十二日東京市深川區洲崎ニ於テ象牙印願一個在中ノ絹製縞財布一個ヲ拾得シ直ニ之ヲ深川洲崎警察ニ届出テ同著遺失物取扱主任官タル警視廳警視手田光雄ヨリ同人作成名義被告人宛ノ絹製縞財布一個及印願一個ヲ領收セル旨ノ記載アル保管物品受領證書一通ノ交付ヲ受ケタルヲ奇貨トシ同年八月二十五日之ヲ利用シテ右物品ト共ニ金圓ヲ拾得セルモノノ如ク裝ムト欲シ行使ノ目的ヲ以テ石川縣金澤驛待合室ニ於テ擅ニ右保管物品受領證書ノ品名欄中絹製縞財布ノ記載ノ次ニ金百〇圓也ト記入シ以テ右證書ヲ變造シタル上同日金澤市下新井町四十一番地熊谷鈴尾方ニ於テ同人ニ對シ右證書ヲ交付シ以テ行使シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ右ノ事實ハ被告人ノ當公庭ニ於ケル判示同趣旨ノ供述及押收ニ係ル保管物品受領證書ニ判示變造ノ事實ニ照應スル記載アルニ徴シ之ヲ認ムルニ其證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公文書變造ノ點ハ刑法第一百五十五條第二項第一項

公文書變造行使

通スルモノヲモ包含スル  
モノトス(大判、大正一  
四、一二、二五日)

ニ同行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第一百五十五條第二項第一項ニ各該當シ其間  
互ニ手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ犯情ノ  
重キ右公文書變造罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘキトコロ被告人ハ瘡啞者ナルヲ以テ同法第  
四十條後段第六十八條第三號ニ則リ其刑ヲ減輕シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲  
役六月ニ處スヘク尙押收ニ係ル保管物品受領證書ノ變造部分ハ本件公文書變造行爲  
ヨリ生シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第  
二項ヲ適用シテ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付キ刑事訴訟法第三百三十七條第一項ニ則  
リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決シタリ

東京地方裁判所第四刑事部

公文書偽造教唆同上行使

判決

元役場書役

甲 野 一 郎

當 二 十 九 年

外 一 名

右甲野一郎ニ對スル公文書偽造乙野次郎ニ對スル公文書偽造教唆及偽造公文書行使  
各被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人甲野一郎ヲ懲役拾月ニ處ス  
但シ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス  
被告人乙野次郎ヲ懲役壹年ニ處ス  
押收ノ戶籍謄本一通ハ之ヲ沒收ス  
訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トス

理 由

被告人甲野一郎ハ豫テ東京府神津島役場書役トシテ勤務戶籍事務擔任中相被告人乙  
野次郎ノ教唆ニ基キ同人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ大正九年五月九日同所内ニ

公文書偽造教唆同上行使

(11)  
町村長ノ臨時代理ニ非  
シテ單ニ町村長ノ命ニ依  
リ戶籍事務ヲ擔任セル町  
村役場書記カ行使ノ目的  
ヲ以テ當該町村役場名義

ノ戸籍簿ニ虚偽ノ記載ヲ  
爲タルトキハ刑法第一  
五五條第一項ノ文書偽造  
罪ニ問據スヘキモノニシ  
テ公務員其職務ニ關シ虚  
偽ノ文書ヲ作成シタルモ  
ノトシテ同法第一五六條  
ニ問據スヘキモノニ非ス  
(大判、大正五年)

於テ同人ノ妹たつノ戸籍原本ニ出生年月日明治三十七年五月十八日トアルヲ被告人  
一郎カ保管ニ係ル同島名主松本鶴松ノ印ヲ使用シテ明治三十五年五月十八日ト記載  
シタル同島名主松本鶴松名義認證ノ戸籍謄本一通ヲ偽造シ之ヲ同日同島山下フリ方  
ニテ被告次郎ニ交付シ被告人乙野次郎ハ大正九年四月末日以降七、八回ニ亘リ相被  
告人一郎肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ行使ノ目的ヲ以テ財産上ノ困窮ヲ訴ヘ以テ前記  
ノ如ク戸籍謄本ヲ偽造スルコトヲ決意セシメ仍テ被告人甲野一郎ハ右戸籍謄本ヲ偽  
造シ被告人乙野次郎ハ之ヲ受取り真正ニ成立セルモノトシテ山田熊吉ノ手ヲ經テ東  
京市深川區洲崎辨天町二丁目九番地竹萬樓主高澤竹次郎ニ送致シ同年五月二日同人  
ヨリ之ヲ同市深川區洲崎警察署ニ提出セシメタルモノナリ

右被告人甲野一郎ノ犯罪事實ハ被告人一郎ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並ニ  
同人ニ對スル豫審調書中ニ相被告人乙野次郎ノ懇請ヲ容レ同人ノ戸籍謄本ヲ偽造シ  
テ同人ニ交付シマシタ云々ノ被告人一郎ノ供述記載ニ依リ之ヲ認ム被告人乙野次郎  
ノ各犯罪事實ハ同人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並ニ公文書偽造教唆ニ對シ  
テハ同人ニ對スル第二回豫審調書中娼妓稼ハ滿十八年以上テナケレハ出來ヌトノコ  
トテアリ妹たつハ滿十八年ニナツテ居ラヌノテ被告甲野一郎ニ頼テ虚ノ謄本ヲ拵ヘ

テ貰フ様ナコトニナツタノテアリマス云々ノ被告人次郎ノ供述記載公文書偽造行使  
ノ點ハ同人ニ對スル第三回豫審調書中ニ其年ヲ直シテ作テ貰ラツタ謄本ハ島テ山田  
熊吉ニ渡シタノテアツタナトノ同人ニ對スル裁判所長ノ問ニ對シ左様テストノ同人  
ノ供述記載ニ依リ之ヲ認ムルニ證據十分ナリ

法律ニ照スニ被告人甲野一郎ノ判示所爲ハ刑法第五百十六條第五百十五條第一項ニ  
該當スルヲ以テ其公文書偽造ノ罪ノ刑ニ定メラレタル刑罰範圍内ニ於テ同人ヲ懲役  
拾月ニ處スヘク但シ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第二十五條刑事訴訟  
法第三百五十八條第二項ニ則リ裁判確定ノ日ヨリ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人  
乙野次郎ノ所爲中公文書偽造教唆ノ點ハ同法第五百十五條第一項第五百十六條第六  
十一條第一項第六十五條第一項ニ偽造公文書行使ノ點ハ同法第五百十八條第一項第  
百五十六條第五百五十五條第一項ニ各該當スル處右教唆行爲ト行使トノ間ニ互ニ手  
段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ犯狀重キ公文書行  
使ノ罪ノ刑ニ從ヒ其刑期範圍内ニ於テ被告人乙野次郎ヲ懲役壹年ニ處スヘク押收ニ  
係ル戸籍謄本一通(大正九年押第六七三號)ハ本件犯罪行爲ノ組成物件ニシテ何人ノ  
所有ニモ屬スヘカラサルモノナレハ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒

收シ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條第二百四十二條ニ依リ被告人兩名ノ連帶負擔トスヘキモノトシ主文ノ如ク判決ヲシタリ

大正十四年六月十六日

何地方裁判所第三刑事部

### 公文書偽造行使並横領

### 判 決

元警視廳巡查

甲

野 一 郎

當 三 十 二 年

右ノ者ニ對スル文書偽造行使並ニ横領被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與判決ヲ爲スコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役一年ニ處ス

但シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收物件中遺失物受領證一通(大正十五年押第六四〇號ノ三)ハ之ヲ沒收ス

### 理 由

(一) 公文書偽造罪ノ成立ニハ文書ノ形式又ハ其内容ヲ偽リタル所爲カ一般人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ權限内ニ於テ作成シタル文書ナリト信セシムル程度ニ於テ其形式外觀ヲ具シ公文書ノ信用ヲ害スヘキ危險アルヲ以テ足り其文書ノ日附當時之ニ署名セル公務員ノ生存シタルヤ否ヤハ同罪ノ成立要件ニ非ス(大判、大正元年)

(二) 刑法第一五六條ノ文書偽造罪又ハ刑法第一五八條ノ偽造文書行使罪ヲ構成スヘキ事實ヲ認定スルニハ法令ニ依リ又ハ文書ノ證明セントスル目的等文書ノ性質用途自ラ明瞭ナル場合ヲ除クノ外文書偽

一、被告人ハ明治四十年十月廿四日警視廳巡查ヲ拜命シ大正十三年六月頃東京市下谷區竹町警察署會計係ノ事務ヲ補助トシテ拾得金品及遺失物ノ取扱事務ニ從事中大正十四年三月八日頃同市同區同町十二番地第二十二號松本幸平カ現金四十一圓十六錢五厘ヲ拾得シ之ヲ同署詰巡查部長某ニ届出テタルモノヲ翌九日午前一時頃同人ヨリ右拾得金ノ引繼ヲ受ケ同署拵付ケノ常ニ拾得金ヲ容レ置ク箱ニ之ヲ修メ該箱ノ鍵ヲ同人ヨリ受取り保管中右拾得金ノ遺失者不明ナルヲ奇貨トシテ大正十四年三月二十六日午後三時頃該金ヲ擅ニ自己ノ用途ニ費消シ横領シ

二、被告人ハ前示犯跡ヲ湮滅スル爲メニ行使ノ目的ヲ以テ同署ニ於テ同署拵付ケノ拾得金品受渡簿ノ用紙ノ受領證ノ部分ノミヲ切取り同紙裏面所定ノ欄ニ右拾得金額及其種類年月日拾得者松本幸平ノ氏名住所並ニ虛無人タル埼玉縣足立郡草加町五十番地遺失者渥美貢ト記載シ同人ノ名下ニ同署ノ保管ニ係ル渥美ト彫刻シタ

公文書偽造行使並横領

遺罪又ハ偽造文書行使罪ノ目的タル文書ノ性質ヲ明ニシ如何ナル用途ニ之ヲ行使スキモノルヤヲ説示セサルカラサルモノトス官文書偽造行使罪ヲ構成スキ事實ノ判示トシテ「各需品運搬要求票記載ノ虚偽ノ金額ヲ横須賀海軍工廠需品庫豫量簿ト表示シアル同庫備付ノ帳簿ニ記入シ」ト記載シアルノミナルトキハ右豫量簿ナル帳簿ト法令ノ規定又ハ名稱自體ニ依リ該文書ノ性質用途自ラ明瞭ナルモノニ非サレハ文書偽造行使罪ノ成否ヲ知ルニ由ナキモノトス

ル認印ヲ押捺シ同紙表面ニ警視廳警部石川某ト記載シタル同人ノ名下ニ同警部ノ官印カ押捺シアルモノヲ使用シテ該遺失物受領證ノ表裏ニ同署保管ノ即決ト彫刻セル印章ヲ押捺シ以テ該金ヲ領置シタル旨ノ警部某ノ作成スヘキ公文書及右金ヲ遺失者渥美貢ニ下渡シ之ヲ受領シタル旨ノ松本幸平名義ノ私文書ヲ偽造シテ之ヲ同署ニ拵ヘ置キ同年三月三十日頃警視廳刑事課ニ之ヲ送付シテ行使シタルモノナ

證據省略

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中業務上横領ノ點ハ刑法第二百五十三條ニ公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十五條第一項ニ行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十五條第一項ニ私文書偽造ノ點ハ同法第五百五十九條第一項ニ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ各該當スル處右公文書偽造ト其行使私文書偽造ト其行使トノ間ニハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ行使ノ各一罪ノ刑ニ從フヘク右各罪ノ行使ハ一括行使ニ係ルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ偽造公文書行使ノ刑ノ罪ニ所斷スヘキ處判示横領ノ所爲ト偽造文書行使ノ所爲トハ數罪併發ニ係ルヲ以テ同法第四十五條第四十

罪ハ右領得シタル財物又ハ利益ノ全部ニ付成立ルモノトス  
他人ヨリ財物ノ交付ヲ受テ又ハ財産上ノ利益ヲ領得スヘキ正當ナル權利ノ有スル者カ之ヲ實行スルニ當リ欺罔手段ヲ用ヒ義務ヲシテ正數以外ノ財物ヲ交付セシメ又ハ正數以上ノ利益ヲ供與セシメタルトキハ詐欺罪ハ右權利ノ範圍内ニ於テ領得シタル財産又ハ利益ノ部分ニ付キテノミ成立スルモノトス(海軍高等軍法會議、大正一一、三、一五日)

七條第十條ニ則リ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル上其所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキ處刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルモノト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收物件中遺失物受領書一通(大正十五年押第六百四十號ノ三)ハ判示犯罪行爲ヲ組成シタル物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルモノナレハ同法第十九條第一項第一號第二項ヲ適用シ主文ノ如ク判決シタリ

大正十四年四月二十一日

何地方裁判所第二刑事部

公文書偽造行使詐欺

判決

無職

甲野一(又ハ大野一)事 甲野一郎

當二十七年

右ノ者ニ對スル公文書偽造行使詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ  
公文書偽造行使詐欺

判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役壹年貳月ニ處ス

但シ未決拘留日數中六拾日ヲ右本刑ニ入算入ス

押收ニ係ル印章六個(大正十四年押第一二二五號ノ三、四、九、及一一、乃至一三)竝ニ文書參通(同號ノ二四、〇、二七)ハ孰レモ之ヲ沒收ス

理 由

被告人ハ

第一、大正十三年二月頃上京シ其後肩書村越國藏方其他ニ出入シ居ル中自ラ東京帝國大學法學部ノ學生ニシテ大正十四年三月同學部ヲ卒業スヘキ者ナル旨詐稱シ日常制服制帽ヲ着用シテ出入シ眞ニ帝國大學ノ學生ナルカ如キ舉止ニ出テ居リタル爲メ漸ク右村越國藏其他ノ者ヨリ前途有望ノ青年ナリトノ信賴ヲ招キ遂ニ同十四年二月二十二日迎ヘラレテ右村越ノ妻女ノ妹荒井ハナ 當時十八年)

通用期間經過ニ因リ無効ニナリタル定期乗車券ニ付行使ノ目的ヲ以テ其記載文字ヲ増減變換シ新ニ效力ヲ有スルモノノ如ク裝ヒタル行爲ハ有價證券ノ偽造ニシテ其ノ變造ニ非ズ  
苟モ欺罔手段ヲ施シテ鐵道係員ヲ錯誤ニ陥レ有效ノ乗車券ナクシテ乘車シ因テ輸送ノ利益ヲ受ケタルニ於テハ其ノ行爲ハ刑法第二四六條 二項ノ詐

欺罪ヲ構成スルモノニシテ此ノ場合ニハ欺罔手段ヲ用ヒ利得スルコトヲ犯罪ノ構成要件トセサル鐵道營業法第二九條第一號ノ處罰規定ハ其ノ適用ナキモノトス(大判、大正、一一、二、二五口)

ト内縁ノ夫婦關係ヲ結ヒ村越方ニ同居スルニ至リタルノミナラス尙學費名義ノ下ニ右村越ヨリ金圓ノ支出ヲ受ケタルコトアル等ノ事情ヨリ前示帝國大學卒業期ノ迫ルヤ真相ノ暴露センコトヲ虞レ右詐言ヲ維持シテ家人知己ノ信用ヲ繋カシカ爲メ茲ニ同學卒業證書ノ偽造ヲ企テ同年三月上旬先ツ東京市芝區白金志田町四十五番地印刷業安藤峰松方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ東京帝國大學印、帝國大學總長古在由直印、帝國大學法學部長美濃部達吉印右角形印章三個大正十四年押第一二二號ノ九、一一、一二)東京帝國大學之印ナル小判形印章一個(同號ノ一三)ヲ各印刷セシメテ同年四月上旬頃前示國藏方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ東京帝國大學總長古在由直、同學法學部長美濃部達吉ノ官氏名ヲ各冒書シ其名下ニ各前示ノ印章ヲ尙要部ニ右角形及小判形ノ東京帝國大學印ヲ夫々押捺シ以テ右大學總長及法學部長ノ作成スヘ 甲野一名義ノ卒業證書一通(同號ノ二四)ヲ偽造シ同年四月十日頃右村越方ニ於テ之ヲ眞正ノモノナリトシテ同人及右ハナ、其母小林つる等ニ呈示シテ行使シ  
第二、其後奈良縣丹波市町ニ赴カントシテ其旅費ニ窮シ鐵道乗車證ヲ偽造行使シテ無賃乗車ヲ爲サンコトヲ企テ

(イ) 同年八月二十日東京府荏原郡入新井町字新井宿皿沼五百十三番地印刷業丸橋慶太方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ東京鐵道局新橋運輸事務所長ノ従業員ノ爲メニ發行交付スヘキ鐵道乘車證用紙ヲ印刷作製セシメタル上同年同月二十五日及同年九月二十五日ノ兩度前記村越方ニ於テ行使ノ目的ノ下ニ新橋運輸事務所長タル里内常太郎ノ署名トシテ曩ニ情ヲ知ラサル前示安藤峰松ヲシテ印刻セシメタル右里内名義ノゴム印(同號ノ四)ヲ押捺シ其名下ニハ豫テ情ヲ知ラサル同府荏原郡品川町字北品川步行新宿五十五番地印刷師寺島規業ヲシテ印刻セシメ置キタル同運輸事務所長印(同號ノ三)ヲ押捺シ要部ニ被告人氏名、發行年月日、期間區間、發行番號等相當記入ヲ爲シ以テ同局長ノ作成スヘキ新橋驛丹波市驛間三等往復鐵道乘車證一通ノ偽造ヲ完成シ其頃右各一通ヲ品川驛及丹波市驛各掛員ニ對シ恰モ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ提示シテ行使シ右掛員等ヲ欺罔シ前後二同ニ亘リ品川驛丹波市驛間ヲ無賃ニテ往復乘車シ仍テ其實金二十二圓餘ノ支拂ヲ免レ右金額ニ相當スル財産上不法ノ利益ヲ得

(ロ) 同年十月八日右村越方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前同様ノ方法ニ依リ前同様ノ東京鐵道局新橋運輸事務所長ノ作成スヘキ新橋驛丹波市驛間三等往復鐵道乘

車證二通(同號ノ二七)ヲ順次偽造シ同月十日丹波市ニ出發スル豫定ヲ以テ携行スヘキ行李一個ヲ先ツ同地マテ托送セントシ同月九日午後四時頃右ノ中一通ヲ恰モ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒテ品川驛小荷物係杉本福吉ニ對シ呈示シテ行使シタルモノナリ

而シテ以上ノ業證書、鐵道乘車證ノ各偽造、其各行使並ニ詐欺ノ點ハ孰レモ連續シタル犯意ニ出テタルモノトス

證據ヲ按スルニ

判示第一ノ事實中被告人カ判示ノ如ク東京帝國大學法學部學生ナリト僭稱シ村越國藏其他ノ者ノ信賴ヲ受ケタル結果荒井ハナト内縁ノ夫婦關係ヲ結フニ至リタル點ハ證人村越國藏ニ對スル豫審訊問調書中ニ之ト同示ノ供述記載アルニヨリ認め得ヘク右大學卒業期ノ切迫スルヤ尙詐言ヲ支持センカ爲メ情ヲ知ラサル安藤峰松ヲシテ印刻セシメタル判示印章ヲ使用シ判示日時場所ニ於テ判示ノ如キ卒業證書ヲ偽造シタル點ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ供述ト右峰松作成始末書ト題スル書面記載押收ニ係ル大正十四年押第一二二五號ノ九、十一、乃至十三及卒業證書ト題スル書面(同號ノ二四)ニ判示ニ照應スル記載アルニ懲シ之ヲ認定シ得ヘク被告人カ判示日時

場所ニ於テ之ヲ判示ノ如キ者ニ呈示シテ行使シタル點ハ被告人ニ對スル第三回豫審  
訊問調書中<sup>131</sup> 同人ノ其旨ノ供述記載アルニヨリ亦之ヲ認定スルヲ得  
判示第二ノ事實中被告人カイ判示日時場所ニ於テ情ヲ知ラサル丸橋慶太ヲシテ印刷  
セシメタル用紙ニ豫テ情ヲ知ラサル安藤峰松寺島規業ヲシテ印刷セシメ置キタル印  
章(同號ノ三、四)ヲ使用シ尙判示ノ如キ相當記入ヲ爲シ以テ前後二回ニ亘リ判示ノ  
如キ鐵道乘車證各一通ヲ偽造シ且右各一通ヲ其頃判示ノ如ク行使シタル點ハ被告人  
ニ對スル第三回豫審訊問調書中同人ノ判示同趣旨ノ供述記載及安藤峰松、寺島規業、  
丸橋慶太ノ各作成ニ係ル各始末書中夫々判示關係部分ニ照應スル記載ニ依リ之ヲ認  
メ得ヘク證人杉本福松ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ品川驛丹波市驛間三等運賃一  
往復分ハ通行税ヲ合シテ金十圓三十二錢ナル旨ノ供述記載ニ依レハ被告人カ右偽  
造ノ鐵道乘車證ヲ行使シ判示金圓ニ相當スル財産上不法ノ利益ヲ得タルコト明ナリ  
而テ(ロ)ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述及押收ニ係ル乘車證(同  
號ノ二七ノ一、二)ニ判示ニ照應スル記載アルトニヨリ孰レモ之ヲ認ムルニ證據十分  
ナリ

被告人ノ判示ノ各所爲カ夫々連續ノ犯意ノ下ニ爲サレタル事實ハ同一罪質ノ犯行ヲ

短期期間内ニ反覆累行シタル事跡ニ徴シ明ナリ尙被告人ハ大正十一年十一月二十五  
日第十七師團軍法會議ニ於テ變造公文書行使罪ニ依リ懲役七月ニ處セラレ當時其刑  
ノ執行ヲ終リタルモノナリ右事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其旨ノ供述ニ依リ之ヲ  
認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第百五十五條第一項第五  
十五條ニ同行使ノ點ハ同法第百五十八條第一項第百五十五條第一項第百五十五條ニ、  
詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第二項第一項第百五十五條ニ各該當スルトコロ以上公  
文書偽造其行使並詐欺ノ各罪ハ順次手段結果ノ關係ニ在ルヲ以テ同法第五十四條第  
一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒテ處斷スヘキトコロ前  
示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍  
内ニ於テ被告人ヲ懲役壹年貳月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ依リ未決拘留日數中  
六拾日ヲ右本刑ニ算入シ押收物件中主文特記ノ文書三通ハ孰レモ本件偽造公文書行  
使罪ノ組成物件タル偽造公文書行使罪ヨリ生シタルモノニシテ犯人以外ノ者ニ屬セ  
サルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ、又主文特記ノ印章六個ハ總テ  
本件公文書偽造罪ヨリ生シタルモノニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第一



項第三號第二項ニ依リ全部之ヲ沒收スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十五年一月十日

何地方裁判所第一刑事部

私文書偽造行使

判決

無職 甲 野 一 郎

當 何 年

外 一 名

右ノ者等ニ對スル私文書偽造行使被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決ヲ爲  
スコト左ノ如シ

主 文

被告人甲野一郎及同何某ヲ各懲役十月ニ處ス

但シ被告人等ニ對シ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス  
押收ニ係ル何某等ノ卒業證書各一通何某ノ卒業證書一通何某ノ修業證書  
一通ノ各偽造部分ハ之ヲ沒收ス

理 由

(一) 所謂想像上數罪及牽連罪  
ハ數個ノ罪名ヲ一括シテ  
其ノ最モ重キ刑ヲ以テ處  
斷スヘキ精神ニ矛盾セサ  
、範圍内ニ於テハ之ヲ分  
離シテ處分スルコトヲ得

(二) 牽連罪ニ於ケル目的行為  
カ其ノ手段行為ニ對スル  
時効期間ノ滿了セサル以  
前ニ實行セラルトキハ  
二者ニ對スル公訴權ハ不  
可分のニ最モ重キ刑ヲ標  
準トシ最終行為ノ時ヨリ  
時効期間ノ滿了ズルニ因  
テ消滅スルモノナルモ目  
的行為カ手段行為ノ利ヲ  
標準トスル時効期間ノ滿  
了後ニ於テ實行セラルル  
トキハ手段行為ニ付テハ

被告人甲野一郎ハ自己カ宇都宮某學校書記ニシテ同校卒業證書修業證明書  
學業成績表ノ各用紙並ニ右學校印、中學校長中學校總裁印等ヲ保管セルヲ奇貨トシ  
テ何某何名カ同校中學校ヲ卒業シ又ハ當該學年ヲ修業シタルコトナキニ拘ラス中學  
編入試驗専門學校入學試驗ニ應スル資格證明ノ爲メ入用ナル旨ノ要求ニ對シ其爲メ  
行使セシムル目的ヲ以テ卒業證書ニ付テハ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ノ間ニ  
其他ニ付テハ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄ノ間ニ宇都宮市所在ノ右下野中學校  
ニ於テ

第一、

(一) 何某等ト共謀ノ上同校卒業證明用紙二枚ニ各校長某總裁某各名下ニ擅ニ「下  
野中學校ノ印」總裁ノ印」ナル各印章ヲ冒用押捺シ以テ何某カ各同中學校ヲ卒

私文書偽造行使

時效ノ完成ニ因ル公訴權ノ消滅ヲ認ムヘキモノトス(大判、大正二、二、二、五日)

(三) 前科ヲ有スル甲カ前科ナキ乙ノ氏名ヲ冒用シ文書ヲ作成行使スルハ自己ノ何人ナルヤヲ隠蔽スル爲ニナス單純ナル氏名作稱ニ止ラス、文書ノ名義人乙ニ該當スル前科ナキ者ノ作成セル文書カ成立セル如ク作爲シ之ヲ利用シテ官廳其他ヲシテ前科ナキ名義人乙ナリト誤信セシメ以テ判示ノ雇入其他ノ契約ヲ爲サシメントスルモノナレハ文書ノ真正ヲ詐リ公ノ信用ヲ害スル點ニ於テ他ノ文書偽造行使ト異ナル所ナキモノトス雅稱通稱又ハ變名ヲ使用スルハ自己ノ人格ヲ表明スルニ過キサレハ文書偽造行使罪ヲ構成セスト雖他人ノ資格ヲ利用スル爲其氏名ヲ冒用スル場合ハ同罪ヲ構成スルモノト

業セル旨ノ校長某總裁某名義ノ卒業證書二通ヲ偽造シ  
(二) 擅ニ同校卒業證明書用紙二枚ノ各中央左側部分ニ「下野中學校印」ナル印章ヲ校長某名下ニ「下野中學校長某」ナル印章ヲ冒用押捺シ以テ何某カ各同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某名義ノ卒業證明書二通ヲ偽造シ

第二

(一) 前示第一ノ(一)同様ノ方法ヲ以テ何某カ同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某、總裁某名義ノ卒業證書一通ヲ偽造シ

(二) 前示第一ノ(二)同様ノ方法ヲ以テ何某カ各同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某名義ノ卒業證明書二通ヲ偽造シ

(三) 擅ニ同校學業成績表用紙一枚ニ前示第一ノ(二)同様ノ方法ヲ以テ某ノ學業成績ヲ證明セル旨ノ校長某名義ノ學業成績表一通ヲ偽造シ

第三 何某等ト共謀ノ上

(一) 前示第一ノ(一)同様ノ方法ヲ以テ何某等カ各同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某、總裁某名義ノ卒業證明書二通ヲ偽造シ

(二) 前示第一ノ(二)同様ノ方法ヲ以テ何某等カ各同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某總裁

某名義ノ卒業證書二通ヲ偽造シ

(三) 擅ニ第二ノ(三)ノ方法ヲ以テ何某ノ學業成績ヲ證明セル旨ノ校長某名義ノ學業成績表一通ヲ偽造シ

第四

(一) 前示第一ノ(二)同様ノ方法ヲ以テ何某カ同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某、總裁某名義ノ卒業證書一通ヲ偽造シ

(二) 前示第三ノ(三)同様ノ方法ヲ以テ何某カ同中學校ヲ卒業セル旨ノ校長某、總裁某名義ノ修業證明書三通ヲ偽造シタルモノニシテ右私文書偽造及其行使ハ各被告入孰レモ意思繼續ニ出テタルモノトス

第五、何某ハ何年前示偽造ニ係ル卒業證書及卒業證明書各一通ヲ東京市私立明治大學ニ於テ同大學ニ入學資格證明ノ爲メ提出行使シタルモノナリ

以上ノ事實ハ意思繼續ノ點ヲ除キ各被告人等ノ各關係部分ニ付キ當公廷ニ於ケル自白ニ依リ意思繼續ノ點ハ各被告人ハ短期間内ニ同種ノ犯罪行爲ヲ反覆累行シタルニ依リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人甲野一郎ノ所爲ハ刑法第五百十九條第一項第五十五條ニ該當ス

ス(大判、大正二、二、二、五日)

(四) 既存ノ正當ナル文書中作成名義若クハ其他重要ナル點ヲ變更シ爲メニ其變更前ノ文書ト全然別箇獨立ナルモノト爲ストキハ文書ノ偽造ニシテ變造ニ非ス(大判、大正三)

ルヲ以テ其刑期範圍内ニ於テ被告人某ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第一百五十九條第一項第五十五條ニ偽造私文書行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ該當スルトコロ右私文書偽造ト其行使トノ各所爲ハ相互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ行使罪ノ刑ニ從ヒ其刑期範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各懲役十月ニ處スヘク各被告人ニ對シテハ孰レモ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ヲ適用シ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

尙押收ニ係ル各偽造部分 大正何年押第何號ハ孰レモ私文書偽造行使ヨリ生タルモノニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ刑法第十九條等一項第三號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年十月三十日

東京區裁判所第何刑事部

### 私文書偽造行使詐欺

### 判 決

青物商

志野乙太郎

當四十二年

右ノ者ニ對スル私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與判決ヲナスコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役六月ニ處ス

押收ニ係ル丙名義ノ金圓借用證書一通(大正十四年押第一、二、三、四號)ハ之ヲ沒收ス

### 理 由

被告人ハ大正十四年二月一日肩書居宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ東京市神田區須田町一番地時計商丙ノ氏名ヲ冒署シテ金百圓ノ借用證書一通ヲ作成シ其ノ名下ニ有合御

私文書偽造行使詐欺

九七

(一) 壇 他人ノ署名印章ヲ使用シテ其者ノ意思ニ反スル文書、作成シタルトキハ其ノ所爲文書偽造罪ヲ構成スルモノトス  
甲カ乙ノ文盲ナルニ乘シ

同人ニ對スル貸金ノ利息支拂ノ延期證ナリト詐リ契約利息ニ延滞利息ヲ附加シ支拂フヘク若シ違反シタルトキハ元利金ニ對シ抵當物件ヲ直ニ讓渡スヘキ旨記載シタル契約書ヲ作成シ其ノ文書ヲ告知セズ同人ヲシテ利息支拂ノ延期證ナリト誤信シテ之ニ押印セシメタル所爲ハ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス(大判、大正一二、一一、一五日)

(二) 裁判所ヲ欺罔シ詐欺ノ結果勝訴ノ判決ヲ得之ニ基キ敗訴者タル第三者ヨリ財産ヲ不法ニ領得シ因テ詐欺罪ノ成立シタル場合ニ被害者タル第三者ト詐欺罪ヲ犯シタル者ト直系血族ノ關係ニ在ルトキハ其ノ犯人ハ刑法第二四四條及第二五一條ニ則リ刑ヲ免除セラルルモノトス(大判、大正一二、一一、一五日)

虚上ノ損害ヲ被リタル者ヲ指稱スルモノトス(大判、大正一三、八、七日)

(三) 甲カ乙及丙其他ノ名義ヲ冒用シテ借用證書等ヲ偽造行使ノ上貸借名義等ノ下ニ金品ヲ騙取セントコトヲ企テ犯意繼續シテ各數回ニ亘リ公文書及私文書ヲ偽造行使シ他人ヨリ金品ヲ騙取シタルトキハ右各私文書偽造行使詐欺ハ孰モ夫々各連續犯ノ關係アルヲ以テ刑法第五五條ヲ適用シ以上公私文書ノ偽造行使詐欺ノ間ニハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同第五四條第一項後段第一〇條ニヨリ最モ重キ偽造公私文書連續行使罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキモノトス(福島地方裁判所若松支部、大正一二、二二、二八日)

(四) 他人ヲ欺罔スルニ因テ責務辨濟ノ延期ヲ得ルコトハ詐欺罪トシテ財産上不

私文書偽造行使詐欺

ヲ押捺シテ偽造ヲ完成シ同日同町五十番地丁方ニ至リ之ヲ同人ニ提出行使シ恰モ該證書カ真正ニ成立シ丙ニ於テ金圓ヲ借入ルルモノノ如ク裝ヒテ丁ヲ欺罔シ因テ同人ヨリ金百圓ヲ騙取シタリ

右ノ事實ハ被告人ノ當法廷ニ於ケル自白丁提出ノ詐欺被害始末書並押收ノ金圓借用證書ニ據リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ行爲中金圓借用證書偽造ノ點ハ刑法第五十九條第一項其行使ノ點ハ同法第二百六十一條第一項第五百五十九條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スル處其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ詐欺ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘク主文掲記ノ押收ノ借用證書一通ハ本件文書偽造行爲ヨリ生シタル物ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年三月一日 東京區裁判所

私文書偽造及變造行使詐欺未遂

判決

保險勸誘員 島野又郎

當三十三年

右ノ者ニ對スル私文書偽造及變造行使詐欺未遂被告事件ニ付キ何區裁判所カ大正十三年七月十二日言渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立テアリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事何某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役六月ニ處ス

但三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收物件中診查報告書ノ變造部分(押第七五六號ノ二)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

私文書偽造及變造行使詐欺未遂

法ノ利益ヲ得ルモノニ該當ス(大判、大正一二、六、一四日)

理由

(一) 他人ノ代表者又ハ代理人カ一定ノ行為ヲ爲スノ權限上其代表者クハ代理人義ヲ用ヒ又ハ直接ニ本人ノ署名若クハ商號ヲ用ヒテ文書ヲ作成スルコトヲ得ル場合ナルトキハ偶々其他位ヲ濫用シテ單ニ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ其代表者クハ代理人義又ハ本人ノ署名若クハ商號ヲ用ヒテ文書ヲ作成シタルトキト雖モ文書偽造罪ヲ構成セサルモノトス  
他人ノ代表者又ハ代理人カ權限外ノ事項ニ關シ擅ニ其代表者ハ代理人義又ハ本人ノ署名若クハ商號ヲ用ヒテ文書ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス  
代理人カ權限ヲ超越シタ

被告人ハ東京市麴町區有樂町一丁目一番地大正生命保險株式會社ニ保險勸誘員トシテ雇ハレ中大正十一年七月中被被告人ノ從兄ナル長野縣上伊那郡朝日村千二百七十三番地宇治橋常次郎四十九歳カ當事半身不隨症ニ罹リ遠カラス死亡ノ運命ニ遭遇スルコトヲ觀取シ剩ヘ同家ノ生活餘裕ナカリシ境遇ヲ察シ且被告人カ保險勸誘員ノ事務ニ從事セルヲ奇貨トシ右常次郎ヲ被保險者トシテ被告人ノ勤務セル判示大正生命保險株式會社ヲ欺罔シ生命保險契約ヲ締結セシメ以テ常次郎ノ遺族ヲシテ不法ニ右保險金ヲ利得セシメント企テ大正十一年七月二十八日頃同會社囑託醫唐澤諄ニ對シ同縣同郡東春近村居住吉原正之助當時年齡二十九歳ヲ前記宇治橋常次郎本人ナリト申欺 右正之助ヲ診斷セシメタル上同醫師ノ作成シタル診查報告書中ニ記載タル年齡二十九歳トアル部分ヲ其ノ頃甲府市富士川町ノ同會社出張所ニ於テ當四十九歳ト變造シ恰モ同醫師カ右常次郎本人ヲ診斷ノ上作成シタル診查報告書ナルカ如ク裝ヒ同年八月一日之ヲ東京市京橋區元數寄屋町同會社東京支店ニ宇治橋常次郎ノ保險契約申込書ト共ニ提出行使シ同支店ノ係員ヲ欺キ二十年掛保險金五百圓普通養老

ル事項ニ付名義冒用ニ因ル文書ヲ作製シタルトキハ包括的ニ作成セラレタル文書ニ付不可分のニ犯罪ノ成立ヲ認ムヘキモノトス  
代理人カ代理權ノ制限ニ反シテ爲シタル場合ニ於テ其代理權ニ加ヘタル制限ニシテ第三者ニ對抗シ得サル場合ハ文書偽造罪ヲ構成セサルモノトス  
(朝鮮判例調査會決議、大正一二、七、五日)  
(二)  
私文書變造行使ノ罪ハ他人名義ノ文書ニ關シ其容ヲ變更シ之ヲ行使スルニ因リ成立スルモノニテ其文書ノ效用全部ノ没却スル場合ニ構成セラレルモノニ非ス  
甲カ乙丙及甲ト三名連書ヲ以テ作成シテアリタル某職務署長宛續試據許可願書中ヨリ丙ノ署名捺印全部ヲ抹消シ別ニ丁ナシテ署名捺印セシメ新ニ乙丁及甲名義ノ該文書ヲ作

保險契約ヲ締約シ其ノ旨ノ保險證券ノ交付ヲ受ケタル後大正十二年十月一日右常次郎死亡スルヤ同年十二月十七日頃亡常次郎ノ妻宇治橋みねヲシテ前記會社本店ニ對シ當該保險金ノ請求ヲ爲サシメタルモ事發覺シテ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ  
證據ヲ按スルニ被告人カ東京市麴町區有樂町一丁目一番地大正生命保險株式會社ニ保險勸誘員トシテ雇ハレ居タル事實及其ノ雇ハレ中大正拾壹年七月中被告人ノ從兄ニ當ル當時年齡四十九歳ノ宇治橋常次郎カ半身不隨症ニ罹リ其ノ死期ノ遠カラサル状態ニ在リ且ツ當時同家ノ生活困難ナリシ爲メ被告人カ保險勸誘員ナルコトヲ幸トシ判示ノ如キ動機目的ノ下ニ右常次郎ヲ被保險者トシテ被告人ノ勤務セル前記保險會社ト生命保險契約ヲ締結センコトヲ企テタル事實並ニ大正十一年七月二十八日頃前記會社ノ囑託醫唐澤諄ニ申欺キ當時年齡二十九歳ノ吉原正之助ヲ右宇治橋常次郎本人ノ如ク裝ヒ該醫師ヲシテ右正之助ヲ診斷セシメタルニ同醫師ノ作成シタル診查報告書ヲ其ノ頃判示ノ場所ニ於テ判示ノ如ク變造シ恰モ宇治橋常次郎本人ノ查報告書ノ如ク裝ヒ之ヲ大正十一年八月一日判示ノ前記會社支店ニ判示ノ保險契約申込書ト共ニ提出シ當該係員ヲ申欺キ判示ノ如キ生命保險契約ヲ締結シ其ノ旨ノ保險

成行使シタルモノナルトキハ甲ノ所爲ハ署名者ノ承諾ヲ得スシテ壇ニ其文書ノ内容ヲ變更シタルモノニ非スシテ單ニ該文書中丙署名ノ部分ヲ毀滅シ丙ヲシテ其文書ヲ利用スルコトヲ得サラシメタルニ外ナラスシテ丁ノ署名ヲ新タニ加ヘタル所爲ハ文書變造罪ヲ構成スヘキニアラサルモノトス(大判、大正一〇、一、二七日)

證券ノ交付ヲ受ケタルニ大正十二年十月一日右常次郎カ死亡シタルニヨリ大正十二年十二月十七日頃亡常次郎ノ妻宇治橋みねヲシテ判示ノ如ク保險金ノ請求ヲ爲サシメタルモ事發覺シ遂ニ其ノ目的ヲ遂ケサリシ事實ハ孰レモ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述並ニ押收ニ係ル診査報告書一枚(押第七五六號ノ二)保險金請求書一枚(同上ノ四)普通養老保險證券一枚(同上ノ六)ノ各存在ニ因リ判示事實ヲ認定ス法律ニ照スニ被告人ノ行爲中診査報告書變造ノ點ハ刑法第五百十九條第二項第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百十九條第二項第一項ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ各該當スル所以上ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ情狀ニ因リ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ヲ適用シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收物件中診査報告書(押第七五六號ノ二)ノ變造部分ハ本件私文書變造行使ニ因リ生シタルモノニシテ犯人以外ノ所有ニ係ラサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス尙被告人ニ對スル本件公訴事實中保險料領收證及ヒ保險金請求書各一通ノ偽造並ニ行使

ノ點ハ犯罪ノ證明ナキモ判示ノ私文書變造及其ノ行使ト各連續ノ關係アルヲ以テ特ニ無罪ノ言渡ヲナサス仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年一月二十四日

東京地方裁判所第二刑事部

### 私文書偽造行使詐欺

### 判決

無職 大野 竹 男

當三十年

右被告人ニ對スル私文書偽造行使詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理判決スルコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役壹年六月ニ處ス

但本判決確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス  
 押收品中角田若太郎名義ノ借入金證書一枚(大正十四年押第二八號ノ一)  
 及鈴木きの名義ノ借入金證書一枚(同號ノ五)ハ孰レモ之ヲ沒收ス  
 訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ横濱市本町五丁目七十番地横濱生命保險株式會社ニ雇ハレ徵收課ニ勤務中  
 大正十三年七月末頃ヨリ遊興ニ耽リ其費用ニ窮シタルトコロヨリ犯意ヲ繼續シテ  
 第一 同年八月二十二日頃ヨリ同年十月三日迄ノ間五十九回ニ右會社カ保險契約  
 者等ニ對シ恰モ生存分配金並利益配當金又ハ假受金ヲ支拂フモノノ如ク裝ヒ福  
 井惣吉外五十八名宛ノ虛偽ノ出金傳票ヲ作成シ其都度又ヲ當該係員ニ提出シテ  
 以テ眞ニ同會社ニ於テ右福井等ニ對シ右各金員ノ支拂ヲ爲スモノト誤信セシメ  
 其頃同會社ヨリ現金合計金壹千九百八十圓九十錢ヲ交付セシメテ騙取シ  
 第二 同年九月九日横濱市神奈川七軒町二丁目三千五百八十二番地久松ていカ震  
 災ニ依リ 失シタル金額壹千圓ノ保險證券ノ再交付ヲ申出ツルヤ即日右會社ニ

(一) 私文書偽造罪ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ作成名義ヲ詐リ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書圖畫ヲ作成スルニ因リテ成立スルモノニシテ其ノ他人ノ作成名義ヲ詐ルニ付偽造シタル他人ノ印章若ハ署名ヲ不正ニ使用スルト將又既往ニ於テ適法ニ成立セル印章若ハ署名ヲ利用スルト又ハ文書圖畫ノ内容ヲ詐リ若ハ了知セシムルコトナクシテ他人ヲシテ其ノ文書圖畫ニ署名若ハ捺印セシムルト其ノ何レノ場合タルヲ問ハス苟モ不正ニ他人ノ印章若ハ署名ヲ使用シテ一個ノ文書圖畫ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ハ成立スルモノトス(大判、大一一四、九、二二日)

於テ同會社備付ノ保險契約臺帳ニ右ていカ金額五千圓ノ保險契約ヲ締結シタル旨ノ記載ヲ爲シ尋テ右同額ノ保險證券作成ノ手續ヲ執リ因テ右保險證券ヲ擔保トシテ借入金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ即日該保險金受取ヲ當時被告入ノ止宿シ居リタル同市中村町千四百五十六番地牛乳搾取業角田若太郎ニ變更スルコトノ手續ヲ執リ同時ニ行使ノ目的ヲ以テ同會社宛金額三千圓ノ借入金證書一通ヲ作成シ之ニ角田若太郎ト冒著シ其名下ニ同人ヨリ借受ケタル同人ノ印章ヲ押捺シテ以テ同人名義ノ借入金證書一通(大正十四年押第二八號ノ一)ノ偽造ヲ完成シ即時之ヲ同會社貸付係松尾勘吉ニ廻付シテ行使シ同人ヲシテ恰モ正當ナル保險契約者ニ於テ借入金ノ申出ヲ爲シタルモノト誤信セシメ即時同人ヲシテ出金傳票ヲ作成セシメタル上之ヲ徵收係長ノ手ヲ經テ會計係長ニ廻付セシメ同係員ヨリ即時利息等ヲ控除シタル現金二千八百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタル外同年十月三日同様金額三百七十圓ノ借入金證書一通ヲ作成シ之ニ鈴木きのト冒著シ其名下ニ同人ノ印章ヲ不正ニ使用シテ以テ同人名義ノ借入金證書一通(同號ノ五)ノ偽造ヲ完成シ即時之ヲ同會社ノ當該係員ニ廻付セシメテ行使シ同係員ヨリ現金三百五十七圓六十六錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取

第三 同年十一月四日頃東京市京橋區尾張町二丁目二十二番地國光生命保險相互會社ニ至リ嘗テ同會社ト保險契約ヲ締結シタルコトナキニ係ラス當該係員ニ對シ大正二年八月二十五日金額二千圓保險契約者被保險者及保險金受取人被告人ト定メタル生命保險契約金額二千圓保險契約者等梶原定吉ト定メタル前同契約及同四年八月二十五日金額一千圓被保險者酒井靜江其他ハ被告人ト定メタル前同契約ヲ夫々右會社ト締結シタルモノナル處右定吉名義ノ分ニ付テハ既ニ右會社ヨリ金百七十圓ヲ借用シタル際該保險證券ヲ會社ニ差入アルモ其餘ノ部分ニ付テハ震災ニ依リ燒失シタルヲ以テ之カ再交付アリタキ旨申テ翌日頃再ヒ同會社ニ至リ右保險證券ヲ擔保トシテ金員ヲ借入レタキ旨申出テ即日右會社ニ於テ同會社宛金額壹千四百四十圓ノ借用金證書一通ヲ作成シ之ニ梶原定吉ト冒署シ其名下ニ同人ノ印章ヲ不正ニ使用シテ以テ同人名義ノ借用金證書一通ノ偽造ヲ完成シ之ニ同人名義ノ印鑑證明書ヲ添ヘテ被告人名義ノ借用金證書二通ト共ニ前記係員ニ提出行使シテ右係員ヲ欺キ即日同會社ヨリ借入金名義ノ下ニ現金合計金二千二百二十四圓六十四錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタル外前同様同

月二十四日頃ヨリ數回同市日本橋區檜物町五番地共同生命保險株式會社ニ至リ同會社係員佐藤昌尙ニ對シ大正三年八月二十五日金額一千圓保險契約者被保險者及保險金受取人各被告人ト定メタル生命保險契約金額二千圓被保險者梶原フク其他前同様ノ契約及被保險者梶原定吉其他前同様ノ契約ヲ夫々右會社ト締結シタルモノナル處該保險證券カ震災ニ依リ燒失シタルニ付キ再交付アリタキ旨及右各證券ヲ擔保トシテ金借シタキ旨夫々詐リ申出テ右係員ヲ欺罔シ同年十二月二日右會社ニ於テ同會社ヨリ借入金名義ノ下ニ現金合計二千三百五十八圓三十錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第四 同年十一月十日頃ヨリ數回同市京橋區南金六町十五番地大安生命保險株式會社ニ至リ同會社係員石毛五郎ニ對シ大正四年八月二十五日右會社ト金額二千圓被保險者梶原定吉保險契約者及保險金受取人被告人ト定メタル生命保險契約及金額壹千圓其他ハ被告人ト定メタル前同契約ヲ夫々締結シタルモノナル處右各保險證券カ震災ニ依リ燒失シタルニ付再交付アリタキ且該保險契約ハ孰レモ解約ヲ爲スニ付解約返戻金ノ支拂アリタキ旨申テ該係員ヲ欺キ因テ四月二十九日右會社ニ於テ同會社ヨリ現金八百七十五圓六十八錢ヲ交付セシメテ之ヲ



騙取シタルモノナリ

以上ノ事實ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述ニ依リテ之ヲ認メ其餘ハ短期間内ニ同種ノ犯行ヲ反覆累行シタル事實ニ徴シテ之ヲ認定ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第二及第三ノ各借用金證書偽造ノ點ハ刑法第五百五十九條第一項第五十五條ニ各其行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第五十五條ニ第一乃至第四ノ各金員騙取ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ右私文書ノ偽造ト其行使ト詐欺トノ間ニハ互ニ手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク尙右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アルヲ以テ同法第二百五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ本判決確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收品中主文掲記ノ物件ハ孰レモ本件私文書偽造罪ヲ組成シタルモノニシテ何人ノ所爲ニモ屬セサルモノナルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ヲ爲ス

大正十四年十月二十日

東京地方裁判所第二刑事部

文書偽造行使詐欺業務上横領

判決

無職 大野二郎

當四十八年

右ノ者ニ對スル文書偽造行使詐欺業務上横領被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役二年ニ處ス

押収物件中(證第何々號何々)ノ各偽造部分ハ孰レモ之ヲ沒收ス

文書偽造行使詐欺業務上横領

1925

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ長崎縣北高來郡諫早町株式會社諫早銀行ノ行員ニシテ爲替及貸付等ノ事務ニ從事中

第一 犯意ヲ繼續シテ(前略)

(一) 大正十二年十二月十二日他人カ十八銀行ヲ經テ前示被告人ノ當座口ニ金千六百八十圓ノ振込ヲ爲シタルコトナキニ拘ラス其ノ頃前同様擅ニ諫早銀行名義ノ支拂入金傳票各一通(證第三十一號ノ一、二)ヲ偽造シ尙同銀行他店勘定元帳ニ前同様右金額拂出ノ虚偽ノ記入ヲ爲シテ偽造シ夫々同銀行ニ備付ケタル上前同様ノ手段ニ依リ右金額ノ預金債權ヲ取得シテ財産上不法ノ利益ヲ得

(二) 大正十三年六月十日他人カ株式會社安田銀行博多支店ヲ經テ前示被告人ノ當座口ニ金九百五十圓ヲ振込ミタルコトナキニ拘ラス其ノ頃前同様擅ニ諫早銀行名義ノ支拂傳票(證第十七號ノ七)入金傳票(證第二十五號)各一通ヲ偽造シ尙同銀行ノ他店勘定元帳ニ右支店ノ爲替尻ヨリ右金額ヲ拂出シタル旨ノ虚偽

(一) 一定金額ノ消費貸借ニ付其ノ一部ノ金額ヲ以テ利息及費用ノ支拂ニ充ツル爲メ合意上之カ現金ノ授受ヲ省キタル場合ニ於テ右消費貸借ノ成立カ詐欺ニ基因スルトキハ其ノ貸借ノ金額ニ付詐欺罪成立スルモノトス(大判、大正一三、五、二七日)

(二) 税關監吏カ税關貨物取扱人ノ雇人ト共謀シ任務ニ背キ通關貨物ノ裁量ヲ不正ニ減少シテ倉敷料ノ一部ヲ免脱セシメ因テ其ノ雇人カ倉敷料納付ノ爲業務上保管セル收入印紙ヲ横領シタル場合ニ於テ其ノ背任行爲ト横領行爲トハ牽連罪ニ非ス(大判、大正一五、二、八日)

(三) 株式會社タル銀行ノ支配人カ金錢債務ノ擔保トシテ自己所有ノ其ノ銀行發行ノ株券ヲ銀行ニ交附シ

タル後支配人トシテ保管中壇ニ之ヲ引出シテ處分シタル場合ニ於テ若シ其ノ株券ニ質權ヲ設定シタルモノナルトキハ質權ノ設定ハ無効ニシテ壇ニ之ヲ引出シタル支配人ノ行爲ハ業務領罪ヲモ背任罪ヲモ構成セサルモノトス(大判、大正一一、七、五日)

(四) 詐欺罪ヲ構成スル所爲カ他面ニ於テ背任罪ノ要件ヲ具備スル場合ト雖モ單純ノ詐欺罪ヲ以テ論スヘキモノニシテ別ニ背任罪ニ問擬スヘキモノニアラス(大判、大正一一、三、五二七日)

(五) 甲乙間ニ於ケル不動産買賣契約ノ解除セラレタルカ爲メ甲ニ於テ買入レ代金調達ノ必要消滅シタル以上ハ甲ノ爲メニスル丙ノ金錢借入事情存在セサルニ至リタルヲ以テ爾後丙ニ於テ其ノ借用證書ヲ

ノ記入ヲ爲シテ偽造シ夫々同銀行ニ備付ケタル上前同様ノ手段ニ依リ右金額ノ豫金債權ヲ取得シテ財産上不法ノ利益ヲ得

第二 前示ノ如ク諫早銀行ノ事務ニ從事中犯意繼續ノ下ニ

(一) 大正十年十二月六日諫早銀行ノ爲メ自己ノ業務上保管ニ係ル特別五分利公債額面七百圓ヲ擅ニ自己ノ株式買賣證據金代用トシテ大阪市東區北濱一丁目松井憲三ニ

(二) 大正十二年十月二十二日同上保管ノ勸業債券額面壹千圓ヲ擅ニ自己ノ定期米取引證據金代用トシテ大阪市北區堂島濱通一丁目山中光次郎ニ

(三) 大正十二年九月二十五日ヨリ同十三年七月十四日迄ノ間同上保管ノ株式會社川崎造船所株式五十株、大阪株式取引所株式新株五十株、帝國五分利公債額面一千圓、特別五分利公債額面五百圓、帝國五分利公債額面二千圓、東洋製鐵株式會社ノ株式二百株ヲ擅ニ自己ノ建米委託ノ證據金代用トシテ數回ニ大阪市北區絹笠町片山定藏ニ

(四) 大正十二年十一月二十日同上保管ノ大阪株式取引所株式六十株ヲ擅ニ金三千五百圓ノ自己ノ債務ノ擔保トシテ長崎市袋町田中麻吉ニ

利用シテ全員ヲ借入レ、  
リトスルモ之カ爲メニ任  
務ニ背キタルモノト云フ  
ヲ得ス(大判、大正一三、  
五二九日)

文書偽造行使詐欺業務上横領

一一二

- (五) 大正十三年九月十六日同上保管ノ東洋製鐵株式會社ノ株式三百株ヲ擅ニ金二千八百圓ノ自己ノ債務ノ擔保トシテ右田中麻吉ニ執レモ其ノ都度各債權者住居ニ於テ交付シ以テ之ヲ横領シ
- 第三 前示ノ如キ諫早銀行ノ事務ニ從事中自己ノ利益ヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ犯意ヲ繼續シテ
- (一) 大正十年六月十八日ヨリ同月三十日迄ノ間豫テ被告人ニ於テ諫早銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ且被告人ニ於テ同銀行ノ爲保管シ居リタル自己名義ノ大阪株式取引所株式四十株ヲ自己ノ株式賣買證據金代用トシテ三回ニ前示松井憲三ニ
- (二) 大正十一年四月十四日自己名義ニシテ前同様諫早銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ同銀行ノ爲保管シ居リタル大阪株式取引所株式二十株ヲ自己ノ金千六百圓ノ債務ノ擔保トシテ株式會社日本商業銀行長崎支店ニ
- (三) 大正十二年九月二十九日ヨリ同年十二月二十四日迄ノ間ニ自己名義ニシテ前同様諫早銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ同銀行ノ爲保管シ居リタル川崎造船所ノ株式二十株株式會社日本信託銀行ノ株式百株ヲ自己ノ定期米取引證

據金代用トシテ三回ニ亘リ前示山中光次郎ニ

- (四) 同年九月二十五日ヨリ同十三年七月十四日迄ノ間ニ自己名義ニシテ前同様諫早銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ同銀行ノ爲保管シ居リタル川崎造船所ノ株式三十株、大阪株式取引所、株式新株百二十株ヲ自己ノ建米委託ノ證據金代用トシテ數回ニ前示片山定藏ニ執レモ其ノ都度債權者ノ住所ニ於テ差入レ諫早銀行ヲシテ右各擔保ヲ喪失セシメ財産上ノ損害ヲ加ヘタルモノナリ

證據省略

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示第一ノ文書偽造ノ點ハ刑法第五百十九條第一項第五十五條ニ同行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第五十五條ニ同上詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第二項第五十五條ニ判示第二ノ横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ判示第三ノ背任ノ點ハ同法第二百四十七條第五十五條ニ各該當スルトコロ判示第一ノ文書偽造其行使及詐欺ノ間ニハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ詐欺罪ニ對スル刑ニ從ヒ判示第三ノ背任罪ニ付キテハ有期懲役刑ヲ選擇シ以上第一乃至第三ノ犯罪ハ同法第四十七條第十條ニ從ヒ犯情最モ重キ判示第一ノ罪ニ對スル刑ニ法定ノ加重ヲ施

文書偽造行使詐欺業務上横領

一一三

シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ押收物件中主文掲記ノ各文書(若クハ文書ノ部分)ハ被告人ノ本件文書偽造罪ニ因リ生シタル偽造文書ニシテ何人ノ所有ニヲ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ則リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

尙ホ本件公訴事實中何々ノ點(省略)ハ孰レモ證據不十分ニシテ其ノ證明ナキニ歸スレトモ右ハ孰レモ前示認定ノ判示第一ノ犯罪ト連續犯ノ關係ニ於テ起訴セラレタルモノニシテ結局一罪ノ一部ニ過キササル關係ニアルヲ以テ此等ノ點ニ付特ニ無罪ノ宣言ヲ爲サス

仍テ主文ノ如ク判決ス(控、院、同罪)

大正十四年六月十九日

何地方裁判所刑事部

私文書偽造行使有價證券偽造行使  
公正證書原本不實記載及横領

判決

大工職 佐野 太郎

當五十二年

右ノ者ニ對スル私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及横領被告事件ニ付キ大正十三年十一月十一日東京區裁判所カ言渡シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立テアリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役八月ニ處ス

但未決拘留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入ス

理 由

被告人ハ東京府豊多摩郡代々幡町大字幡ヶ谷字北原八百七十五番地一戸いね方ニ出入シ同家萬般ノ用務ヲ辨シタルモノナルトコロ

第一 大正十一年八月中右いねヨリ同郡澁谷町字下澁谷羽根澤ノ空地ニ同人ノ家

私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及横領

刑法第二四六條第二項所定ノ不實記載及横領ハ犯人ノ爲シタル欺罔行爲ノ結果被告者チシテ財産上ノ處分ヲ爲サシムルニ至リタルコトヲ要スト雖被害者カ債權者ナル場合ニ於テハ債務ノ免除延期ノ承諾其ノ他條件ノ輕減ノミニ限定スヘキ理由ナク債權者ヲシテ權利ヲ拋棄スルハ止ムヲ得サルニ至ラシムルモ亦處分行爲アリタルモノト謂ヒ得ヘク加之債權者ノ不作爲ノ態度ノ招來ス 場合ニ於テモ亦其 成立ヲ認ムルヲ得ルモノトス

法條ニ財産上ノ利ト謂フハ消極的ニ財産ノ減少ヲ免 場合ヲモ意味シテ又ハ一時のナルト永久的ナルトナ同ハサルカ故ニ斯ル結果ヲ犯人カ得有スルニ至ルヘキ債權者ノ不作爲ハ均シク財産上ノ處分ナリト理解ス

ルヲ相當トス(朝、高、法、判、大正一四、二、二七日)

(二) 詐欺ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ欺罔手段ヲ施用シタル者ヲ刑法第二四六條第二項ノ意義ニ於テ財產上不法ノ利益ヲ得タル者トシテ同條ノ形ヲ以テ處斷スルニハ相手方ナシテ權利ノ拋棄債務ノ約束其他財產上ノ利益ヲ授與スヘキ特定ノ行為ヲ爲サシメ欺罔者又ハ第三者ニ於テ之ニ因リテ事實上利益ヲ取得シタル事實ノ存在ヲ必要トス(大判、大正一四、二、二〇日)

(三) 偽造トハ權限ヲ有セサル者カ他人ノ名義ノ不真正ナル文書ヲ新ニ作出スルコトヲ云フ他人ノ名義ノ文書ヲ作出スルニ非サレハ偽造ニ非ス換言スレハ作成名義ヲ偽ル場合即チ所謂有形偽造ノ場合ニ非サレハ文書ノ偽造ニ非ス故

ニ名義人自ラ不實ノ記載ヲ爲ス場一即チ所謂無形偽造又ハ内容ノ偽造ノ場合ニハ特別ナル明文ナキ限リ文書偽造罪ヲ構成セズ加之文書偽造ハ只作成名義ノ偽造アルヲ以テ十分ノ要件セズ故ニ作成ルコトヲ要セス故ニ作成名義ヲ偽ハラタル以上ハ假令其内容カ眞實ト符合スル場合ト雖モ尙文書偽造罪ヲ構成ス  
借用證書ノ紛失シタル債權者カ溢リニ同一内容ヲ有スル債務者名義ノ借用證書ヲ作出スル場合ノ如キ其例ナリ(法學博士宮山壽氏日本刑法五八二頁五八三頁)

(四) 文書ノ偽造變造ニ付テハ形式ヲ主トスルカ實質ヲ主トスルカノ問題アリ形式主義ニ依ルトキハ實質ニ付テハ事實ノ相違ナキモ權ニ他人ノ名義ヲ有シ若クハ他人ノ名義ニ屬スヘキ文書ヲ偽造變造スル

私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及橫領

作ヲ建築スヘク依頼ヲ受ケ其ノ材木購入費トシテ同人ヨリ其ノ所有ニ係ル現金三百圓ノ交付ヲ受ケ之ヲ保管中内金約八十圓ヲ當時犯意繼續シテ權ニ數回ニ濫谷町其他ニ於テ自己ノ用途ニ費消横領シ

第二 豫テ右いねヨリ東京府豊多摩郡代々幡町大字幡ヶ谷北原八百七十五番地所在ノ同人所有木造瓦葺平家一棟建坪十二坪二合五勺及其ノ子信直所有木造瓦葺平屋一棟建坪十七坪ノ賣却方ノ依頼ヲ受ケ同人ノ印章ヲ預リ所持セルヲ奇貨トシ同人名義ノ私文書ヲ偽造行使シ他人ヨリ金員ヲ借入レンコトヲ企テ犯意繼續ノ上

(一) 同月二十八日頃豫テ知合ナル加藤萬次郎ヲ介シ神奈川縣足柄下町小田原町幸町一丁目百八十五番地株式會社有信社ニ對シ權ニ右いね所有前記家屋一棟ヲ二番抵當ニ差入レ金六百圓ノ貸與方ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ得ルヤ同年九月一日情ヲ知ラサル右會社々員加藤勝次郎ト共ニ東京區裁判所淀橋出張所ニ到リ行使ノ目的ヲ以テ權ニ同所ニ出張セル情ヲ知ラサル代書人小宮熊太郎ヲシテ右いねノ氏名ヲ記載シ其ノ名下ニ前示同人ノ印章ヲ押捺セシメ以テ同人カ前記建物ヲ二番抵當トシテ右有信社ヨリ金六百圓ヲ借り受クルニ付キ該建物ニ對スル抵當權

設定登記申請ヲ爲ス一切ノ權ヲ被告人ニ委任スル旨ノ右いね名義ノ委任狀一通ヲ作成セシメテ之ヲ偽造シ次テ同代書人ヲシテ行使ノ目的ヲ以テ權ニ登記權利者右有信者登記義務者右いねノ代理人被告名義ノ大正十一年九月一日ノ貸借ニ基キ債權六百圓ヲ擔保スル爲メ右建物ニ對スル第二番抵當權設定登記申請書一通ヲ作成セシメテ右いねノ代理名義ヲ冒用シタル文書一通ヲ偽造シ即時右文書ノトシテ同所登記官吏ニ一括提出シテ之ヲ行使シ因テ情ヲ知ラサル右登記官吏ヲシテ即時登記簿原本ニ事實ニ符合セサル抵當權ヲ設定シタル旨ノ不實ノ記載ヲ爲サシメ直ニ之ヲ同登記所ニ備付ケシメテ之ヲ行使シ

(二) 同年十月上旬前同様右有信社ニ對シ權ニ未成年者ニシテ一家戶主ナル前記信直カ其所有ニ係ル前記家屋ヲ賣渡擔保トシデ金千二百圓ヲ借り受クル旨ノ申込ヲ爲シ之カ承諾ヲ受クルヤ同月十九日東京府豊多摩郡代々幡町役場ニ到リ行使ノ目的ヲ以テ權ニ同所ニ於テ情ヲ知ラサル代書人某ヲシテ右信直ノ親權者トシテ右いねノ氏名ヲ記載其ノ名下ニ右いねノ印章ヲ押捺セシメ前記信直所有ノ家屋ヲ右いねカ其ノ子信直ヲ代理シテ右有信社ニ賣渡シタルニ付キ之ヲ届出ツル

私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及橫領

トキハ犯罪ノ成立ヲ認ム可キモノナリトシ實質主義ハ形式ニ相違アルト否ト問ハス實質ニ虛偽ノ存スルト否ト依テ犯罪ノ有無ヲ決スヘキモノナリトス通説ニ在テハ前説ヲ採用ス(法學博士泉二新熊氏日本刑論一〇八頁)

(五) 不動産騙取目的トスル詐欺罪ハ其不正領得目的トスル者カ人ヲ欺罔シテ所有權移轉ノ意思表示ヲ爲サシムル場合ニハ現實ニ不動産ノ占有ノ移轉又ハ其所有權移轉ノ登記アリタル時ヲ以テ完成スルモノニシテ其不動産登記ハ當事者ノ申請ニ依ルカ又ハ囑託若ハ職權ニ基キテ爲サレ之ニ依リ形式上他ハ排斥自由ニ該不動産ヲ處分シ得ヘキ状態ニ置カルルコトヲ要スルモノトス  
乙者甲者ノ爲メ金回信用抵當權設定登記ヲ爲スモ

旨ノ右いね名義豊多摩郡長服部良太郎宛ノ建物賣買届書一通ヲ作成セシメテ之ヲ偽造シ翌二十日真正ニ成立シタルモノトシテ右役場ニ提出シテ之ヲ行使シ  
第三 次テ右有信社ヨリノ借財ニ對スル利子ノ支拂ニ窮シタル結果犯意ヲ繼續シ  
テ  
(一) 同年十一月三十日東京市赤坂區青山南町六丁目百一番地ナル右有信者事務所ニ於テ檀ニ行使ノ目的ヲ以テ右有信社員可兒貞雄ヲシテ右いねノ氏名ヲ記載シ其ノ名下ニ前記いねノ印章ヲ押捺セシメ以テ右いね振出名義受取人右有信社金額六百圓ノ同日附約束手形一通ヲ作成セシメテ之ヲ偽造シ  
(二) 同年十二月三十日右有信社事務所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ何レモ振出人被告入受取人有信社ナル金額七百圓及同六十三圓ナル同日附ノ約束手形二通ノ各裏書欄ニ右貞雄ヲシテ順次ニ右いねノ氏名ヲ記載シ其ノ名下ニ前記いねノ印章ヲ押捺セシメ且ツ要所ニ適當ノ記入ヲ爲サシメ右いねカ裏書ヲ爲シタル旨右手形ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ次テ行使ノ目的ヲ以テ檀ニ約束手形同紙ニ右いねノ氏名ヲ記載シ其ノ名下ニ右いねノ印章ヲ押捺セシメ右いね振出名義ノ受取人有信社ナル同日附金額六百八十七圓ノ約束手形一通ヲ作成セシメテ之ヲ偽造シタルモ

ノナリ

右事實ハ各犯意繼續ノ點ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述ニ依リ各犯意繼續ニ出テタルコトハ短期間内ニ同一罪質ノ犯行ヲ反覆累行シタル狀況ニ徴シ各之ヲ認定ス  
法律ニ照スニ判示第一ノ橫領ノ點ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ該當シ同第二ノ二個ノ私文書偽造ノ點ハ夫々同法第五十九條第一項ニ公正證書原本ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシメタル點ハ同法第五十七條第一項ニ各該當スルトコロ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ私文書偽造ノ罪ニ從ヒ偽造私文書ヲ行使シタル點ハ夫々同法第六十一條第一項第五十九條第一項ニ各該當スルトコロ右ハ一括行使シタルヲ以テ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ偽造抵當權設定登記申請書ヲ行使シタル罪ノ刑ニ從フヘク不實ノ記載ヲ爲サシメタル公正證書ノ原本ヲ行使シタル點ハ同法第五十八條第一項第五十七條第一項ニ該當スルトコロ以上ノ二個ノ行使ハ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ連續一罪トシ之ト右私文書偽造ノ點ハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ私文書偽造ノ一

ノノ如ク變ヒテ之ヲ欺罔シ私ニ其印類ヲ不正ニ使用シテ甲者ヨリ乙者ニ對シ土地ヲ賣渡シタル旨ノ證書ヲ偽造シ附屬書類ト併セテ之ヲ登記所ニ提出行使シ登記官吏ヲシテ土地登記簿ノ原本ニ其不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ廳舎ニ備付ケシメタルトキハ私文書偽造行使及公正證書原本ノ不實記載及其ノ行使ノ罪ヲ構成スルニ止リ土地ニ對スル詐欺罪ヲ構成スモノニ非サルモノトス(大判、大正一一、一一、二二日)

(六)

無効ノ登記原因ニ基ク登記ト雖ソレカ登記トシテ成立シ居ル限リソレト抵觸スル登記申請ハ登記官吏ニ於テ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノニシテ真正ノ權利者ハ回復申請ノ手續ニ依ツテ其ノ權利ノ保全ヲ爲ササルヘカラステフ意味ニ於テ其ノ登記ハ形式上他人ヲ排斥シ自由

ニ該不動産ヲ處分シ得ヘキ状態ニ置カルモノトス  
登記簿上形式のニ權利ノ移轉アリタル場合ニ於テハ斯ノ如キ形式カ他人ヲ排斥シ自由ニ該不動産ヲ處分シ得ヘキ状態ヲ生スルニ至ルモノニシテ少クトモ眞ノ權利者ハ其ノ權利者タルノ地位ヨリ排斥セラレ自由ニ該不動産ヲ處分シ得ヘキ状態ヲ妨害セラレ不動産上ノ權利ハ確實ニ奪取サレ居ルモノニシテ唯夫レカ被害者ノ任意交付ニ因ラサルニ過キササルヲ以テ此ノ場合ニハ不動産ノ窃盜ノ認ムヘキモノトス(牧野博士法學志林二七卷一〇號)

私文書偽造行使有價證券偽造行使公正證書原本不實記載及橫領

罪トスヘク判示第三ノ二個ノ有價證券偽造ノ點ハ夫々同法第六十二條第一項ニ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル點ハ同法第六十二條第二項ニ各該當スルトコロ右ハ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ重キ有價證券偽造ノ一罪トシ以上三個ノ行爲ハ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ有價證券偽造ノ罪ニ付キ定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク同法第二十一條ニ則リ未決拘留日數中二十日ヲ本刑ニ算入スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

東京地方裁判所第三刑事部

橫領私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使詐欺

判決

無職 甲 野 一郎  
當 二 十 八 年

右ノ者ニ對スル橫領私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス  
押收ニ係ル木製印類一個並ニ印鑑證明願書一通ハ之ヲ沒收ス

理 由

被告人ハ

第一、新明石炭株式會社新宿支店ニ販賣係トシテ被雇中支店長鈴木龍太郎ノ命ニ依リ大正十三年十月中旬頃ヨリ大正十四年四月下旬迄ノ間其ノ得意先ナル四十三軒ヨリ業務上取立テ保管セル右會社ノ賣掛代金合計二千五百八十圓四錢ヲ右會社ニ交付セス大正十三年十月中旬ヨリ大正十四年五月上旬迄ノ間前後數十回ニ亘リ犯意ヲ繼續シテ東京市四谷區永住町待合業彌生方外數ヶ所ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ橫領シ

橫領私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使詐欺

印鑑證明書ノ内容ハ別ニ財産的意義ヲ有スル意思表示ニ非ストスルモ夫レカ既ニ證明書トシテ成立セル以上其ノ意味ニ於テ其ノ所持者ハ其ノ證明書ニ對シテ財産權ヲ有スルモノトス  
被告人ノ受ケタル印鑑證明書カ被告人ノ手ニ於テ財物トシテ成立スルモノナル以上證書ノ内容カ其ノモノトシテ財産上ノ意味ヲ有スルコトヲ要スル

コトナク被害者ヨリ財産上ノ利益ヲ得タルモノトシテ理解シ得ヘキモノトス(法學博士牧野氏法學志林二七卷九號)

(一) 印鑑證明書ハ提出セラレタル印鑑紙ニ捺捺ノ印影ガ其ノ實印ニ相違ナキコトヲ證明スルモノナリトス印鑑紙ニ捺捺シタル印影カ未タ提出セラレサル場合ニ於テハ證明ノ對象タル印影存在セサルヲ以テ假令後ニ至リ之ヲ提出スヘシト信シ其ノ提出前ニ町村長カ印鑑證明願書ニ證明ノ奥書ヲ爲スモ證明書トシテノ必要條件タル印鑑ヲ具備セサルカ故ニ之ヲ以テ印鑑證明書トシテ成立シタルモノト稱スルコトヲ得サルモノトス

後ニ印影ハ補充セラルルモノト信シ奥書ヲ爲シ交付セラレタル印鑑證明願書ニ添付ノ印鑑紙ニ行使ノ目的ヲ以テ捺捺ニ提出者

二 更ニ同日ヨリ同年七月二十三日迄ノ間前後四回ニ亘リ前記代書店ニ於テ情ヲ知ラサル某代書人ヲシテ擅ニ右英二郎署名ヲ使用シ同人名義ノ印鑑證明願五通ヲ作成セシメ其ノ都度之ニ右偽造印ヲ捺捺シ以テ該印鑑證明願ノ偽造ヲ完成シ其ノ都度之ヲ前記區役所ニ提出行使シテ印鑑證明書五通ノ下附ヲ受ケ(其ノ一通ハ押收ニ係ル)

三 同年六月十二日東京市麴町區富士見町東京區裁判所富士見町出張所前代書人詫摩新八方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ擅ニ右英二郎ノ署名ヲ使用シ同人名義同人所有本郷區駒込動坂町一番地所在木造瓦葺二階建一棟外家屋二棟及ヒ

ノ印鑑トシテ有合印ヲ捺捺スルトキハ其ノ行爲ハ印鑑ノ偽造タルト同時ニ印鑑證明ノ對象ヲ具備セシメ爰ニ始メテ不正ニ印鑑證明書ヲ成立セシメ因テ以テ該證明書ノ偽造ヲ完成シタルモノナレハ印鑑證明書ノ偽造トシテ論スヘク其ノ變造トシテ論スヘキモノニアラス(大判、大正一三、三、一〇日)

(四) 刑法第一五七條第一項ノ罪ハ原來身分ニ因リ構成スル罪ニアラスシテ其公證人ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル場合トシテ管掌スル吏員等ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル場合トシテ依リ其罪質ニ異同ヲ生スルコトナキモノトス公證人ニ對シ囑託人又ハ其代理人ニシテ陳述ノ局ニ當ル者ト他ノ者ト共謀シ前者

同區駒込林町二百十九番地木造瓦葺平家一棟外家屋三棟ノ保存登記申請書二通ヲ作成セシメ之ニ右偽造印ヲ捺捺シテ偽造ヲ完了シ同日之ヲ右富士見町出張所ニ持參シ係員ニ提出行使シテ保存登記ヲ爲シ次テ同日右代書人方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ擅ニ右英二郎ノ署名ヲ使用シテ同人名義三澤光雄ヨリ借入レタル金三千圓ノ債務ニ對シ右家屋ニ抵當權ヲ設定スヘキ旨ノ抵當權設定登記申請書二通及ヒ右債務ヲ完済セサルトキハ三澤光雄ノ爲メニ賃借權發生スヘキ旨ノ賃借權設定請求權保全ノ假登記申請書二通ヲ作成セシメ是等ニ右偽造印ヲ捺捺シ以テ各書類ノ偽造ヲ完成シ之ヲ右富士見町出張所係員ニ提出行使シテ登記簿ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上該登記簿ヲ同出張所ニ備付ケシメテ行使シ更ニ同日芝區芝公園内三澤光雄ニ於テ同人ニ對シ自己カ長島英二郎ニシテ其ノ所有ニ係ル右家屋ヲ抵當ニ入レタル旨申欺キ因テ同人ヨリ金三千圓ヲ借入ルルコトニシテ利子等ヲ差引キ金二千四百九十圓ヲ騙取シ同時ニ同人ヨリ公正證書ノ作成方要求ヲ受クルヤ即座擅ニ右英二郎ノ署名ヲ使用シ右偽造印ヲ捺捺シテ英二郎名義ノ白紙委任狀一通ヲ偽造シ之ヲ同人ニ交付シテ公正證書ノ作成方ヲ依頼シ情ヲ知ラサル同人等ヲシテ同年七月十六日淺草區馬道町二



ニ於テ虚偽ノ申立ヲ爲ス  
コトヲ當シテ刑法第一  
五七條 罪ヲ犯ス場合ニ  
ハ共謀者全員ニ於テ共同  
實正犯ノ罪ニ任スヘキ  
モノトス(大判、大正一  
二、一一、一五日)

(四) 他人名義ノ印鑑證明願書  
ヲ偽造シ之ヲ村役場ニ提  
出行使シ吏員ヲ欺キテ村  
長名義印鑑證明書ノ交付  
ヲ受クルモ財産權ヲ侵害  
スヘキ行爲ニ非ラサルヲ  
以テ詐欺罪ヲ構成セス  
(大判、大正一二、七、一四  
日)

(五) 株式会社ノ設立ニ關シ裁  
判所ニ對シテ資本ノ拂込  
額等ニ付虚偽ノ申立ヲ爲  
シ商業登記簿ニ不實ノ記  
載ヲ爲サシメテ行使シタ  
ル行爲ハ刑法第一五七條  
第一項第一五八條第一項  
ニ依リ處罰スヘキモノニ  
シテ商法第二六一條第一  
項第一號ニ依リ處罰ス  
キモノニ非ス(大判、大正

(六) 公正證書ノ原本ト雖其ノ  
證書ノ趣旨ニ付法律上利  
害關係ヲ有スル者ハ之ヲ  
閲覧シ得ヘキコト公證人  
法第四條ノ規定スル所  
ニシテ公正證書ノ原本ハ  
專ニ公證人ノ保管ニ屬シ  
絕對ニ他人ニ閲覧ヲ許サ  
ルモノト云フヲ得ス  
其ノ不實記載ニ係ル公正  
證書ノ原本ノ行使トハ其  
ノ備付ニ依リ右特殊利害  
關係人ノ閲覧シ得ヘキ狀  
態ニ置クヲ以テ足レリト  
シ一般ノ閲覧得ヘキ關  
係ニ置クコトヲ要セス  
(大判、大正一四、一一、二  
三日)

丁目十九番地公證人貞頼方ニ於テ同公證人ニ對シ右偽造ニ係ル委任狀ヲ提出行  
使セシメ英二郎カ三澤光雄ヨリ金三千圓ヲ借り受ケタル旨虚偽ノ申立ヲ爲シ右  
公證人ヲシテ其ノ旨公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル上同所ニ備付  
ケシメテ行使シ

(四) 同月二十三日京橋區弓町四番地岡本正一方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ吉原源七  
ニ金借ヲ申込ミ右正一ヨリ公正證書ノ作成ヲ要求セラルルヤ即座擅ニ右英二郎  
ノ署名ヲ使用シ右偽造印ヲ押捺シテ同人名義ノ白紙委任狀一通ヲ偽造シ之ヲ右  
正一ニ交付シテ公正證書ノ作成方ヲ依頼シ情ヲ知ラサル同人ヲシテ同日神田區  
旅籠町二丁目十番地公證人野田捨藏方ニ於テ右公證人ニ對シ右偽造ニ係ル委任  
狀ヲ提出行使セシメ英二郎カ源七ヨリ金二千五百圓ヲ借入レタル旨虚偽ノ申立  
ヲ爲サシメ同公證人ヲシテ公正證書ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル  
上同所ニ備付ケシメテ行使シ次テ同日前記詫摩代書人方ニ於テ情ヲ知ラサル同  
人ヲシテ擅ニ右英二郎ノ署名ヲ使用シ同人名義其ノ所有ニ係ル本郷區駒込林町  
二十六番地木造瓦葺平家一棟外家屋二棟ノ保存登記申請書一通及該家屋ニ源七  
ニ對スル金二千五百圓ノ債務ノ爲メ抵當權設定スヘキ旨ノ抵當權設定登記申請

書一通其ノ債務ヲ完済セサル時ハ源七ノ爲メ賃借權發生スヘキ旨ノ賃借權設定  
請求權保全ノ假登記申請書一通ヲ作成セシメ此等ニ右偽造印ヲ押捺シ各書類ノ  
偽造ヲ完了シ之ヲ前記出張所係員ニ提出行使シ駒込林町二十六番地ノ家屋ノ保  
存登記ヲ爲シ且ツ同係員ヲシテ登記簿ノ原本ニ抵當權設定登記及ヒ賃借權設定  
請求權保全ノ假登記ノ不實ノ記載ヲ爲サシメ該登記簿ヲ同所ニ備付ケシメテ行  
使シ更ニ同日前記岡本正一方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ右源七ヨリ金二千五百圓ヲ  
借入レルコトニシ利子等ヲ差引キ金二千五百圓ヲ騙取シ  
五 同年七月二十日前記岡本正一方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ吉原源七ニ金借方ヲ  
申込ミ右正一ヨリ公正證書ノ作成方ヲ要求セラルルヤ即座擅ニ右英二郎ノ署名  
ヲ使用シ右偽造印ヲ押捺シテ同人名義ノ白紙委任狀一通ヲ偽造シ之ヲ正一ニ交  
付シテ公正證書ノ作成方ヲ依頼シ情ヲ知ラサル同人ヲシテ同日前記公證人野田  
捨藏方ニ於テ同公證人ニ對シ右偽造委任狀ヲ提出行使セシメ英二郎カ源七ヨリ  
金一千圓ヲ借入レタル旨虚偽ノ申立ヲ爲サシメ同公證人ヲシテ公正證書ノ原本  
ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ次ニ東京  
區裁判所二長町出張所前某代書人方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ擅ニ右英二

郎ノ名ヲ使用シ同人名義其ノ所有ニ係ル神田區千代田町二十六番地所在木造トタン葺家屋一棟ノ保存登記申請書一通及ヒ吉原源七ノ爲メ同人ヨリ借入レタル金一千圓ノ債務ニ對シ右家屋ニ抵當權設定スル旨ノ抵當權設定登記申請書一通ヲ作成セシメ此等ニ右偽造印ヲ押捺シテ各書類ノ偽造ヲ完成シ之ヲ同出張所係員ニ提出行使シ右家屋ノ保存登記ヲ爲シ且ツ同係員ヲシテ登記簿ノ原本ニ右抵當權設定シタル旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上該登記簿ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ前記正一方ニ於テ右源七ヨリ金一千圓借入ルルコトトナシ利子等ヲ差引キ金七百圓ヲ騙取シ

六 同月二十三日前記公證人野田捨藏方ニ於テ同人ニ對シ自己ハ長島英二郎ニシテ吉原源七ヨリ金三千七百圓ヲ岡本正一ヨリ金三千圓借入レタル旨虚偽ノ申立ヲ爲シ同人ヲシテ公正證書ノ原本ニ各其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ翌二十四日前記詫摩代書人方ニ於テ情ヲ知ラサル同人ヲシテ擅ニ英二郎ノ署名ヲ使用シ同人名義其ノ所有ニ係ル本郷區駒込坂町一番地所在木造瓦葺二階建一棟ノ保存登記申請書一通右家屋ニ源七ヨリ借入レタル金三千七百圓ノ債務ニ付キ抵當權ヲ設定スヘキ旨ノ抵當權設定登記申請

書一通同番地所在木造瓦葺二階建一棟外家屋二棟ニ源七ヨリ借入レタル右金三千七百圓ノ債務ニ付抵當權設定スヘキ旨ノ抵當權設定登記申請書一通右金三千七百圓ノ債務ヲ完済セサル時ハ源七ノ爲メニ同家屋ニ付キ借借權發生スヘキ旨ノ貸借權設定請求權保全ノ假登記申請書各一通前記本郷區駒込林町二百十九番地所在四棟ノ家屋ニ岡本正一ヨリ借入レタル金三千圓ノ債務ニ付キ抵當權ヲ設定スヘキ旨ノ抵當權設定登記申請書一通右債務ヲ完済セサル時ハ岡本正一ノ爲メニ貸借權發生スヘキ旨ノ貸借權設定請求權保全ノ假登記申請書一通ヲ作成セシメ右書類ニ前記偽造印ヲ押捺シ各書類ノ偽造ヲ完了シ之等ヲ前記富士見町出張所係員ニ提出行使シテ本郷區駒込動坂町一番地所在木造瓦葺二階建一棟ノ保存登記ヲ爲シ且ツ同所係員ヲシテ登記簿ノ原本ニ前記各抵當權設定及ヒ各貸借權設定請求權保全等ノ不實ノ記載ヲ爲サシメタル上該登記簿ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シ即日前記正一方ニ赴キ同人ヨリ金三千圓借入ルルコトトナシ利子等ヲ差引キ金一千五百四十五圓五十錢ヲ騙取シ更ニ其ノ場ニ於テ吉原源七ヨリ金三千七百圓ヲ借入ルルコトトナシ利子等ヲ差引キ金三千圓ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ判示第二ノ所爲中一乃至六ノ文書偽造ノ點ハ同法第五百九條第一項第五十五條ニ其ノ提出行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第五十五條ニ三乃至六ノ登記簿其ノ他ノ公正證書原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ同法第五百十七條第一項第五十五條ニ其ノ備付ケ行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十七條第一項第五十五條ニ金員騙取ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該ノ判示第二ノ所爲ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ詐欺ノ刑ニ從フヘク以上ノ所爲ハ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十五條前段第四十七條第十條ニ則リ重キ第二ノ罪ニ付キ定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ處斷スヘク押收ニ係ル印願ハ本件第二ノ犯罪行爲ニ供シ印鑑證明願書ハ本件第二ノ(二)ノ偽造行爲ヨリ生シタルモノニシテ共ニ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ從ヒ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年十月十五日

何區裁判所

### 窃盜文書偽造行使詐欺公文書變造放火

### 判 決

紡績職工

佐

野

一

郎

當 二 十 六 年

右ノ者ニ對スル窃盜文書偽造行使詐欺公文書變造放火被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決ヲ爲スコト左ノ如シ

### 主 文

被告人ヲ懲役六年ニ處ス

私文書毀棄ノ公訴ハ之ヲ棄却ス

押收品中拂戻受領證一通ハ之ヲ沒收ス

### 理 由

(一) 窃盗犯人カ他人ニ新ナル損害ヲ及ホササル範圍内ニ於テ自ラ其ノ贓物ヲ處分スルカ如キ場合ニ於テハ其ノ行為カ外形上他ノ罪名ニ觸ルルモ別個ノ罪ヲ構成スヘキモノニ非スト雖其ノ贓物ヲ利用シテ他人ヲ欺キ財物ヲ騙取シタルトキハ新ニ他ノ法益ヲ害スルヲ以テ窃盗罪ノ外ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノトス

甲ノ家族カ地震後ノ火災ヲ野外ニ避ケタルニ乘シ被告人カ同家ヨリ甲所有ノ株券ヲ窃取シタル後甲ノ氏名ヲ冒署シ前記株券ハ名義書換委任狀及該株券ノ賣渡代金受領書各一通ヲ偽造シテ之ヲ右株券ト共ニ乙ニ交付シ同人ヲ欺キ株券代金名義ノ下ニ金員ヲ騙取シタルトキハ窃盗罪ノ外ニ文書偽造行使罪ト詐欺罪トヲ構成スルモノトス(大判、大正一三、七、二六日)

第一 被告人ハ大正十四年三月十二日正午頃前記肩書被告人ノ居室ノ二階八疊ノ間ニ於テ豫テ知合ノ同居人原島傳太郎所有ノ竹行李内ヨリ同人ノ郵便貯金通帳いちハ九〇二八番一冊及同人名義ノ印ヲ窃取シ

第二 之ヲ以テ同日午後二時三十分頃東京市淺草區淺草町ノ郵便局ニ至リ行使ノ目的ヲ以テ金拾圓ノ即時拂金受領證一通ニ原島傳太郎ト記入シ其名下ニ右原島ノ印ヲ押捺シテ同證書ヲ偽造シタル上該通帳ト共ニ同局當該係員ニ提出行使シテ金拾圓ヲ受取リ

第三 翌十三日午後十一時三十分頃前記通帳ヲ毀棄シタルノミニテ未タ以テ前犯跡ヲ韜晦スルニ足ラスト信念シ更ニ右原島所有ノ竹行李ヲ燒燬スル目的ヲ以テ被告人居室ハ自然燒燬セラルヘキヲ認識シ前記被告人居室二階押入ノ上段ニ置キアリタル右原島ノ行李ト他ノ同宿人ノ行李トノ間ニ附近ヨリ拾ヒ來リタル襦袢一摺ヲ挿入シ「マツチ」ヲ以テ之ニ點火シ依テ現ニ人ノ住居ニ使用スル間口四間半奥行五間此建坪三十一坪五合ノ一棟二戸建二階家屋其他ノ物品價格金壹千四百六十一圓三十錢ヲ燒燬シタルモノナリ

右犯罪事實ハ

一、孰レモ被告人ノ當公廷ニ於ケル前判示同旨ノ供述

二、證五、六號並ニ郵便貯金局ニ回答書等ノ物件

三、證人原島傳太郎同寺尾久盛ノ豫審調書中ニ判示第一、二、四ノ事實ニ照應スル被害アリタル旨ノ供述記載及荒井敬三、寺尾久盛、吉場與平ノ各火災燒失損害届ヲ綜合考覆スルニ證憑十分ナルモノト認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中窃盗ノ所爲ハ刑法第二百三十五條ニ私文書偽造ノ所爲ハ同法第五百十九條第一項ニ偽造私文書行使ノ所爲ハ同法第六十一條第一項第五百十九條第一項ニ該リ私文書偽造ト其行使トハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ行使罪ノ刑ニ從ヒ放火ノ點ハ同法第百八條ニヨリ有期懲役刑ヲ選擇シ以上ハ併合罪ノ關係ニアルヲ以テ同法第四十五條第四十七條第十條ニ則リ重キ放火罪ノ刑ヲ長期トシ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ併合罪ノ加重ヲ爲シタル上其刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處スヘキモノトス被告人カ大正十四年三月十二日午後二時三十分頃東京市淺草區淺草町所在ノ郵便局ニ於テ右通帳ト印ヲ同局ニ提出シテ金十圓ヲ騙取シタリトノ公訴事實ハ右騙取行爲ハ右通帳窃盗ノ事後行爲ニ屬シ一種ノ處分行爲トモ看ルヘキモノナレハ右所爲ハ詐欺罪ヲ以

テ論スヘキニアラサルモノトス  
仍テ本件ハ無罪ヲ以テ所斷スヘキモノナレトモ右ハ牽連犯ノ一部トシテ公判ニ付セ  
ラレタルモノナレハ此點ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ要セス而シテ文書毀棄ノ公訴ニ  
付テハ被害者ノ告訴ナキニヨリ刑事訴訟法第三百六十四條第六號ニ則リ棄却スヘク  
押收品中受領證一通ハ犯罪組成物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルニヨリ刑法第十九  
條第一項第二項ヲ適用シテ之ヲ沒收スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

大正十四年四月十二日

東京地方裁判所第三刑事部

有價證券偽造行使詐欺虛偽記入

判決

米穀商及運送業

鹿

野

一

郎

當四十年

外一名

右兩名ニ對スル有價證券偽造行使詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂  
ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人一郎同二郎ヲ各懲役一年ニ處ス

被告人二郎ニ對シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收ニ係ル貨物引換證ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用中證人高山市藏ニ給與シタル分ハ被告兩名ノ連帶負擔トシ證人

高西松藏同本岡利次ニ給與シタル分ハ被告一郎ノ負擔トス

理由

被告一郎ハ名義上井上龜次郎經營ニ係ル鐵道省公認井上運送店ノ支配人トシテ事實  
上同運送店ノ經營ヲ爲シ同運送店發行ノ貨物引換證ハ支配人名義ヲ以テ發行シ來リ  
シモノナル處

有價證券偽造行使詐欺虛偽記入

○ 被告人カ甲ニ對シ金額六  
〇圓ノ約束手形ニ付裏書  
人タルコトヲ申入レ同人  
ヲシテ之ヲ承諾シ手形  
金額其他ノ要件ノ記載ナ  
キ手形用紙ニ裏書人トシ  
テ署名捺印セシメタル上  
行使ノ目的ヲ以テ同用  
紙ノ金額欄内ニ千圓ト記

入シ同時ニ其ノ他ノ要件  
ヲモ記入シ自己名義ノ振  
出ニ係ル金千圓ノ約束手  
形ニ甲カ真正ニ裏書ヲ爲  
シタルモノノ加ク裏書  
偽造シ同手形ヲ乙ニ交付  
シテ同人ヲ欺キ之ト引換  
ニ金千圓ヲ受取リタル場  
合ニ於テハ其ノ所爲ハ刑  
法第一六二條第二項ノ犯  
罪ニ成スルモノトス  
裏書記ハカ約束手形ノ完  
成前ニ係ルノ故ヲ以テ刑  
法第一六二條第二項ニ該  
當セサルモノト解スルハ  
當ヲ得サルモノトス(大  
判、大正一二、一、二九  
日)

四卷六號一一二頁

(三)  
荷モ行使ノ目的ヲ以テ有  
價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲  
ス以上ハ刑法一六二條第  
二項ノ有價證券虚偽記入  
ノ罪ヲ構成シ虚偽ノ記入  
カ既ニ作成セル有價證券  
ニ於テ行ハルト現ニ作  
成スル有價證券ニ於テ行  
ハルトハ其ノ罪ノ成立  
ニ消長ナシ倉庫業者カ自  
己ノ名義ヲ以テ預證券ヲ  
作成スル場合ニ現貨物品  
ノ寄託ナキニ拘ラス其ノ  
寄託ヲ更ケタル旨ノ虚偽  
ノ記入ヲ爲ス行爲ハ刑法  
第一六二條第二項ノ罪ヲ  
構成スルモノトス(大判、  
大正一二、一、一五日)

有價證券偽造行使詐欺罪

第一、(イ)被告一郎ハ大正十四年二月頃ヨリ金融ニ窮シ兼テ取引アル被告二郎ニ對  
シ現實受託貨物ナキモ金融ノ爲メニ虚偽ノ貨物引換證ヲ發行スヘキヲ以テ加古  
川町ニ於テ右引換證ヲ擔保トシテ荷爲替手形ヲ取組ミ吳レタキ旨申込ミ被告二  
郎ハ之ニ應シ茲ニ兩名共謀ノ上大正十四年二月十八日及同月二十六日ノ兩度ニ  
被告一郎ハ前記肩書地自宅ニ於テ現實運送貨物ノ受託ナキニ拘ラス荷送人被告  
二郎荷受人武庫郡住吉村高山市藏玄米二百八俵價格三千五百圓及三千六百圓ト  
記載シタル各虚偽ノ貨物引換證二通ヲ作成シ被告一郎ハ各同日頃自宅ニ於テ同  
人振出ノ高山市藏宛受取人藤本德三郎ト記載シタル金三千五百圓ノ爲替手形二  
通ヲ作成シ前記貨物引換證ト共ニ其都度右德三郎ノ加古川町居宅ニ於テ同人ニ  
差入レ行使シ金三千五百圓及三千三百圓ヲ兩度ニ割引名義ノ下ニ之ヲ受取リ  
(ロ) 德三郎ニ於テ前記爲替手形第三十八銀行加古川支店ニ取立裏書ヲ爲シ荷受  
人高山市藏ヨリ右爲替金額ヲ取立テントシタルニ貨物來着ノ理由ニ依リ右爲替  
手形不渡ト爲リシヨリ被告二郎及一郎ノ兩名ニ嚴談シタル爲メ更ニ被告兩名共  
謀ノ上前同様全然受託ノ運送貨物ノ實在セサルニ拘ラス前記同一ノ品名數量價  
格ヲ表示セル支配人被告一郎名義大正十四年三月二十六日附トシタル各虚偽ノ  
記入ヲ爲シタル赤線入貨物引換證二通ヲ作成シ同年四月六日附被告一郎振出ノ  
三千五百八十一圓七十錢及金三千五百七十九圓六十五錢ノ爲替手形ヲ添ヘ行使  
ノ目的ヲ以テ之カ情ヲ知レル德三郎ニ交付シ  
第二 前記德三郎ニ交付シタル爲替手形ハ再ヒ荷物未着ノ理由ヲ以テ不渡ト爲リ  
シヨリ更ニ被告兩名ハ共謀ノ上前同様受託ノ運送貨物ノ實在セサルニ拘ラス大  
正十四年四月十三日被告一郎ハ自宅ニ於テ同日附荷送人被告二郎荷受人木谷精  
米所玄米二百四十俵價格三千六百圓ト記載シタル虚偽ノ貨物引換證ヲ作成シ被  
告二郎ハ同人振出高砂銀行寶殿支店受取人木谷精米所宛ノ金四千圓ノ爲替手形  
ヲ作成シ右貨物引換證ニ添ヘテ同銀行高砂支店ニ差入レ行使シ同行員山脇俊次  
ヲ欺罔シ手形割引名義ノ下ニ金三千二百圓ヲ受取リ  
第三 被告一郎ハ前同様受託ノ運送貨物ノ實在セサルニ拘ラス大正十四年二月二  
十四日頃自宅ニ於テ同日附小麥二百五十俵價格二千八百圓荷送人脇本商店ニ受  
取人高西松藏宛井上運送店支配人被告一郎名義ノ虚偽ノ貨物引換證一通ヲ作成シ  
之カ情ヲ知レル脇本源次ニ交付シテ金融ヲ求メ源次ヲ介シテ同人振出高西松藏  
宛社銀行加古川支店受取ノ二千七百餘圓ノ爲替手形ヲ添ヘテ同銀行ニ提出行使

取調フヘキコトヲ規定シタル場合ニ其ノ取調ヲ爲サザリシトキヲ指稱スルモノトス

取締役ガ辭任後行使ノ目的ヲ以テ擅ニ取締役ノ署名ヲ冒用シテ其ノ會社振出名義ノ約束手形ヲ作成シタルトキハ未ダ辭任ノ登記無カリシトスルモ有價證券偽造罪ヲ構成ス(大判、大正一五、二、二四日)

シ同行員ヲ欺罔シテ金二千三百圓ヲ手形割引名義ノ下ニ受取りタルモノナリ右被告兩名ノ所爲ハ何レモ意思繼續ニ係ルモノトス

證據省略

法律ニ照スニ各被告ノ所爲中貨物引換證ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル點ハ刑法第六十二條第二項第五十五條ニ其行使ノ點ハ同法第六十三條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スル處有價證券ノ虛偽記入ト其行使及詐欺トノ間互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項末段第十條ニ則リ一ノ重キ虛偽記入ノ有價證券行使ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其刑期範圍内ニ於テ各被告ヲ懲役一年宛ニ處シ刑法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中各二十日ヲ各本刑ニ算入シ被告二郎ニ對シテハ同法第二十五條ニ依リ三年間其刑ノ執行ヲ猶豫シ主文掲記ノ押收物件ハ本件犯罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルモノナルヲ以テ同法第十九條ニヨリ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二三十八條ニヨリ主文掲記ノ如ク被告兩名ヲシテ負擔セシムヘキモノトス辯護人ハ判示第一ノ事實ニ付徳三郎ハ罪トナラス本件引換證モ右商慣習ニ基キ發行セラレタルモノ云々(中略)ト論スレトモ強行方規ニ反スル斯ル商慣習ナルモノノ

存在ヲ認ムル能ハス

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決シタリ(大坂、控、同罪)

大正十四年十一月十二日

何地方裁判所何支部

有價證券偽造行使詐欺未遂

判決

無職 甲 野 一 郎

當 三 十 二 年

右ノ者ニ對スル有價證券偽造行使詐欺未遂被告事件ニ付東京區裁判所カ大正十四年七月十日言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立ヲ爲シタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

有價證券偽造行使詐欺未遂

被告人ヲ懲役一年八月ニ處ス  
押收ニ係ル小切手一通ハ之ヲ沒收ス

理 由

被告人ハ大正十四年四月中旬東京府南足立郡千住町大字千住二丁目百九番地ナル當時被告人居住ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ金額四百五十圓支拂人株式會社辛酉銀行駒込支店振出日大正十四年四月二十五日ト書シ振出名義ニ東京市下谷區金杉下町百八十四番地富田庄三郎ノ氏名ヲ冒著シ其名下ニ有合印ヲ押捺シ以テ小切手一通ノ偽造ヲ遂ケ即日東京府南葛飾郡寺島町大字寺島千六百三十六番地淺田淺吉方ニ於テ同人ニ對シ右偽造小切手ヲ提出シテ以テ之ヲ行使シ仍テ同人ヲシテ該小切手ヲ以テ真正ナルモノト如ク誤信セシメ割引名義ノ下ニ同人ヨリ金員ヲ騙取セントシタルモ同人ニ拒絕セラレタルヲ以テ金員騙取ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ  
證據ヲ按スルニ右ノ事實ハ被告人ニ對スル原審第二回公判調書中ニ判示ト同趣旨ナル供述記載アルニヨリテ之ヲ認ムルニ十分ナリ被告人ハ第一、大正八年七月八日東京區裁判所ニ於テ窃盜罪ニ依リ懲役一年ニ第二、大正十一年四月二十四日東京地方

(一) 文書一般ニ付テハ不實ノ記載ハソレ自體ニ於テ當然罪トナルヘキモノニ非スシテ一先ツ有形偽造無形偽造ノ區別ニ從ヒ罪トナルヘキモノト然ラサルモノトノ間ニ洵汰ヲ爲スヲ適當トスヘク而モ此區別ハ餘リニ執着セラルヘキ性質ノモノニ非サルカ故ニ刑法第一五六條第一五七條第一六〇條ノ規定ノ如キモ之ヲ例外的ノモノト見スシテ社會上重要視セララルヘキ不實ノ記載ノ一種トシテ文書偽造ノ概念ノ當然ノ適用ヲ受テタルモノト解スルヲ妥當トス  
有價證券ノ偽造ニ關シテハ犯罪ノ容體カ有價證券ナルカ故ニ有形偽造無形偽造ノ區別 茲ニ於テハ全度外視セラルヘキ性質ノモノナリト考フルヲ相當トスルヲ以テ有價證券ノ全部カ無形的ニ偽造ナレタル場合ニハ單ニ之ヲ虛偽記入トセス之ヲ偽造ノ概念ニ屬スルモノトシ刑法第一六二條第一項ヲ適用スルヲ相當トスヘク即チ虛偽ノ用語カ有形偽造ト無形偽造トヲ包含スルカ如ク偽造ノ語モ亦其ノ兩者ノ包含スルモノト考フルヲ相當トス(法學博士牧野氏法學志林二七卷八號)  
(二) 苟モ行使ノ目的ヲ以テ他人名義ヲ冒シテ偽造手形ヲ振出シタルトキハ有價證券偽造罪ヲ構成スルモノトス、該手形ニ付キ引受ノ爲ニスル呈示ヲ爲シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ關係ナシトス(大判、大正一三、七、二二日)

裁判所ニ於テ營利誘拐詐欺罪ニ依リ懲役三年(恩赦ニヨリ懲役二年四月二十二日ニ減輕セラル)ニ各處セラレ何レモ本件犯行前其刑ノ執行ノ終リタルモノナリ  
法律ニ照スニ判示被告人ノ所爲中有價證券偽造ノ點ハ刑法第六十二條第一項ニ偽造有價證券行使ノ點ハ同法第六十三條第一項ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ夫々該當スルトコロ右ハ相互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ偽造有價證券行使罪ノ刑ニ從フヘク而シテ被告人トハ前示前科アルヲ以テ同法第五十九條第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シ其範圍内ニ於テ被告人ノ懲役一年八月ニ處スヘク尙押收ニ係ル小切手一通ハ本件偽造有價證券行使罪ノ組成物件ニシテ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス  
被告人ハ大正十五年一月二十日日本件公判期日ニ出頭セサリシヲ以テ更ニ期日ヲ大正十五年一月二十九日ニ定メタルトコロ被告人ハ正當ノ事由ナクシテ右期日ニ出頭セス仍テ當裁判所ハ刑事訴訟法第四百四條ニ則リ被告人ノ陳述ヲ聽カス同法第四百一條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決シタリ  
然ラハ右ト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ニシテ被告人ノ本件控訴ハ其理由ナシ



大正十五年一月二十九日

東京地方裁判所第三刑事部

印章偽造行使公文書偽造行使詐欺

判決

無職 長 沼 誠 太 郎

當 二 十 六 年

右ノ者ニ對スル印章偽造行使公文書偽造行使詐欺被告事件ニ付キ當方裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役壹年六月ニ處ス

押收物件中郵便貯金通帳三通ノ各偽造部分(大正十四年押第八〇〇號ノ

(一)「現在高證明」印貳個(同號ノ三)「貯金局長」印壹個(同號ノ四)「即時

拂」印壹個(同號ノ五)「年度元加利子」印壹個(同號ノ六)「神田錦町郵便局長」印二個(同號ノ七)「岩崎」印壹個(同號ノ八)「せむ」印壹個(同號ノ九)「引合」印壹個(同號ノ十)「現」印壹個(同號ノ十一)「庶務課受付」スタンプ輪廓壹個(同號ノ一二)金額印五個(同號ノ一四乃至一八)東京貯金スタンプ壹個(同號ノ一九)神田錦町郵便局スタンプ壹個(同號ノ二〇)スタンプ用活字箱入壹個(同號ノ二一)スタンプ用赤インキ壺 個(同號ノ二三)スタンプ用青黒混合インキ壺壹個(同號ノ二四)紙包朱肉壹個(同號ノ二五)ブラシ壹個(同號ノ二六)インキ 毛壹個(同號ノ二七)及印鑑補整用機壹個(同號ノ二八)ハ全部之ヲ沒收ス

理 由

被告人ハ早稻田高等學院ニ在學中學資ニ窮シタル爲メ郵便貯金通帳ヲ偽造行使シ以テ金圓ヲ騙取セムコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ

第一 大正十三年七月十三日頃東京府北豊島郡瀧野川町大字上中里三百四十八番地自宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ豫テ實兄星野余司ヨリ預リ居リタル同人名義レ

印章偽造行使公文書偽造行使詐欺

(一) 印章偽造行使公文書偽造行使詐欺ノ類ノ偽造トハ押捺ニ依リ或物上ニ他人又ハ公務所ノ印ニ擬シタル影畫ヲ表顯セシメ得ベキ原體ヲ不法ニ製作スルヲ謂ヒ專ニ其原體製作ノ用ニ供スル材料ヲ製作スルカ知キハ

未タ以テ印類ヲ偽造シタルモノト謂フヲ得ス(大判、大正一三、五、二二日)

(二)

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章ヲ不正ニ使用シ權利義務ニ關スル他人名義ノ文書ヲ偽造スル行爲ハ刑法第一五九條第一項ニ該當スル外同法第一六七條ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス(大判、大正一三、四、二三日)

(三)

郵便貯金通帳ニ於ケル貯金受入ノ記載ト貯金拂出ノ記録トハ前者ハ權利ノ存在ヲ證明シ後者ハ權利ノ消滅ヲ證明スル公文書ニシテ其ノ目的効用全ク相異ナル獨立ノモノナルヲ以テ一個ノ郵便貯金通帳ニ於ケル貯金受入レ金額ノ記載ト貯金拂出レ記載トヲ各變造シ之ヲ行使シタル場合ニ於テモ二個ノ公文書ヲ變造行使シタルモノトス(大判、大正一四、二、二五日)

壹〇九四參郵便貯金通帳ノ受入高欄ニ「五拾圓也」「貳百拾圓也」「五百圓也」ト各表示シ日附印欄ノ各該當部分ニ「大正十二年三月十一日」「大正十二年四月三日」「大正十二年六月四日」ナル各神田錦町郵便局ノ偽造日附印ヲ又主務者證印欄ノ各該當部分ニ偽造ニ係ル神田錦町郵便局長ナル印章ヲ順次押捺シ各年月日欄ノ各該當部分ニ前示日附印ニ照應スル日附ヲ記入シ最後ニ現在高證明金六百七十二圓三十八錢四厘ト表示シ日附印欄ノ該當部分ニ東京貯金局ノ偽造日附印ヲ又主務者證印欄ノ該當部分ニ偽造ニ係ル「貯金局長」ナル印章ヲ押捺シ年月日欄ノ該當部分ニ十二年七月二十九日ト記入シ以テ神田錦町郵便局カ大正十二年三月十一日金五十圓ヲ同年四月三日金二百十圓ヲ同年六月四日金五百圓ヲ各受入シタル旨ノ同郵便局長ノ作成スヘキ文書及東京貯金局カ大正十二年七月二十九日金六百七十二圓三十八錢四厘ノ現在高證明ヲ爲シタル旨ノ同貯金局長ノ作成スヘキ文書ヲ偽造シタル上大正十三年七月十五日東京市本郷上富士前郵便局ニ於テ右偽造通帳ヲ同局ニ提出行使シ恰モ右通帳ノ記載カ真正ナルモノノ如ク裝ヒテ係局員ヲ欺罔シ以テ貯金拂戻名義ノ下ニ金二百圓ヲ騙取シタル外執レモ右偽造通帳ヲ行使シ前同様同年四月二十二日同局ヨリ金四百圓ヲ同年八月二

十六日茨城縣磯濱郵便局ヨリ金七十圓ヲ執レモ騙取シ

第二 大正十三年八月中前記自宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ豫テ實兄星野清吉ヨリ預リ居タル同名義イハシ〇九四六郵便貯金通帳ノ受入高欄ニ「五十圓也」「五十圓也」「二百三十圓也」「四十七圓也」「五百圓也」ト各表示シ日附印欄ノ該當部分ニ「大正十二年二月六日」「大正十二年二月十一日」「大正十二年五月一日」「大正十二年六月一日」ナル各神田錦町郵便局ノ偽造日附印ヲ又主務者證印欄ノ各該當部分ニ偽造ニ係ル「神田錦町郵便局長」ナル印章ヲ順次押捺シ各年月日欄ノ各該當部分ニ前示日附印ニ照應スル日附ヲ記入シ最後ニ現在高證明金七百三十九圓六錢二厘ト表示シ日附印欄ノ該當部分ニ「大正十二年七月二十九日」ナル東京貯金局ノ偽造日附印ヲ又主務者證印欄ノ該當部分ニ偽造ニ係ル「貯金局長」ナル印章ヲ押捺シ以テ神田錦町郵便局カ大正十二年二月六日金五十圓ヲ同年同月十一日金五十圓ヲ同年四月十一日金二百三十圓ヲ同年五月一日金四十七圓ヲ同年六月一日金五百圓ヲ各受入シタル旨ノ同郵便局長ノ作成スヘキ文書及東京貯金局カ大正十一年七月二十九日金七百三十九圓六錢二厘ノ現在高證明ヲ爲シタル旨ノ同貯金局長ノ作成スヘキ文書ヲ偽造シタル上大正十三年九月二十日及

同年十月四日就レモ東京市本郷上富士前郵便局ニ於テ右偽造通帳ヲ同局ニ提出行使シ恰モ右通帳ノ記載カ真正ナルモノノ如ク装ヒテ係局員ヲ欺罔シ以テ貯金拂戻名義ノ下ニ夫々金五百圓及二百三十圓ヲ騙取シ

第三 大正十三年八月中前記自宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ豫テ實兄星野三男吉ヨリ預リ居タル同人名義レを壹五壹四參郵便貯金通帳ノ受人高欄ニ「五十圓也」「四十八圓也」「五十圓也」「五十圓也」「貳百五十圓也」「五百圓也」ト各表示シ日附印欄ノ各該當部分ニ「大正十二年四月一日」「大正十二年四月六日」「大正十二年四月十一日」「大正十二年五月一日」「大正十二年五月四日」「大正十二年六月一日」ナル各神田錦町郵便局ノ偽造日附ヲ又主務者證印欄ノ各該當部分ニ偽造ニ係ル「神田錦町郵便局長」ナル印章ヲ順次押捺シ各年月日欄ノ各該當部分ニ前示日附印ニ照應スル日附ヲ記入シ最後ニ「現在高證明金八百九十一圓十三錢四厘」ト表示シ日附印欄ノ該當部分ニ「大正十二年七月二十九日」ナル東京貯金局ノ偽造日附印ヲ又主務者證印欄ノ該當部分ニ偽造ニ係ル「貯金局長」ナル印章ヲ押捺シ以テ神田錦町郵便局カ大正十二年四月一日金五十圓ヲ同年四月六日金四十八圓ヲ同年四月十一日金五十圓ヲ同年五月一日金五十圓ヲ同年五月四日金二

百五十圓ヲ同年六月一日金五百圓ヲ各受入レタル旨ノ同郵便局長ノ作成スヘキ文書及東京貯金局カ大正十二年七月二十九日金八百九十一圓十三錢四厘ノ現在高證明ヲ爲シタル旨ノ同貯金局長ノ作成スヘキ文書ヲ偽造シタル上大正十三年九月三十日東京府西ヶ原郵便局ニ於テ右偽造通帳ヲ同局ニ提出行使シ恰モ右通帳ノ記載カ真正ナルモノノ如ク装ヒテ係局員ヲ欺罔シ仍テ貯金拂戻名義ノ下ニ金百圓ヲ騙取シタル外孰レモ右偽造通帳ヲ行使シ前同様同年十月四日金五百圓ヲ同年十月十日金二百九十圓ヲ孰レモ東京府王子郵便局ヨリ各騙取シタルモノナリ

右犯罪事實ハ被告人ノ當公庭ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並ニ押收ニ係ル郵便貯金通帳三通(大正十四年押第八〇〇號ノ一ノ一乃至三)ニ各判示ノ如キ偽造ノ犯跡ヲ存スルニ徴シ其證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第一百五十五條第一項第五十五條ニ偽造公文書行使ノ點ハ同法第一百五十八條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當シ其間順次手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ其最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ所

定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役壹年六月ニ處スヘク押收物件中郵便貯金通帳三通ノ各偽造部分ハ孰レモ公文書偽造行爲ヨリ生シタルモノ又主文掲記ノ「現在高證明」印二個以下ノ物件ハ孰レモ公文書偽造ニ供シ又ハ供セントシタルモノニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルモノト認メ同法第十九條第一項第二號第三號第二項ニ則リ全部之ヲ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

東京地方裁判所第一刑事部

偽 證

判 決

會社員 大 野 治 郎

當 五 十 三 年

右ノ者ニ對スル偽證被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左

ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役參月ニ處ス

理 由

(一) 刑事訴訟法第二百二十條ハ宣誓ノ趣旨ヲ定メタルモノニシテ其文詞ヲ限定シタルモノニ非サレハ同條ノ示ストコロノ文詞其儘ヲ用フルコトヲ用セス從テ宣誓ノ趣旨ニシテ同條所定ノ趣旨ト異ラサル以上即チ違法ナル宣誓タルヲ失ハス(大判、大正一四、六、九日)

(二) 刑事訴訟法第一九九條ニ於テ宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニ對シ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘキ旨規定セルハ豫メ證人ノ注意ヲ喚起シ證人ナシテ眞實ナル事

被告人ハ大正四年五月頃ヨリ奈良市川ノ上突抜町五番地所在ノ故松井直治郎經營ニ係リシ蚊帳綿布商松井商店ニ雇ハレ右直治郎ノ信賴ヲ受ケテ專ラ同商店ノ帳簿記入及會計等ノ事務ニ從事中松井直治郎カ大正十二年十月二十一日ヨリ同年十一月十一日迄ノ間前後七回ニ亘リ京都府相樂郡上狛村大字西作道綿製造業吉川小一郎ヨリ綿千七十七貫六百五十匁ヲ買入レ其代金殘額壹千二百九拾三圓六十二錢ノ支拂ヲ遲帶シ爲メニ大正十三年二月十四日右代金支拂ノ爲メ同日付松井直治郎振出自己引受ニ係ル金額一千二百九十三圓六十二錢支拂地奈良市支拂場所株式會社產業銀行奈良支店満期日同年三月十五日受取人吉川小一郎ナル爲替手形一通(證第一號)ヲ振出タルコトアリテ該手形ヲ被告人ニ於テ代書シタルノミナラス被告亦直治郎ト共ニ直接其

偽 證